

2018（平成 30）年

沖縄県感染症発生動向調査事業報告書

沖縄県保健医療部地域保健課  
沖縄県衛生環境研究所

## はじめに

沖縄県の感染症発生動向調査事業の推進につきましては、一般社団法人沖縄県医師会をはじめ、定点医療機関など関係者の皆様方に多大なご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施しており、感染症の発生動向を継続的に把握し、その分析を行い、情報を公表することによって、感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

2015年以降、我が国において麻疹は排除状態にありますが、本県では以前よりMRワクチンの定期接種率が低い状況にあり、輸入例による麻疹患者の発生が懸念されていました。そのような中、本県では2018年3月20日に4年ぶりとなる麻疹患者が確認され、これを発端とし約2ヶ月間で、患者数101名となる集団発生事例が発生しました。これまでの事例と大きく異なったのは、初発患者が外国人観光客であったことです。初発患者は、感染力が強い時期に県内各地を訪れ、感染は一気に県内全土へ拡大し、健康被害のみならず観光産業へも影響を与えました。さらに、県内で感染した者が県外で発症する事例も多く確認されるなど、麻疹排除国認定後、国内の流行規模としては最大規模となりました。

また近年、全国的に梅毒報告数が増加傾向にありますが、本県の2018年報告数は74件と2000年以降では最多となりました。男女ともに増加傾向にあることから、広く県民や関係機関に保健所で実施している性感染症検査受検の呼びかけや予防啓発を行うなど、対策を進めているところです。

本県としましては、引き続き関係機関と連携を図りながら、患者情報等の収集・解析・情報還元を積極的に行うとともに、本事業の推進と感染症対策の強化に努めて参ります。関係機関の皆様方には、今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

沖縄県保健医療部地域保健課長

## 目 次

感染症法における届出対象疾患一覧	1
I 事業の概要	3
(1) 保健所別定点数（県内）	4
(2) 報告週対応表（2018年）および定点種別定点数（全国）	5
(3) 感染症発生動向調査事業定点医療機関一覧（県内）	6
II 報告の概要	7
1 全数把握感染症（一～五類:87疾患）の報告状況	
(1) つつが虫病 (2) 梅毒 (3) 麻疹 (4) 風疹	7
2 五類定点把握感染症(週報18疾患、月報7疾患)の報告状況	
(1) 週報	
ア インフルエンザ / 小児科定点	8
イ 眼科/基幹定点	8
(2) 月報	
ア 性感染症(STD) / 基幹定点	9
3 週別患者発生状況	
(1) 報告数一覧表（沖縄県）	11
(2) 報告数一覧表（全国）	11
(3) グラフ一覧（沖縄県）	12
(4) グラフ一覧（全国）	15
4 月別患者発生状況	
(1) グラフ一覧（沖縄県）	18
(2) 報告数一覧表（沖縄県）	18
(3) グラフ一覧（全国）	19
(4) 報告数一覧表（全国）	19
III 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況	
1 週報	
(インフルエンザ/小児科定点)	
インフルエンザ	21
RSウイルス感染症	24
咽頭結膜熱（プール熱）	26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28
感染性胃腸炎	30
水痘	32
手足口病	34
伝染性紅斑	36
突発性発疹	38
ヘルパンギーナ	40
流行性耳下腺炎	42

(眼科定点)		
急性出血性結膜炎	・ ・ ・ ・ ・	44
流行性角結膜炎	・ ・ ・ ・ ・	46

(基幹定点)		
細菌性髄膜炎	・ ・ ・ ・ ・	48
無菌性髄膜炎	・ ・ ・ ・ ・	50
マイコプラズマ肺炎	・ ・ ・ ・ ・	52
クラミジア肺炎	・ ・ ・ ・ ・	54
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	・ ・ ・ ・ ・	56

## 2 月報

(性感染症(STD)定点)		
性器クラミジア感染症	・ ・ ・ ・ ・	58
性器ヘルペスウイルス感染症	・ ・ ・ ・ ・	58
尖形コンジローマ感染症	・ ・ ・ ・ ・	58
淋菌感染症	・ ・ ・ ・ ・	58
疾患別患者報告数の年次推移	・ ・ ・ ・ ・	59
性別・年齢別患者報告数	・ ・ ・ ・ ・	60

(基幹定点(薬剤耐性菌) )		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症	・ ・ ・ ・ ・	62
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症	・ ・ ・ ・ ・	64
薬剤耐性緑膿菌感染症	・ ・ ・ ・ ・	66

## IV 資料編

### 1 各表

表1 疾病分類別報告数 (沖縄県)	・ ・ ・ ・ ・	69
表2 疾病分類別報告数 (全国)	・ ・ ・ ・ ・	72
表3 疾病別、年齢別区分による比較 (週報・沖縄県)	・ ・ ・ ・ ・	75
表4 疾病別、年齢別区分による比較 (月報・男女)	・ ・ ・ ・ ・	76
表5 疾病別、年齢別区分による比較 (月報・男性)	・ ・ ・ ・ ・	76
表6 疾病別、年齢別区分による比較 (月報・女性)	・ ・ ・ ・ ・	77

### 2 全数把握感染症 (全医療機関報告・2018年1月1日～12月31日)

(1) 一類感染症	・ ・ ・ ・ ・	78
(2) 二類感染症	・ ・ ・ ・ ・	78
(3) 三類感染症	・ ・ ・ ・ ・	92
(4) 四類感染症	・ ・ ・ ・ ・	93
(5) 五類感染症	・ ・ ・ ・ ・	96

### 3 定点把握対象 五類感染症（週報および月報）

感染症発生動向調査システム 警報・注意報の解説	115
-------------------------	-----

#### (1) 週報

##### (インフルエンザ/小児科定点)

インフルエンザ	116
R S ウイルス感染症	118
咽頭結膜熱（プール熱）	120
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	122
感染性胃腸炎	124
水痘	126
手足口病	128
伝染性紅斑	130
突発性発疹	132
ヘルパンギーナ	134
流行性耳下腺炎	136

##### (眼科定点)

急性出血性結膜炎	138
流行性角結膜炎	140

##### (基幹定点)

細菌性髄膜炎	142
無菌性髄膜炎	144
マイコプラズマ肺炎	146
クラミジア肺炎	148
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	150

#### (2) 月報

##### (性感染症(STD) 定点)

性器クラミジア感染症	152
性器ヘルペスウイルス感染症	153
尖圭コンジローマ感染症	154
淋菌感染症	155

##### (基幹定点(薬剤耐性菌))

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) 感染症	156
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP) 感染症	157
薬剤耐性緑膿菌感染症	158

### 4 病原体検出状況

表1 年別・疾患別検査件数及び病原体検出数（沖縄県：2016-2018年）	159
表2 月別・疾患別検査件数及び病原体検出数（沖縄県：2018年）	160
表3 検出病原体一覧（沖縄県：2018年）	161

## V 参考資料

結核の発生動向（2018年）	163
腸管出血性大腸菌感染症の発生動向（2018年）	165
侵襲性肺炎球菌感染症の発生動向	168
後天性免疫不全症候群（HIV感染者／AIDS患者）の発生動向	170
梅毒の発生動向	172
麻疹の発生動向	175
風疹の発生動向	178

# 感染症法における届出対象疾患一覧

(平成30年5月1日現在)

## 1 医師による届出対象疾患

○届出基準:「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」

### 一類

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| (1) エボラ出血熱      | (5) ペスト     |
| (2) クリミア・コンゴ出血熱 | (6) マールブルグ病 |
| (3) 痘そう         | (7) ラッサ熱    |
| (4) 南米出血熱       |             |

### 二類

- |   |   |
|---|---|
| (8) 急性灰白髄炎(ポリオ)   | (12) 中東呼吸器症候群<br>(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る) |
| (9) 結核  | (13) 鳥インフルエンザ(H5N1)                                   |
| (10) ジフテリア  | (14) 鳥インフルエンザ(H7N9)                                   |
| (11) 重症急性呼吸器症候群<br>(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る) |   |

### 三類

- |                  |            |
|------------------|------------|
| (15) コレラ         | (18) 腸チフス  |
| (16) 細菌性赤痢       | (19) パラチフス |
| (17) 腸管出血性大腸菌感染症 |            |

### 四類

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| (20) E型肝炎   | (41) デング熱                    |
| (21) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)                         | (42) 東部ウマ脳炎                  |
| (22) A型肝炎   | (43) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) |
| (23) エキノコックス症                                       | (44) ニパウイルス感染症               |
| (24) 黄熱   | (45) 日本紅斑熱                   |
| (25) オウム病   | (46) 日本脳炎                    |
| (26) オムスク出血熱  | (47) ハンタウイルス肺症候群             |
| (27) 回帰熱  | (48) Bウイルス病                  |
| (28) キャサヌル森林病                                       | (49) 鼻疽                      |
| (29) Q熱   | (50) ブルセラ症                   |
| (30) 狂犬病  | (51) ペネズエラウマ脳炎               |
| (31) コクシジオイデス症                                      | (52) ヘンドラウイルス感染症             |
| (32) サル痘  | (53) 発しんチフス                  |
| (33) ジカウイルス感染症                                      | (54) ボツリヌス症                  |
| (34) 重症熱性血小板減少症候群<br>(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る) | (55) マラリア                    |
| (35) 腎症候性出血熱  | (56) 野兎病                     |
| (36) 西部ウマ脳炎   | (57) ライム病                    |
| (37) ダニ媒介脳炎   | (58) リッサウイルス感染症              |
| (38) 炭疽   | (59) リフトバレー熱                 |
| (39) チクングニア熱  | (60) 類鼻疽                     |
| (40) つつが虫病  | (61) レジオネラ症                  |
|   | (62) レプトスピラ症                 |
|   | (63) ロッキー山紅斑熱                |

### 五類 全数把握対象

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| (64) アメーバ赤痢   | (75) 侵襲性髄膜炎菌感染症 *直ちに届出            |
| (65) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)   | (76) 侵襲性肺炎球菌感染症                   |
| (66) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症   | (77) 水痘<br>(患者が入院を要すると認められるものに限る) |
| (67) 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)   | (78) 先天性風しん症候群                    |
| (68) 急性脳炎<br>(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) | (79) 梅毒                           |
| (69) クリプトスポリジウム症  | (80) 播種性クリプトコックス症                 |
| (70) クロイツフェルト・ヤコブ病  | (81) 破傷風                          |
| (71) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症   | (82) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症          |
| (72) 後天性免疫不全症候群   | (83) バンコマイシン耐性腸球菌感染症              |
| (73) ジアルジア症   | (84) 百日咳                          |
| (74) 侵襲性インフルエンザ菌感染症   | (85) 風しん *直ちに届出                   |
|   | (86) 麻しん *直ちに届出                   |
|   | (87) 薬剤耐性アシネトバクター感染症              |

診断後直ちに届出

全数報告

七日以内に届出

## 五類 定点把握対象

週報・月報報告

週報・小児科定点	(88) RSウイルス感染症 (89) 咽頭結膜熱 (90) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (91) 感染性胃腸炎 (92) 水痘 (93) 手足口病 (94) 伝染性紅斑 (95) 突発性発しん (96) ヘルパンギーナ (97) 流行性耳下腺炎 (98) インフルエンザ <sup>*1</sup> (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く) (99) 急性出血性結膜炎 (100) 流行性角結膜炎	基幹定点	(101) クラミジア肺炎(オウム病を除く) (102) 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。) (103) マイコプラズマ肺炎 (104) 無菌性髄膜炎 (105) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスに限る) (106) 性器クラミジア感染症 (107) 性器ヘルペスウイルス感染症 (108) 尖圭コンジローマ (109) 淋菌感染症 (110) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (111) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (112) 薬剤耐性緑膿菌感染症	性感染症定点
----------	--	------	--	--------

定点報告

\*1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)の基幹定点の届出対象は入院したもの  
\*2 (105)感染性胃腸炎のうち、病原体がロタウイルスであるものを基幹定点から届け出る

## 新型インフルエンザ等感染症

(113) 新型インフルエンザ

(114) 再興型インフルエンザ

## 指定感染症

該当なし

## 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(115) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)  
(116) 発熱及び発疹又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

届出は管轄保健所へ

## 2 獣医師による届出対象疾患と動物

○届出基準:「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第13条第1項の規定に基づく届出の基準について」

## 感染症法第13条に基づく獣医師が届出を行う感染症と動物

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| (1) エボラ出血熱(サル)  | (6) ウエストナイル熱(鳥類に属する動物)              |
| (2) 重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る(イタチアナグマ、タヌキ及びハクビシン)) | (7) エキノコックス症(犬)                     |
| (3) ペスト(プレリドッグ)   | (8) 結核(サル)                          |
| (4) マールブルグ病(サル)   | (9) 鳥インフルエンザ(H5N1またはH7N9(鳥類に属する動物)) |
| (5) 細菌性赤痢(サル)(9) 鳥インフルエンザ(H5N1)(鳥類に属する動物)                   | (10) 中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)              |

届出は管轄保健所へ

# I 事業の概要



## I 事業の概要

沖縄県は 1980 年 7 月から県医師会および定点医療機関の協力のもとに全県的な感染症の報告体制を構築し、疾患の流行状況の把握に努めるべく感染症サーベイランス事業を、厚生省（現厚生労働省）より早く開始した。

厚生省は、1981 年 7 月から感染症の実態を的確に把握するために全国的な感染症サーベイランス事業を開始した。さらに、1987 年 1 月から新たに「結核・感染症サーベイランス事業」となり、全国の保健所、都道府県（指定都市）、厚生省（現厚生労働省）間がコンピュータオンラインシステムで結ばれ、結核および感染症の情報が迅速かつ的確に利用できるようになった。

感染症サーベイランス事業は、1998 年より感染症発生動向調査事業となり、さらに「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」とする。）が 1999 年 4 月から施行され、感染症対策の強化が行われてきた。

2006 年 4 月には、新しい全国オンラインシステムである感染症サーベイランスシステム（NESID）が稼働している。

2018 年末までに届出対象となる感染症は、一類感染症 7 疾患、二類感染症 7 疾患、三類感染症 5 疾患、四類感染症 44 疾患、五類感染症 49 疾患（全数把握 24 疾患、定点把握 25 疾患）、新型インフルエンザ等が 2 疾患、指定感染症 0 疾患（該当なし）、法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症が 2 疾患の計 116 疾患である。なお、百日咳が 2018 年 1 月 1 日より五類感染症（定点把握疾患）から五類感染症（全数把握疾患）に変更され、急性弛緩性麻痺が 2018 年 5 月 1 日より五類感染症（全数把握疾患）に追加された。

これらの感染症は、患者発生状況を医療機関が所管保健所に報告し、各保健所からの報告を県地域保健課で集約して国に報告している。感染症情報の迅速な提供を図るための施設として感染症情報センターが衛生環境研究所に設置され、データ収集及び提供を行っている。県地域保健課および各保健所においては、感染症情報センターで処理された集計データおよび全国の還元データを利用し、各関係機関に情報提供をするとともに、感染症の流行状況の把握を行っている（次頁「感染症発生動向調査事業～患者情報の流れ～」を参照）。

また、衛生環境研究所では、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い、得られた結果を各関係機関に情報提供しているが、2016 年 4 月の感染症法の一部改正法の施行に伴い、病原体情報の収集体制が強化された。

〔沖縄県感染症情報センター ウェブサイト〕

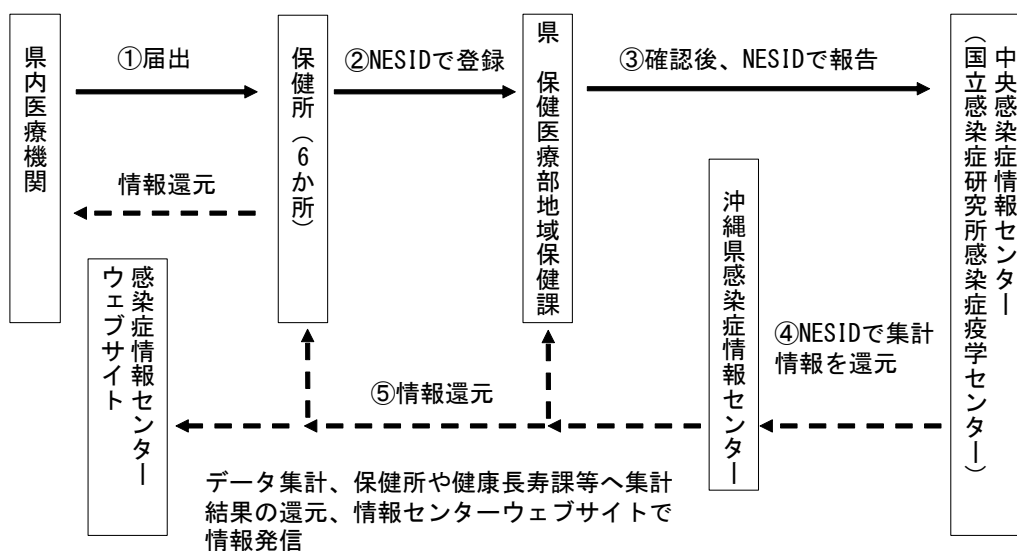
<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>

（定点医療機関）

2018 年末時点の県内の定点医療機関は、小児科 34 定点、インフルエンザ 58 定点（同小児科 34 定点＋内科 24 定点）、眼科 9 定点、性感染症 12 定点、基幹 7 定点の合

計 86 定点である。

## 感染症発生動向調査事業 ～患者情報の流れ～



(1) 県内の保健所別定点数 (2018 年 12 月 31 日時点)

保 健 所 名	小児科 定点 (ア)	内科 定点 (イ)	インフル エンザ定点 (ア)+(イ)	眼科 定点	性感染症 (STD) 定点	基幹 定点	医療 機関数
①北部保健所	3	2	5	1	1	1	6
②中部保健所	12	8	20	2	4	2	23
③那覇市保健所	7	5	12	1	3	1	11
④南部保健所	8	6	14	3	4	1	16
⑤宮古保健所	2	2	4	1	0	1	5
⑥八重山保健所	2	1	3	1	0	1	3
合 計	34	24	58	9	12	7	64

## (2) 報告週対応表 (2018年) および定点種別定点数 (全国)

			週 報				月 報	
			インフルエ ンザ定点	小児科 定点	眼科定点	基幹定点	STD定点	基幹定点
月	週	平 均 期 間	4,940	3,153	696	480	984	481
1月	1	1/1 ～ 1/7	4,908	3,123	696	480	982	479
	2	1/8 ～ 1/14	4,948	3,160	697	480		
	3	1/15 ～ 1/21	4,947	3,159	699	480		
	4	1/22 ～ 1/28	4,952	3,162	699	480		
	5	1/29 ～ 2/4	4,952	3,163	698	480		
2月	6	2/5 ～ 2/11	4,945	3,159	697	480	981	479
	7	2/12 ～ 2/18	4,951	3,161	699	480		
	8	2/19 ～ 2/25	4,950	3,163	699	480		
	9	2/26 ～ 3/4	4,951	3,162	698	480		
3月	10	3/5 ～ 3/11	4,948	3,159	695	480	982	480
	11	3/12 ～ 3/18	4,949	3,161	698	480		
	12	3/19 ～ 3/25	4,949	3,163	697	480		
	13	3/26 ～ 4/1	4,945	3,161	700	478		
4月	14	4/2 ～ 4/8	4,946	3,159	699	480	986	483
	15	4/9 ～ 4/15	4,954	3,162	699	480		
	16	4/16 ～ 4/22	4,954	3,161	698	478		
	17	4/23 ～ 4/29	4,928	3,149	695	481		
	18	4/30 ～ 5/6	4,907	3,130	686	481		
5月	19	5/7 ～ 5/13	4,956	3,162	699	480	984	482
	20	5/14 ～ 5/20	4,950	3,159	699	481		
	21	5/21 ～ 5/27	4,950	3,158	700	481		
	22	5/28 ～ 6/3	4,954	3,162	700	481		
6月	23	6/4 ～ 6/10	4,947	3,161	700	481	988	482
	24	6/11 ～ 6/17	4,953	3,165	699	481		
	25	6/18 ～ 6/24	4,952	3,164	700	481		
	26	6/25 ～ 7/1	4,948	3,163	699	481		
7月	27	7/2 ～ 7/8	4,951	3,164	696	481	990	481
	28	7/9 ～ 7/15	4,936	3,154	695	480		
	29	7/16 ～ 7/22	4,940	3,157	695	481		
	30	7/23 ～ 7/29	4,942	3,151	696	481		
	31	7/30 ～ 8/5	4,937	3,151	698	481		
8月	32	8/6 ～ 8/12	4,811	3,079	678	481	985	483
	33	8/13 ～ 8/19	4,840	3,073	687	481		
	34	8/20 ～ 8/26	4,901	3,125	691	481		
	35	8/27 ～ 9/2	4,934	3,146	696	481		
9月	36	9/3 ～ 9/9	4,948	3,161	695	480	987	482
	37	9/10 ～ 9/16	4,942	3,149	695	481		
	38	9/17 ～ 9/23	4,932	3,148	698	481		
	39	9/24 ～ 9/30	4,949	3,161	698	481		
10月	40	10/1 ～ 10/7	4,947	3,161	695	481	984	483
	41	10/8 ～ 10/14	4,953	3,165	697	481		
	42	10/15 ～ 10/21	4,956	3,162	698	481		
	43	10/22 ～ 10/28	4,957	3,164	698	481		
	44	10/29 ～ 11/4	4,952	3,162	698	481		
11月	45	11/5 ～ 11/11	4,948	3,163	698	482	987	481
	46	11/12 ～ 11/18	4,957	3,162	698	481		
	47	11/19 ～ 11/25	4,954	3,162	698	481		
	48	11/26 ～ 12/2	4,955	3,161	698	481		
12月	49	12/3 ～ 12/9	4,957	3,160	698	481	982	482
	50	12/10 ～ 12/16	4,956	3,164	697	481		
	51	12/17 ～ 12/23	4,950	3,158	697	481		
	52	12/24 ～ 12/30	4,901	3,131	685	481		

## (3) 感染症発生動向調査事業 定点医療機関一覧

平成30年12月30日現在

	保健所名	医療機関名	住 所	全 86定点 (定点名)	34 24 9 7 12				
					小児科	内科	眼科	基幹	STD
1	北部保健所	県立北部病院	名護市大中2-12-3	小児科、内科、基幹	●	●		●	
2		儀保小児科内科医院	名護市大西2-4-32	小児科	●				
3		今帰仁診療所	今帰仁村字謝名139	小児科、内科	●	●			
4		さくら眼科	名護市伊差川310-1	眼科			●		
5		なかち泌尿器科クリニック	名護市大中5-4-50	STD(泌)					●
6		辻眼科	名護市宮里1-26-11	眼科		2018年3月31日まで			
1	中部保健所	医療法人ユカア沖縄 かなな病院	宜野座村字漢那469	内科		●			
2		石川医院	うるま市石川2-21-5	内科		●			
3		医療法人きんクリニック	金武町字金武94	内科		●			
4		岸本内科クリニック	沖縄市登川1-1-24	内科		●			
5		愛聖クリニック	沖縄市高原5-15-11	内科		●			
6		よなみね内科	宜野湾市普天間2-4-5	内科		●			
7		ライフクリニック長浜	読谷村字長浜1530-1	内科		●			
8		ちばなクリニック	沖縄市字知花6-25-15	小児科、内科、STD(泌)	●	●			●
9		県立中部病院	うるま市宮里281	小児科、基幹	●			●	
10		みやぎ小児科クリニック	宜野湾市我如古447	小児科	●				
11		嘉数医院	沖縄市諸見里1-26-2	小児科	●				
12		大嶺医院	うるま市田場1417	小児科	●				
13		山田小児科内科医院	うるま市石川東山1-19-11	小児科	●				
14		もりなが内科・小児科クリニック	北谷町美浜2丁目7-4	小児科	●				
15		伊元小児科医院	沖縄市字泡瀬4-39-12	小児科	●				
16		そけん小児科	読谷村字波平2459	小児科	●				
17		愛知クリニック	宜野湾市字愛知16-1	小児科	●				
18		いとむクリニック	宜野湾市伊佐1-10-9	小児科	●				
19		宮里眼科	うるま市石川東山1-22-2	眼科			●		
20		ひかり眼科	宜野湾市字愛知45	眼科			●		
21		中頭病院	沖縄市知花6-25-5	基幹				●	●
22		うえむら病院	中城村字南上原803-3	小児科、STD(産)	●				●
23		中部徳洲会病院	北中城村アワセ土地区画整理事業地内2街区1	STD(産)					●
1	南部保健所	浦添総合病院	浦添市伊祖4-16-1	内科		●			
2		同仁病院	浦添市城間1-37-12	内科		●			
3		みゆき小児科	浦添市字前田3-3-8-103号	小児科	●				
4		たから小児科医院	浦添市大平1-36-5 おながハイツ	小児科	●				
5		ティーダこどもクリニック	浦添市城間4-3-10-1	小児科	●				
6		比嘉眼科病院	浦添市城間4-34-20	眼科			●		
7		県立南部医療センター・こども医療センター	南風原町字新川118-1	小児科、内科、基幹、STD(泌)	●	●		●	●
8		南部徳洲会病院	八重瀬町字外間171-1	内科、STD(泌)		●			●
9		豊見城中央病院	豊見城市字上田25	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
10		わんぱくクリニック	南風原町字津嘉山1674	小児科	●				
11		与那原中央病院	与那原町字与那原2905	内科		●			
12		ひめゆりクリニック	糸満市字伊原107-1	小児科	●				
13		あおぞら小児科	与那原町字上与那原340-1	小児科	●				
14		安里眼科	糸満市字潮平722	眼科			●		
15		はえばる眼科医院	南風原町字兼城725	眼科			●		
16		パークレーレディースクリニック	浦添市当山2-2-11	STD(産)					●
1	宮古保健所	県立宮古病院	宮古島市平良字東仲宗根807	小児科、基幹	●			●	
2		ひが小児科医院	宮古島市平良西里781-5	小児科	●				
3		池村内科医院	宮古島市平良字東仲宗根194	内科		●			
4		下地眼科医院	宮古島市平良下里577-1	眼科			●		
5		きしもと内科医院	宮古島市平良字下里1555-1	内科・消化器内科		●			
1	保八重山保健所	県立八重山病院	石垣市字大川732	小児科、内科、基幹	●	●		●	
2		よしもとこどもクリニック	石垣市登野城1024-1	小児科	●				
3	那覇市保健所	宮良眼科医院	石垣市字大川140	眼科			●		
1		那覇市立病院	那覇市古島2-31-1	小児科、内科、基幹、STD(産)	●	●		●	●
2		沖縄赤十字病院	那覇市与儀1-3-1	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
3		沖縄協同病院	那覇市古波蔵4-10-55	小児科、内科	●	●			
4		西町クリニック	那覇市西3-4-1 アーバンビュー西町	小児科、内科	●	●			
5		かおる小児科	那覇市字国場724-3 メゾンセブン101	小児科	●				
6		宮城小児科医院	那覇市牧志2-16-5	小児科	●				
7		安謝小児クリニック	那覇市安謝215-1 やしま産業ビル1・2F	小児科	●				
8		真玉橋クリニック	那覇市識名1316-3	内科		●			
9		石川眼科医院	那覇市泉崎2-3-20	眼科			●		
10		大浜第一病院	那覇市天久1000	STD(泌)					●
11		国場十字路医院	那覇市字仲井真272-1 鉢嶺リースビル1F	内科		2018年1月7日まで			

## Ⅱ 報告の概要

## Ⅱ 報告の概要

2018（平成 30）年、本県での報告は、一類感染症が 0 人、二類感染症が 363 人、三類感染症が 22 人、四類感染症が 47 人、五類感染症が 52,827 人（全数把握疾患：463 人、定点把握疾患：52,364 人）の報告があり、対象感染症 116 疾患の合計 53,259 人であった。

五類感染症定点把握疾患は、週単位報告（週報）と月単位報告（月報）に大別される。週報はインフルエンザ定点、小児科定点、基幹定点報告に、月報は性感染症（STD）定点と基幹定点（薬剤耐性菌）報告に細分類される。

週報は、2018（平成 30）年 1 月 1 日～2018（平成 30）年 12 月 30 日までの 52 週分である。月報は、2018（平成 30）年 1 月 1 日～12 月 31 日までの 12 ヶ月分である。

### 1 全数把握感染症（一～五類：87 疾患）の報告状況

（Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及び 2 全数把握感染症（全医療機関報告）を参照）

2018 年県内で報告された全数把握感染症は 29 疾患で 895 件である。

注目された感染症は以下のとおりである。

#### （1）つつが虫病（四類感染症）

2018 年の報告数は 3 人で、前年と比べて 2 人減少した。報告数はすべて宮古保健所管内からであった。性別では男性が 2 人、女性が 1 人であり、すべて 70 歳以上であった。3 人ともツツガムシやダニ等からの感染と推測されている。

#### （2）梅毒（五類感染症）

梅毒の報告数は 2011 年以降増えており、2018 年は 74 人と 2000 年以降で最多となった。男性が最も多く 85 %（63 人）であり女性は少数であるが、女性の報告数は 2014 年以降増加している。年代別では、20 代と 30 代で増加している。

#### （3）麻疹（五類感染症）

2018 年は外国人観光客を発端としたアウトブレイクがあり、報告数は 101 人と 2008 年以降で最多であった。性別では男性が 58 %（59 人）であり、年代別では 30 代が最も多く 31 人であり、20 代が 23 人、10 歳未満が 20 人であった。

#### （4）風疹（五類感染症）

2018 年の報告数は 12 人であり、2017 年の 0 人から増加した。性別では男性が 7 人であり、年代別では 40 代が最も多く 6 人であった。感染地域別では県内が 8 人であった。

## 2 五類定点把握感染症(週報18疾患、月報7疾患)の報告状況

(Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及びⅢ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況を参照)

### (1) 週報

#### ア インフルエンザ／小児科定点

(Ⅱ 3. (1)～(4) 報告数一覧表及び週別患者発生状況グラフ一覧を参照)

2018 年県内で報告された、インフルエンザ及び小児科定点対象の疾患を年間定点当たり報告数が多かった順に並べると、上位 4 疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌感染症であった。

2018 年の本県におけるインフルエンザ患者の報告数は 32,178 人、定点当たりの報告数は 563.15 人であり、前年と比べて 20.5 減少した。2017/2018 シーズン(2017 年第 36 週～2018 年第 35 週)に医療機関から提出されたインフルエンザウイルスの検出状況は、AH1pdm09\_37 例、AH3 亜型 58 例、B 型 43 例(ビクトリア系統 0 例、山形系統 43 例)であった。

感染性胃腸炎の 2017/2018 シーズン報告数は 5,926 人、定点当たり報告数は、174.30 人であり、前年と比べて 76.37 減少した。

手足口病の報告数は 2,810 人、定点当たり報告数 82.63 人であり、前年と比べて 18.45 増加した。1 歳が最も多く全体の 42.7 %であった。

A 群溶血性レンサ球菌感染症の報告数は 2,555 人、定点当たり報告数は 75.15 人であり、前年と比べて 23.33 増加した。

#### イ 眼科／基幹定点

(Ⅱ 3. (1)～(4) 報告数一覧表及び週別患者発生状況グラフ一覧を参照)

県内の急性出血性結膜炎(AHC)の報告数は 13 人、定点当たり報告数は 1.44 人であり、前年と比べて 0.33 増加した。県全体で警報基準を上回ることはなかった。

流行性角結膜炎(EKF)の報告数は 1,024 人、定点当たり 114.00 人であり、前年と比べて 0.78 増加した。

基幹定点対象の疾患では、無菌性髄膜炎が最も多く報告された。報告数は 61 人、定点当たり 8.73 人であり、前年と比べて 1.98 減少した。

その他の基幹定点対象疾患では、前年と比べて増加したのが細菌性髄膜炎(定点当たり報告数 4.43 人、前年比 1.00)、クラミジア肺炎(定点当たり報告数 0.56、前年比 0.13)、減少したのは、マイコプラズマ肺炎(定点当たり報告数 6.66 人、前年比 15.34)及び感染性胃腸炎(ロタウイルス)(定点当たり報告数 6.14 人、前年比 6.43)であった。

## (2) 月報

### ア 性感染症(STD)／基幹定点

(Ⅱ 4. (1)～(4) 月別患者発生状況グラフ一覧及び報告数一覧表を参照)

2018 年県内で報告された性感染症 (STD) 定点対象疾患の報告数は、性器クラミジア感染症が 228 人 (定点当たり報告数 19.01 人、前年比 3.08 増加)、性器ヘルペスウイルス感染症は 109 人 (定点当たり報告数 9.08 人、前年比 3.72 増加)、尖形コンジローマが 48 人 (定点当たり報告数 4.00 人、前年比 1.86 増加)、淋菌感染症は 24 人 (定点当たり報告数 1.99 人、前年比 1.47 減少) であり、淋菌感染症を除く疾患が増加した。

基幹定点対象疾患では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症が報告数 509 人 (定点当たり報告数 72.71 人、前年比 9.7 増加) と最も多かった。

ペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) 感染症の 2018 年の報告数は 122 人 (定点あたり報告数 17.45 人、前年比 2.88 増加) と増加し、全国を上回った。

薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は 0 人であった。





### 3 週別患者発生状況

#### (1) 報告数一覧表(沖縄県)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人／定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人／定点／週)	
		2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年
小児科 定点	インフルエンザ	33,811	32,178	583.65	563.15	11.22	10.83
	RSウイルス感染症	2,315	2,494	68.09	73.35	1.31	1.41
	咽頭結膜熱	1,266	970	37.24	28.56	0.72	0.55
	A群溶血性レンサ球菌感染症	1,762	2,555	51.82	75.15	1.00	1.45
	感染性胃腸炎	6,798	6,616	199.94	194.59	3.85	3.74
	水痘	800	897	23.53	26.36	0.45	0.51
	手足口病	2,182	2,810	64.18	82.63	1.23	1.59
	伝染性紅斑	60	269	1.76	7.95	0.03	0.15
	突発性発疹	565	747	16.62	21.92	0.32	0.42
	ヘルパンギーナ	416	368	12.24	10.88	0.24	0.21
	流行性耳下腺炎	223	197	6.56	5.91	0.13	0.11
眼科 定点	急性出血性結膜炎	10	13	1.11	1.45	0.02	0.03
	流行性角結膜炎	1,019	1,024	113.22	114.00	2.18	2.19
基幹 定点	細菌性髄膜炎	24	31	3.43	4.43	0.07	0.09
	無菌性髄膜炎	75	61	10.71	8.73	0.21	0.17
	マイコプラズマ肺炎	154	47	22.00	6.66	0.42	0.13
	クラミジア肺炎	3	4	0.43	0.56	0.01	0.01
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	88	43	12.57	6.14	0.24	0.12

#### (2) 報告数一覧表(全国)

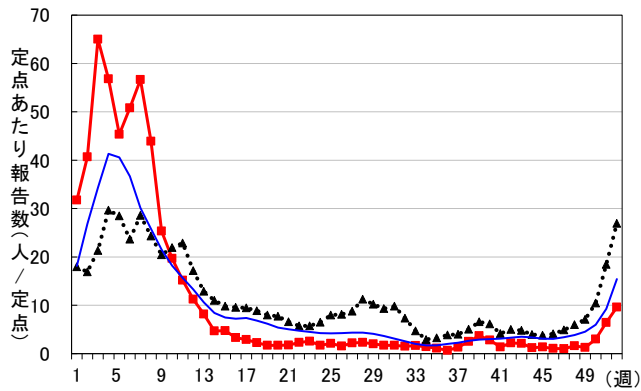
	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人／定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人／定点／週)	
		2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年
小児科 定点	インフルエンザ	1,614,999	1,898,941	326.66	384.40	6.28	7.39
	RSウイルス感染症	139,557	120,743	44.21	38.29	0.85	0.74
	咽頭結膜熱	92,269	73,959	29.23	23.46	0.56	0.45
	A群溶血性レンサ球菌感染症	367,325	358,371	116.35	113.66	2.24	2.19
	感染性胃腸炎	871,927	850,138	276.19	269.63	5.31	5.19
	水痘	60,162	55,480	19.06	17.60	0.37	0.34
	手足口病	358,806	122,725	113.65	38.92	2.19	0.75
	伝染性紅斑	12,436	49,174	3.94	15.60	0.08	0.30
	突発性発疹	73,303	71,177	23.22	22.57	0.45	0.43
	ヘルパンギーナ	86,045	99,304	27.26	31.50	0.52	0.61
	流行性耳下腺炎	77,884	23,684	24.67	7.51	0.47	0.14
眼科 定点	急性出血性結膜炎	441	560	0.63	0.80	0.01	0.02
	流行性角結膜炎	26,736	30,631	38.47	44.01	0.74	0.85
基幹 定点	細菌性髄膜炎	483	506	1.01	1.05	0.02	0.02
	無菌性髄膜炎	955	806	2.00	1.68	0.04	0.03
	マイコプラズマ肺炎	8,366	5,598	17.54	11.66	0.34	0.22
	クラミジア肺炎	263	144	0.55	0.30	0.01	0.01
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4,991	3,234	10.46	6.74	0.20	0.13

### (3) グラフ一覧(沖縄県)

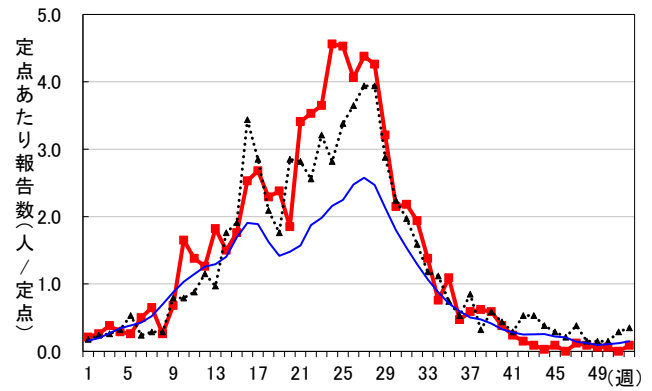
— 2018年    ... 2017年    — 過去5年間の平均

\*過去5年間の平均：前週、当該週、後週の合計15週の平均

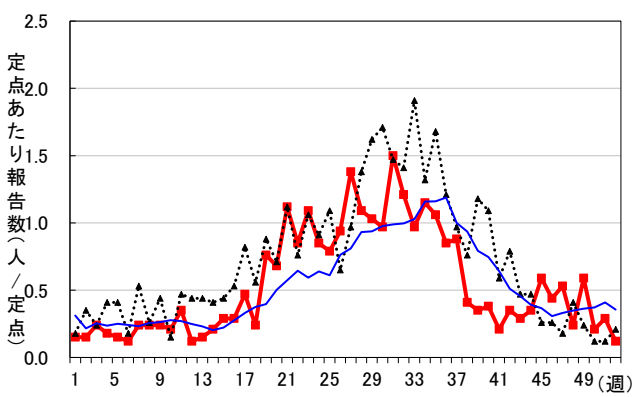
インフルエンザ



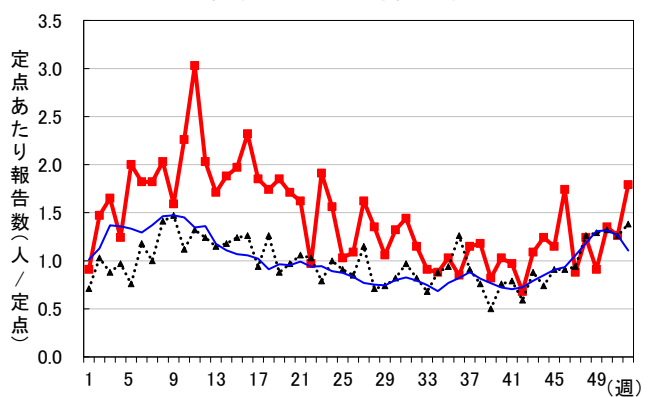
RSウイルス感染症



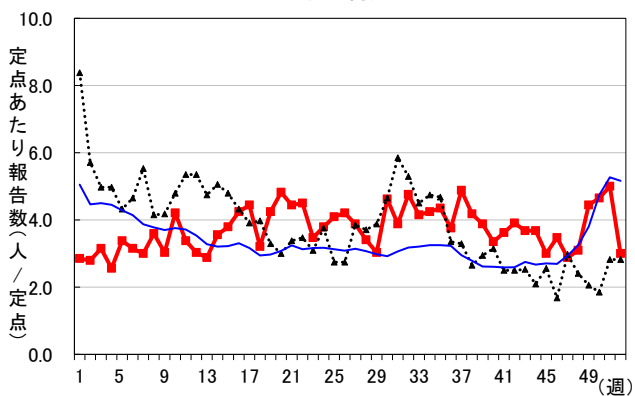
咽頭結膜熱



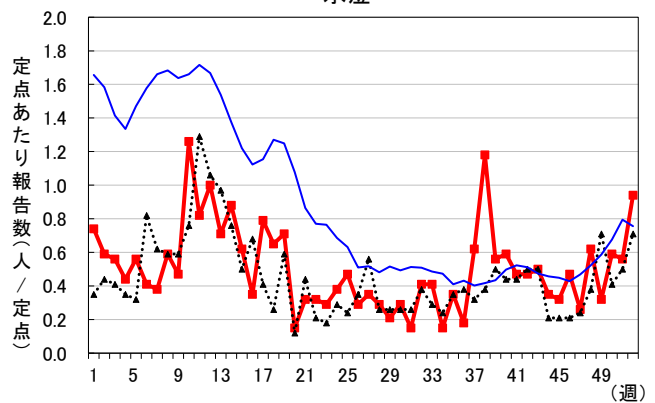
A群溶血性レンサ球菌感染症



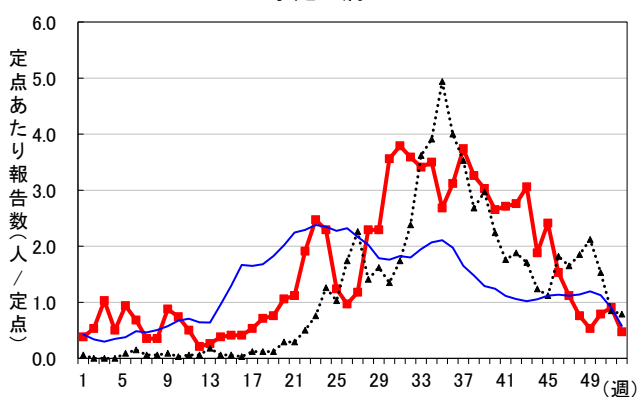
感染性胃腸炎



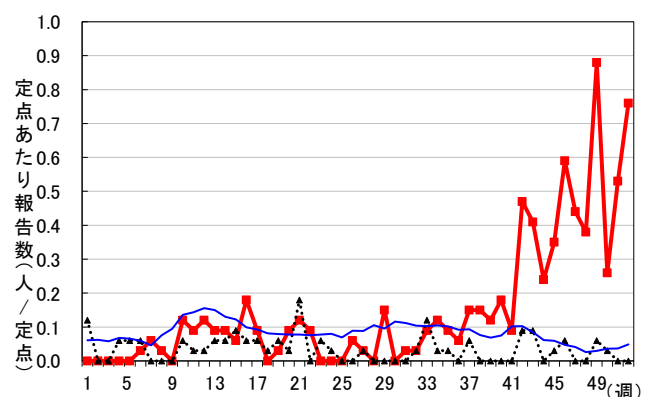
水痘

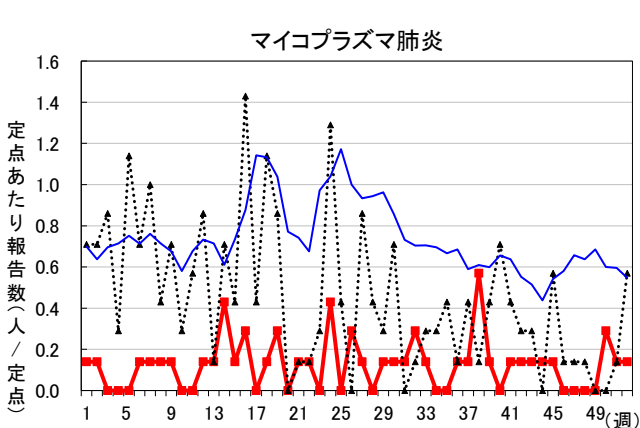
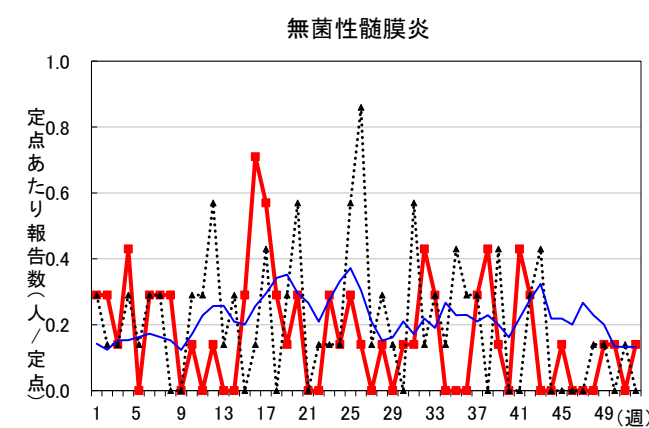
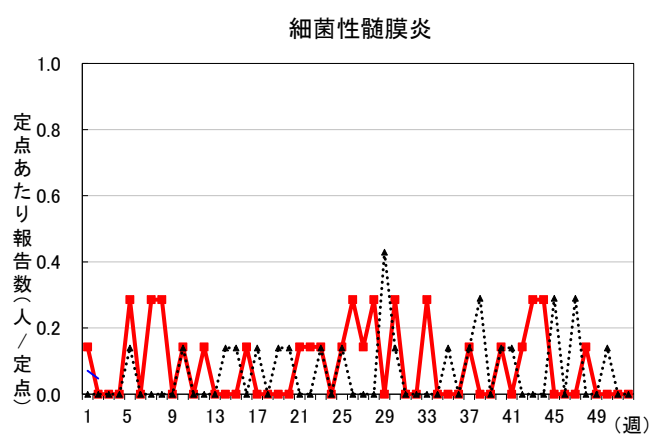
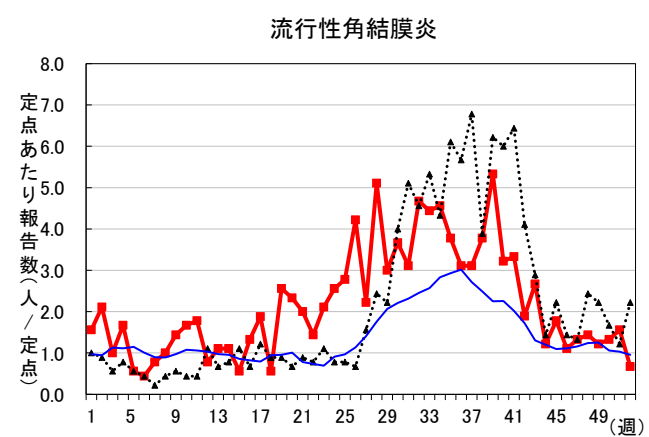
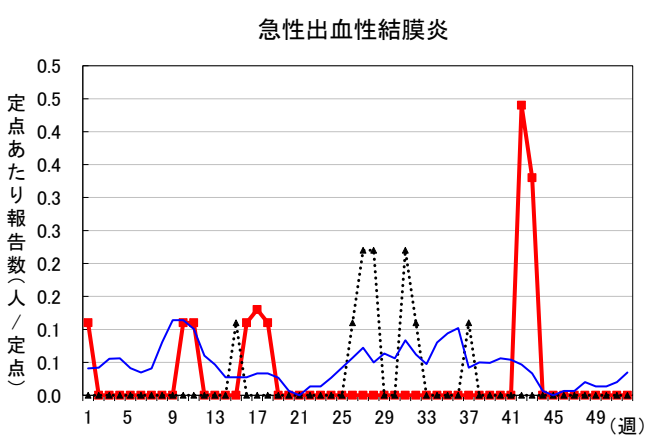
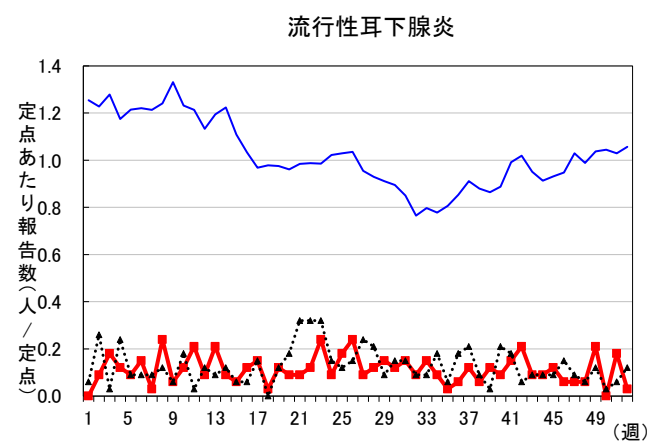
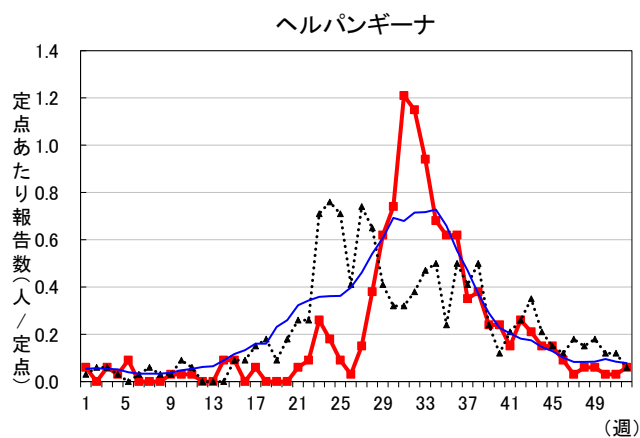
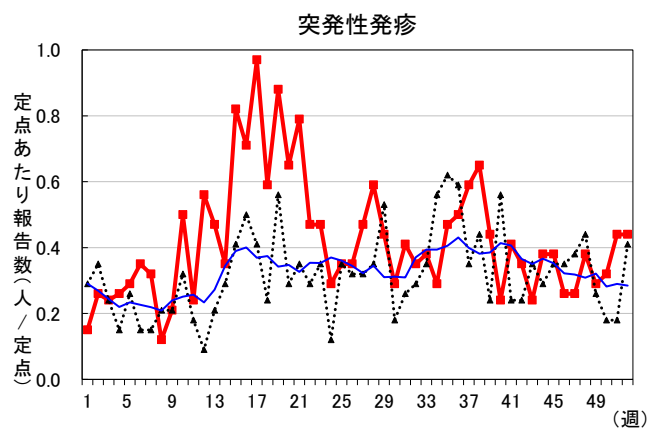


手足口病

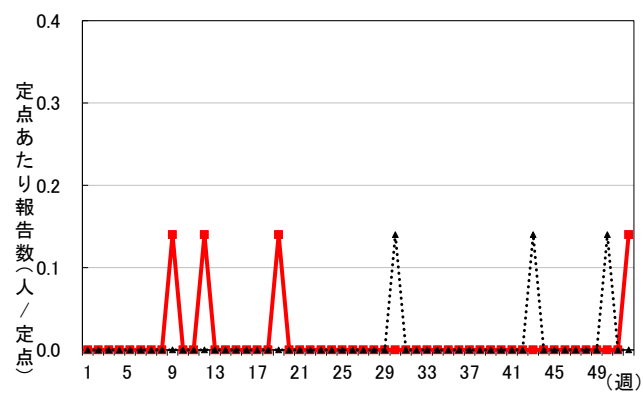


伝染性紅斑

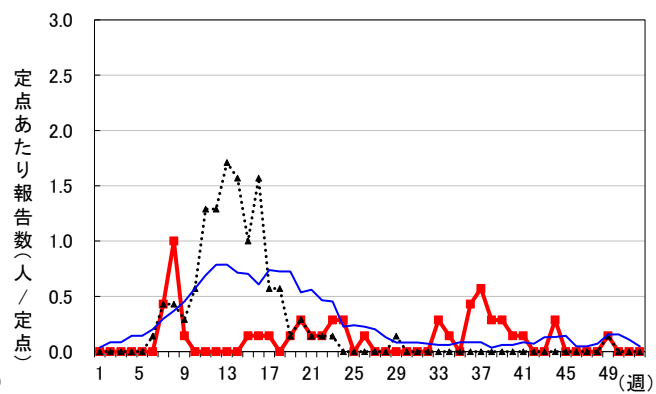




クラミジア肺炎



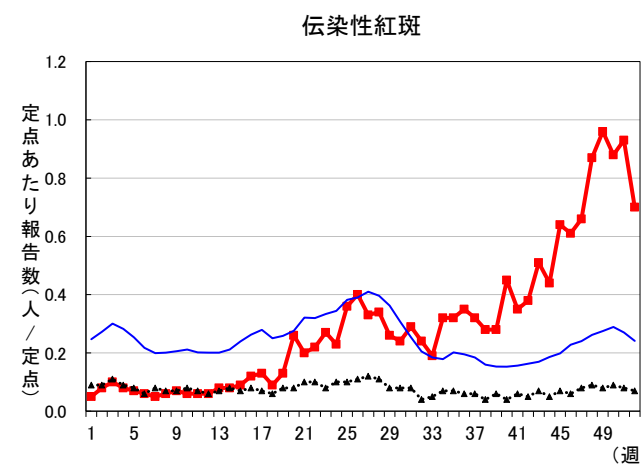
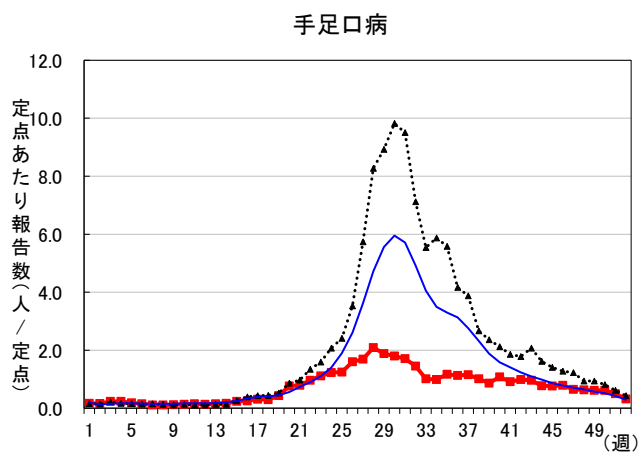
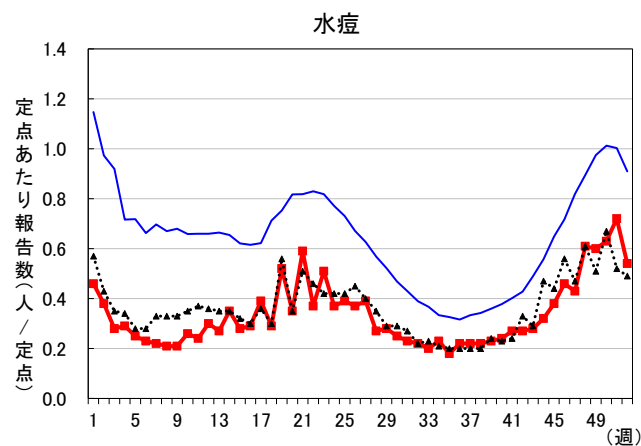
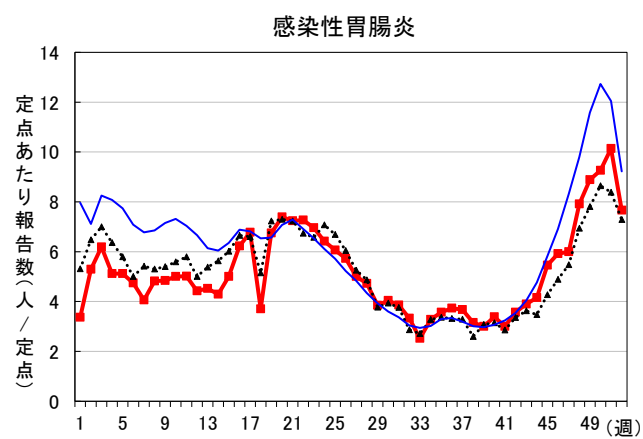
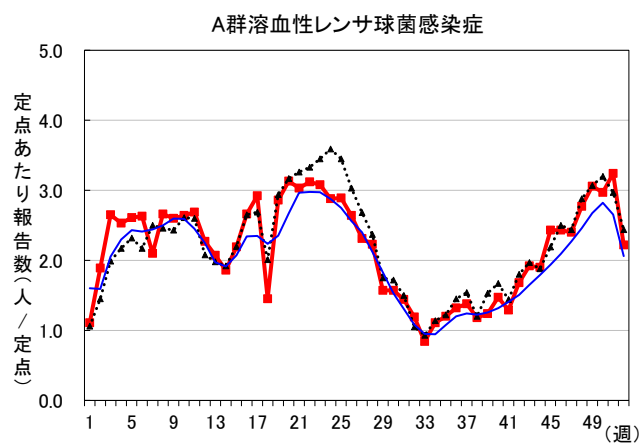
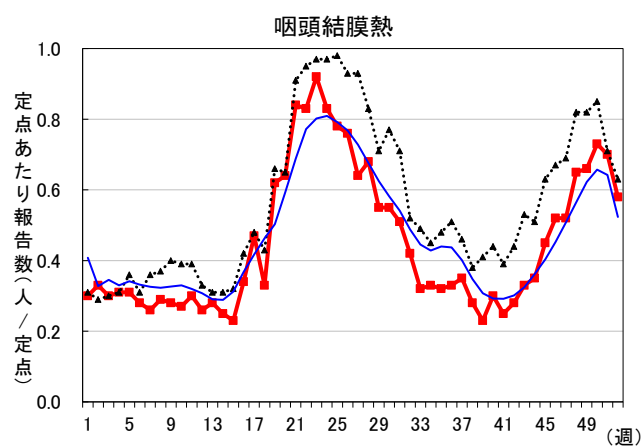
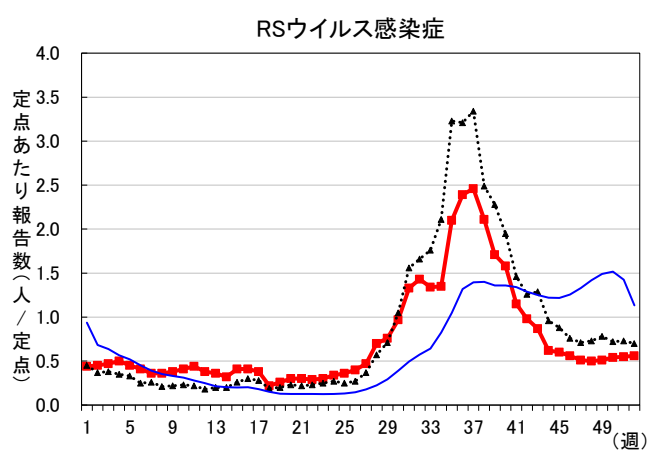
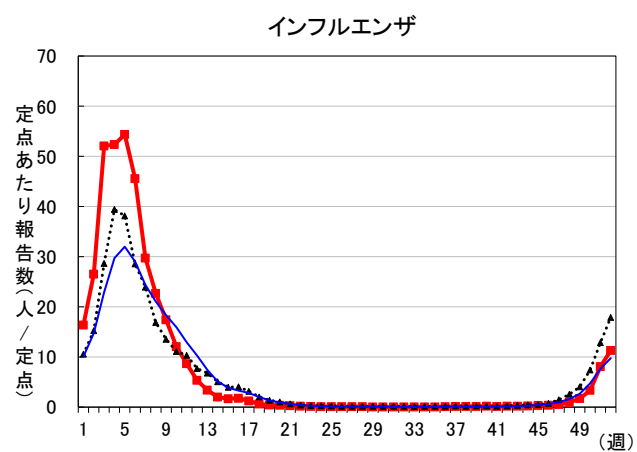
感染性胃腸炎(ロタウイルス)



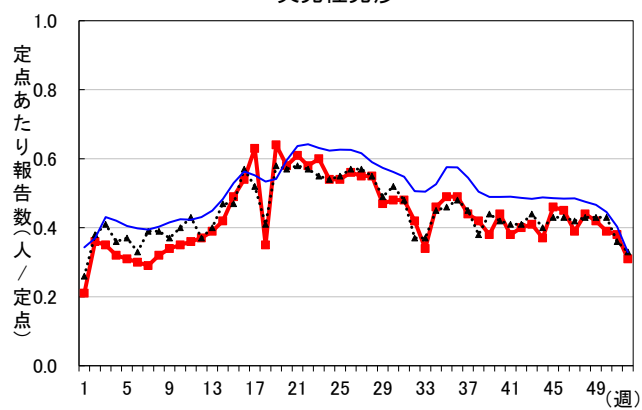
### (3) グラフ一覧(全国)

— 2018年    ..... 2017年    — 過去5年間の平均

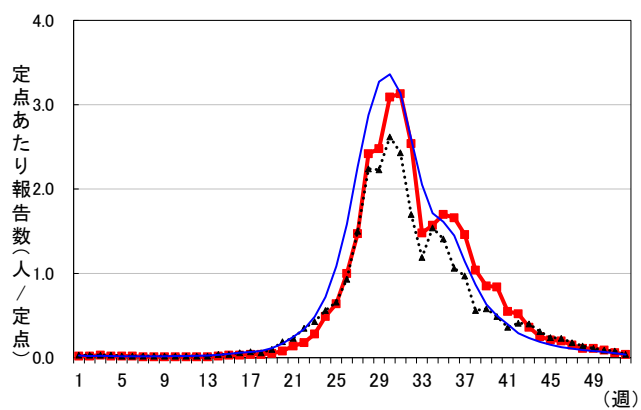
\*過去5年間の平均：前週、当該週、後週の合計15週の平均



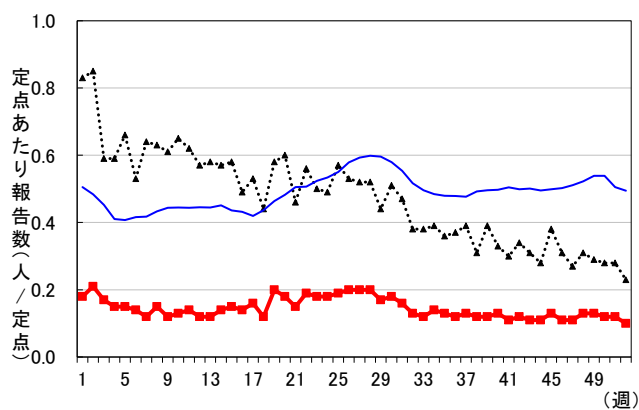
突発性発疹



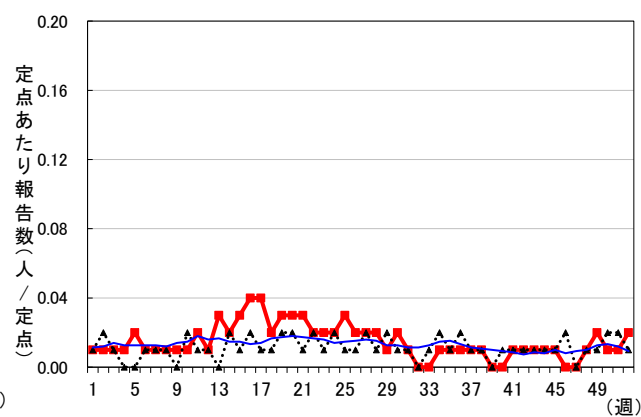
ヘルパンギーナ



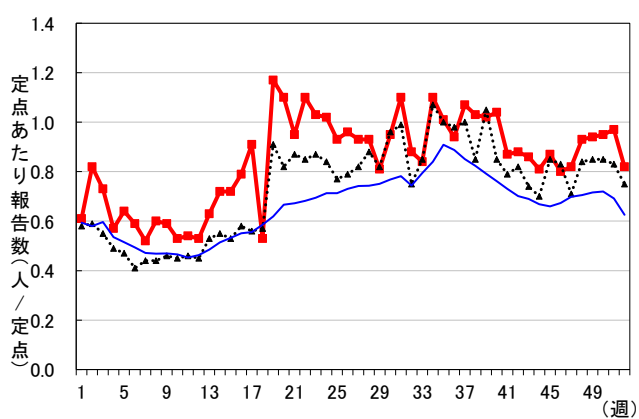
流行性耳下腺炎



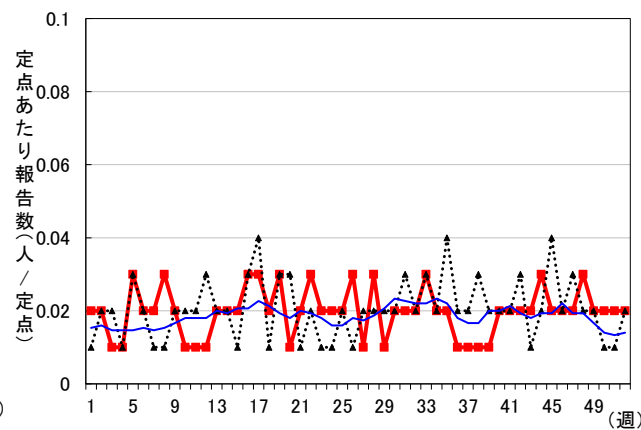
急性出血性結膜炎



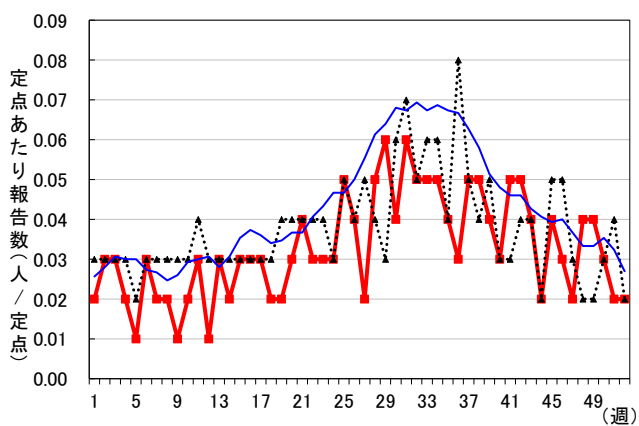
流行性角結膜炎



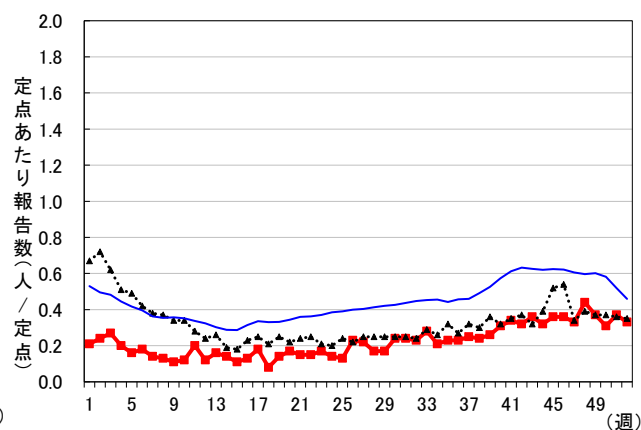
細菌性髄膜炎



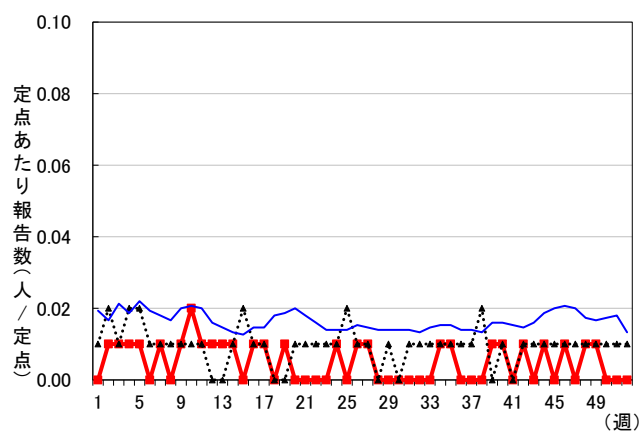
無菌性髄膜炎



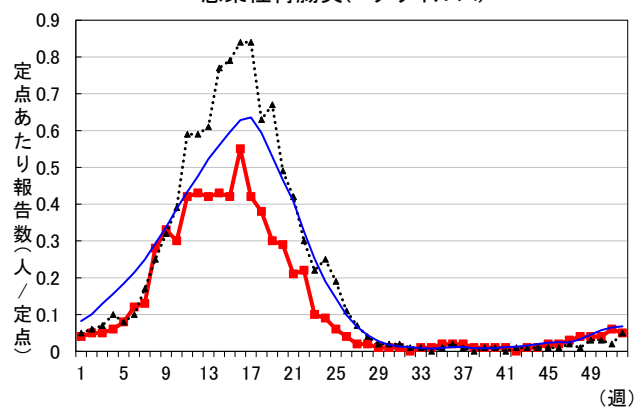
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

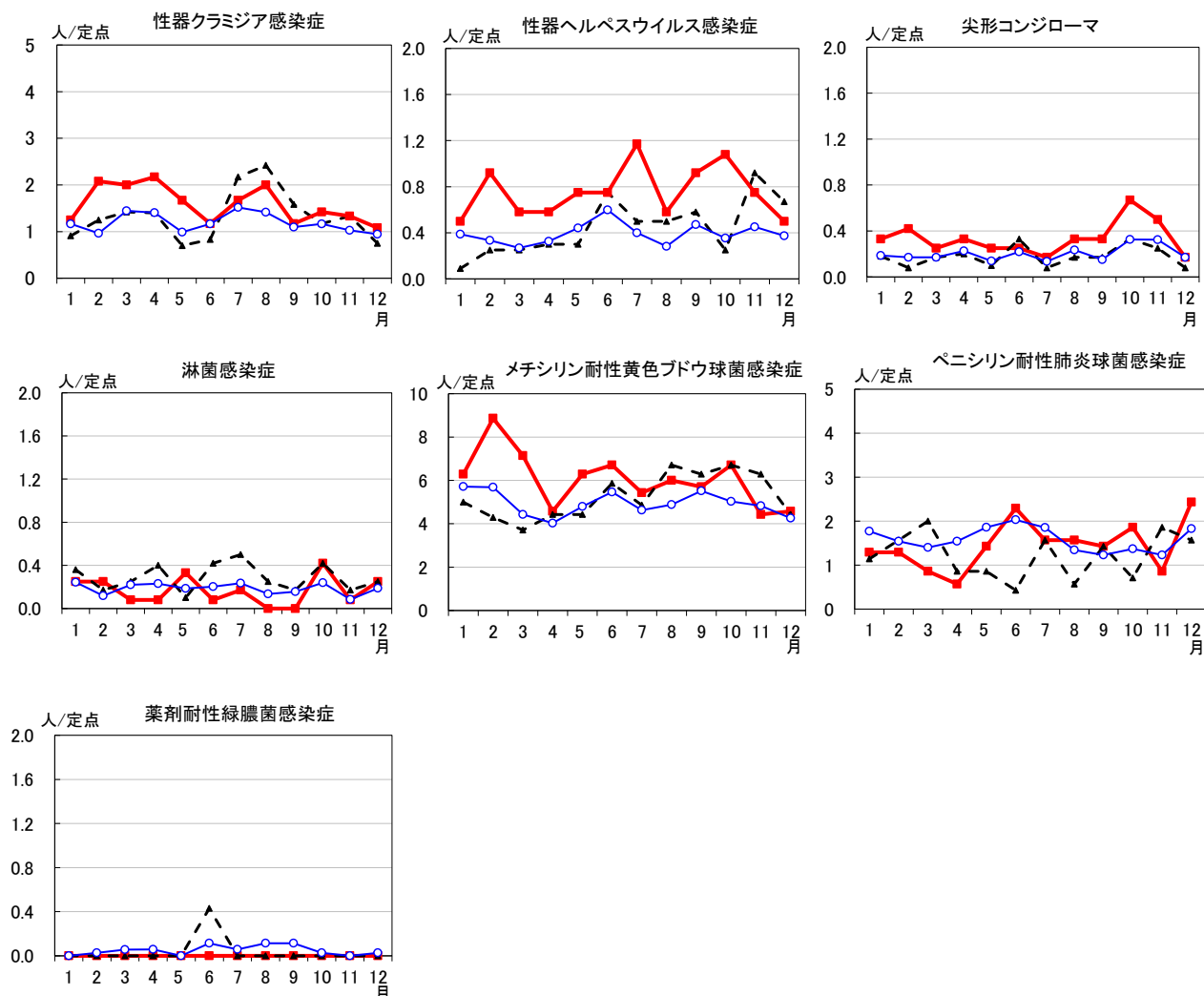




## 4. 月別患者発生状況

### (1) グラフ一覧(沖縄県)

—■— 2018年    - - - 2017年    —○— 過去5年間の平均

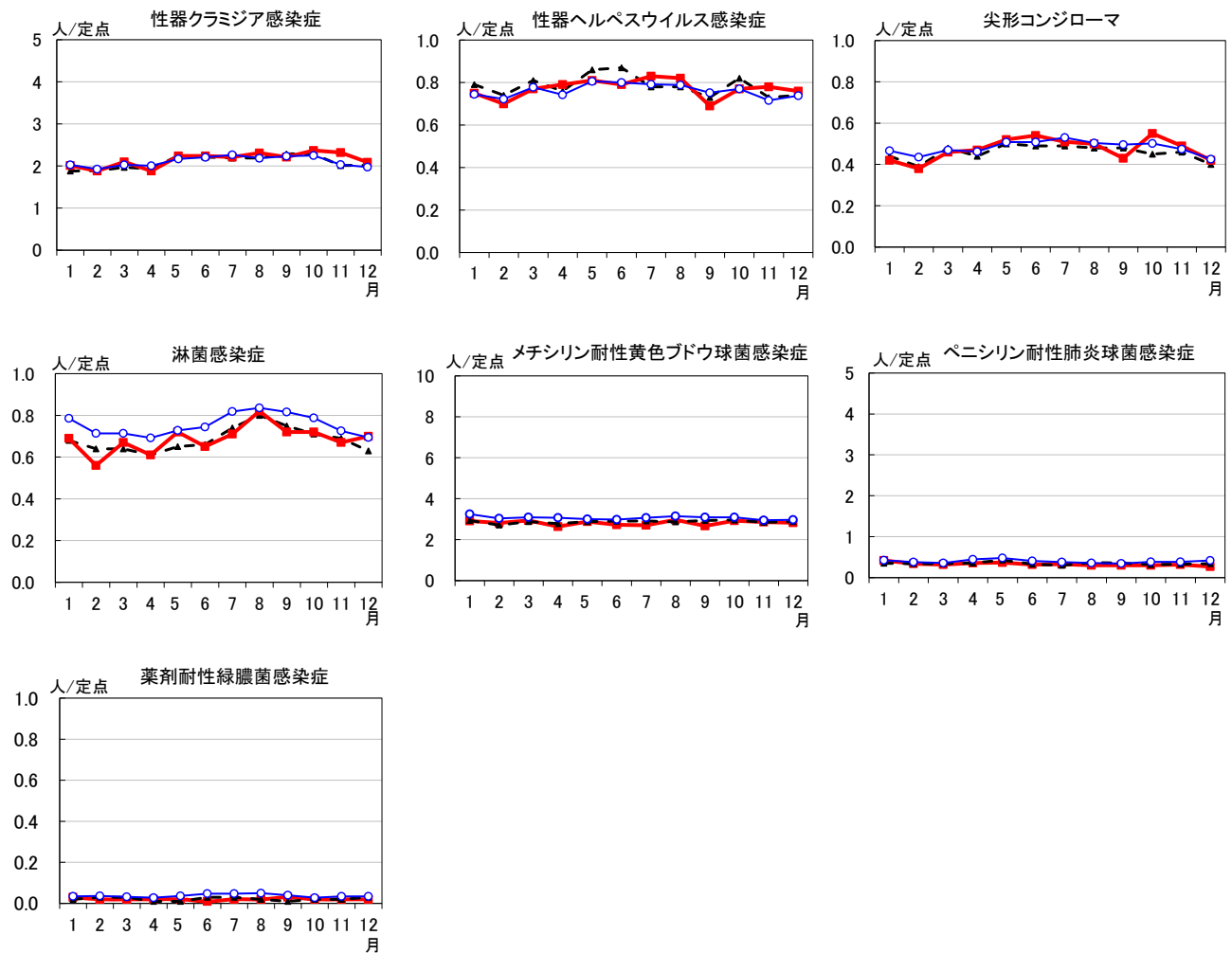


### (2) 報告数一覧表(沖縄県)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年
STD	性器クラミジア感染症	186	228	15.93	19.01	1.33	1.58
	性器ヘルペスウイルス感染症	63	109	5.36	9.08	0.45	0.76
	尖形コンジローマ	25	48	2.14	4.00	0.18	0.33
	淋菌感染症	40	24	3.46	1.99	0.29	0.17
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	441	509	63.01	72.71	5.25	6.06
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	102	122	14.57	17.45	1.21	1.45
	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	0	0.43	0.00	0.04	0.00

### (3) グラフ一覧(全国)

—●— 2018年    -▲- 2017年    —○— 過去5年間の平均



### (4) 報告数一覧表(全国)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年
STD	性器クラミジア感染症	24,825	25,467	25.13	25.88	2.09	2.16
	性器ヘルペスウイルス感染症	9,308	9,129	9.42	9.28	0.79	0.77
	尖形コンジローマ	5,437	5,609	5.50	5.70	0.46	0.48
	淋菌感染症	8,107	8,125	8.21	8.26	0.68	0.69
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16,551	16,311	34.55	33.91	2.88	2.83
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2,001	1,895	4.18	3.94	0.35	0.33
	薬剤耐性緑膿菌感染症	128	121	0.27	0.25	0.02	0.02



# Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況

## 1 週報

(インフルエンザ／小児科定点)

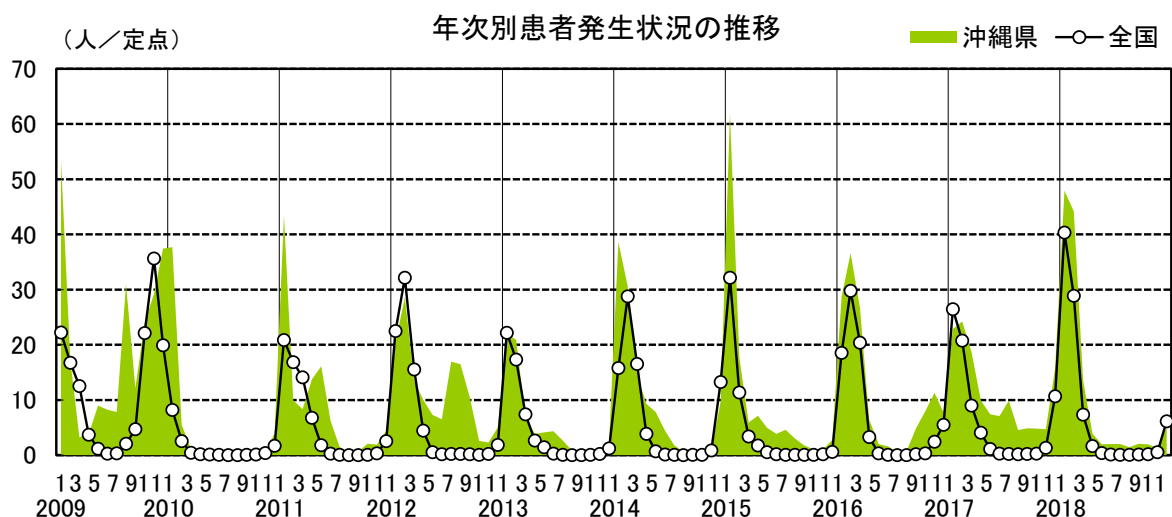
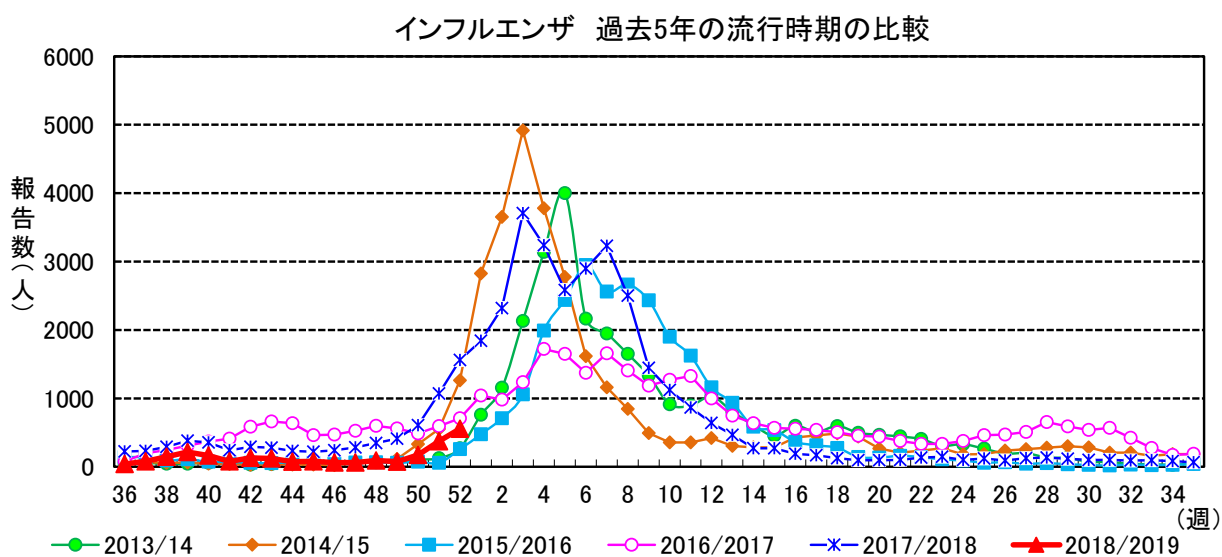
### インフルエンザ

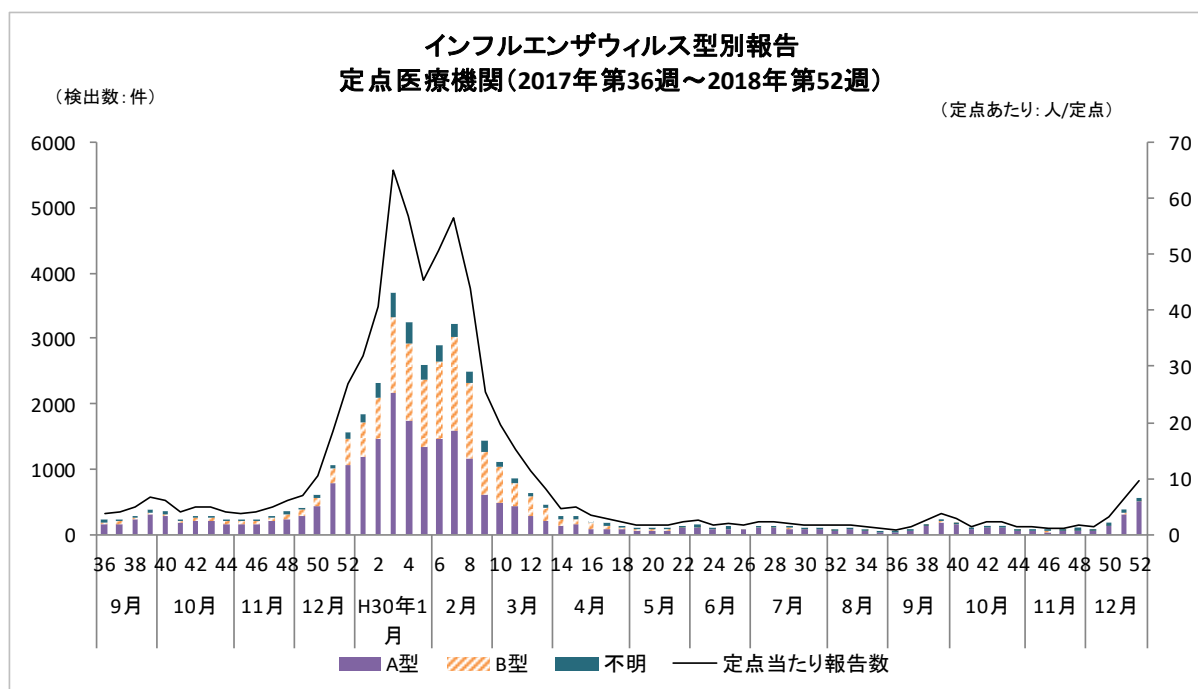
2018年沖縄県内の報告数は32,178人、定点当たり報告数は563.15人であった。

沖縄県の2017/18シーズン（2017年第36週～2018年第35週）は、流行の兆しである1.0人を上回った状態で始まった。2017年第50週（12月）に10.43人と注意報レベルの基準値10を超え、2018年第1週に31.76人と警報レベルの開始基準値30を超えた。2017/18シーズンのピークは2018年第3週の65.02人であり、2018年第13週に警報レベルの終息基準値10を下回った。

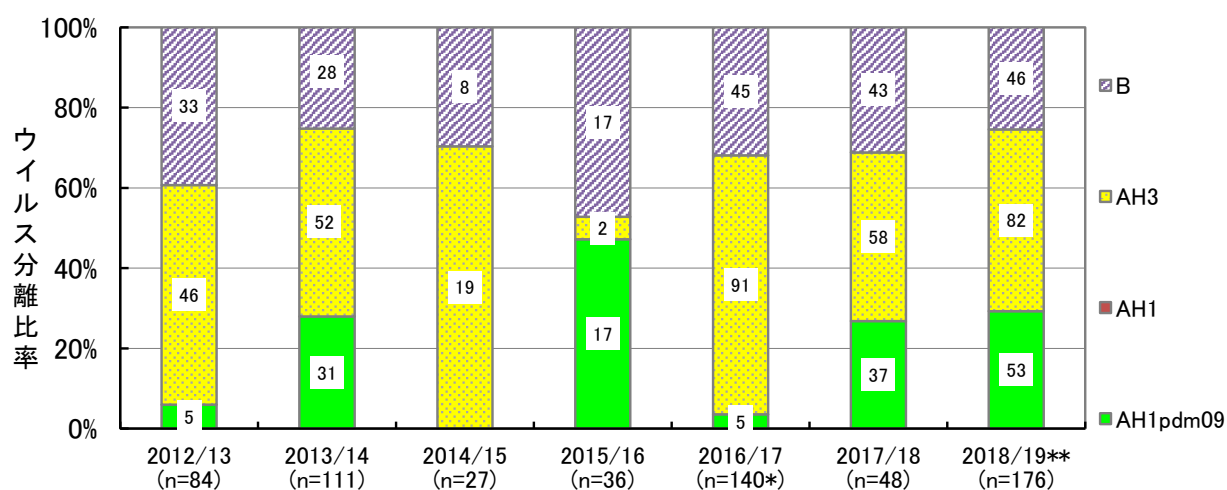
2018年の年齢階級別では、0歳から14歳までで、全体の47.2%を占めた。

2017/18シーズンに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3亜型が58例で最も多く、以下、B型43例（うち山形系統43例、ビクトリア系統0例）、AH1 pdm09\_37 例であった。





シーズン別インフルエンザウイルス検出状況(衛生環境研究所 検査分)

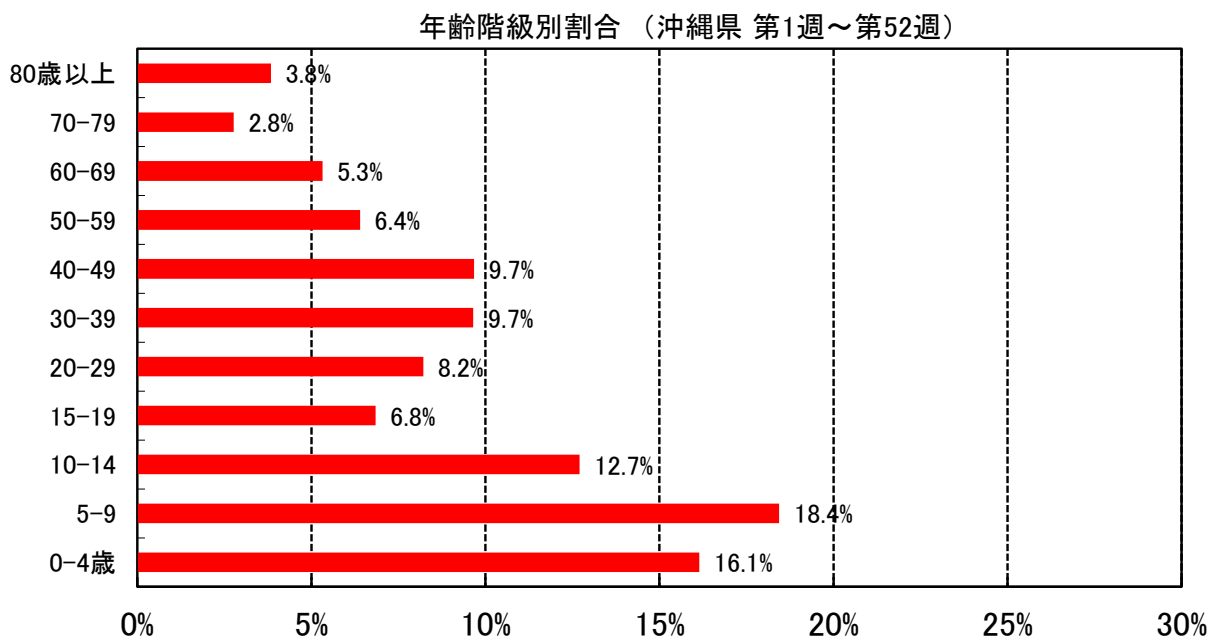
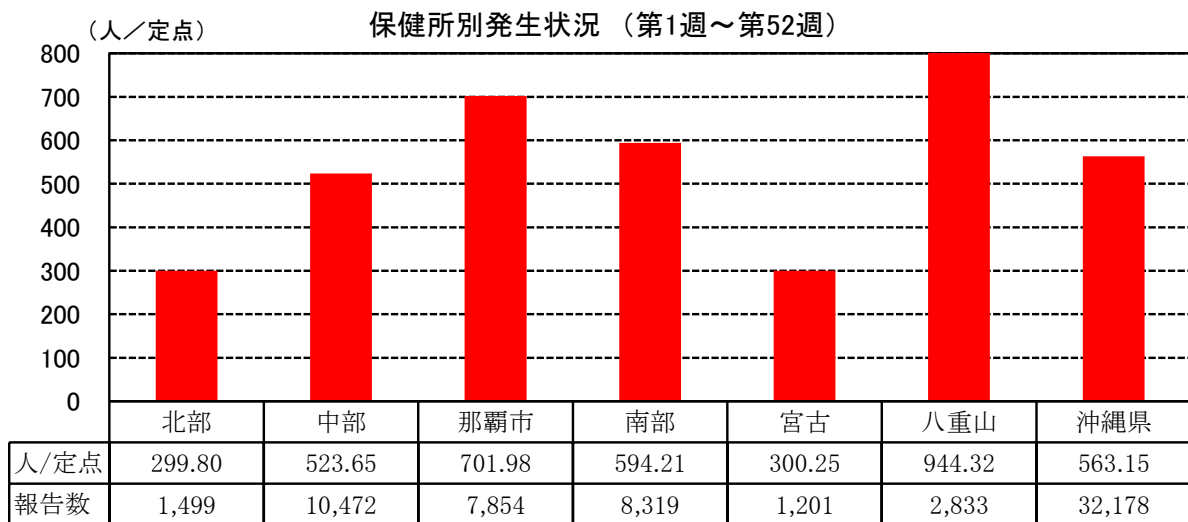
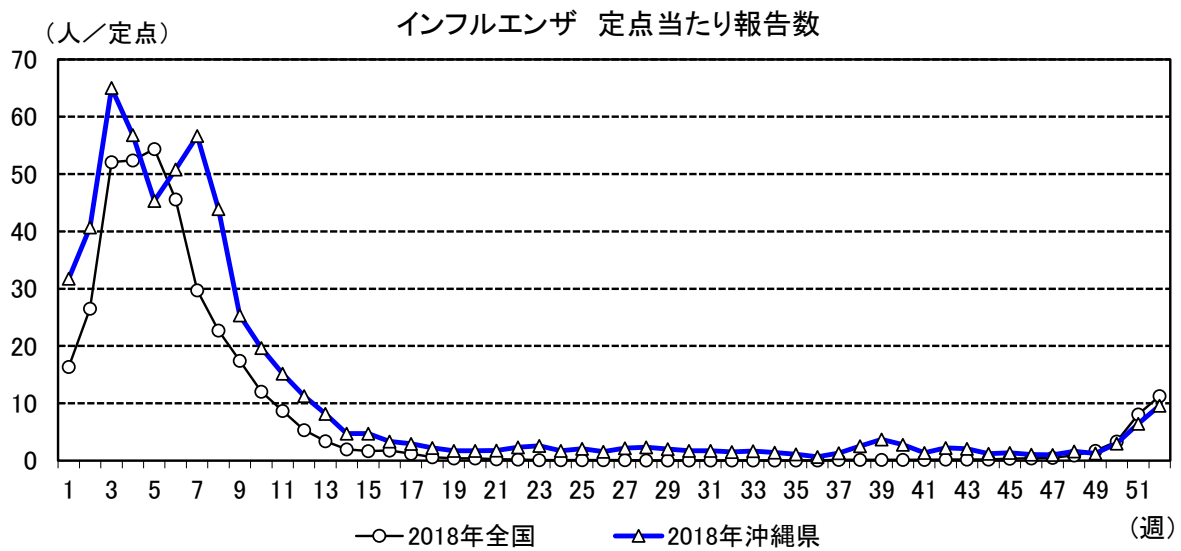


\*AH3とBの重複感染1例あり    \*\*2018年第36週～第52週

シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: インフルエンザ

平均報告数 (2018/19)を除く	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19*
32,246	29,570	32,386	27,896	34,462	36,915	2,513

\*2018年9月～12月末(第36週～第52週)



## RSウイルス感染症

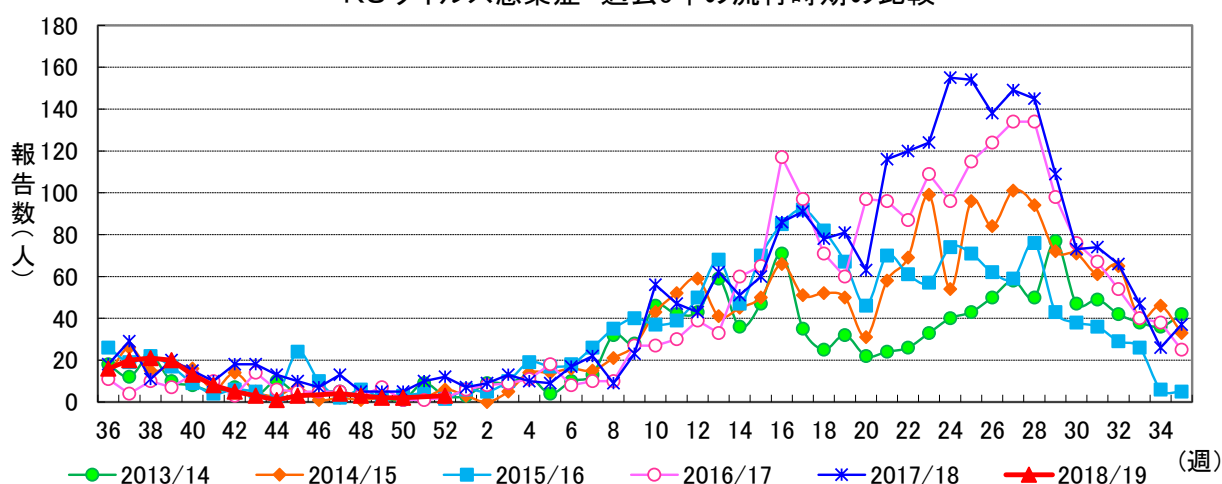
RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症である。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされている。特に乳児期早期（生後数週間～数カ月間）にRSウイルスに初感染した場合は、重症化しやすいため感染しないよう注意が必要である。

2017/18シーズンの県内の報告数は2,589人、定点当たり報告数は76.59人であった。報告数は年々増加傾向にあり、このシーズン含めた過去5シーズンで最も多かった。

全国では9月に流行のピークが認められたのに対し、本県では6月にピークが認められた。

2018年の年齢階級別では1歳以下で、全体の85.1%を占めていた。

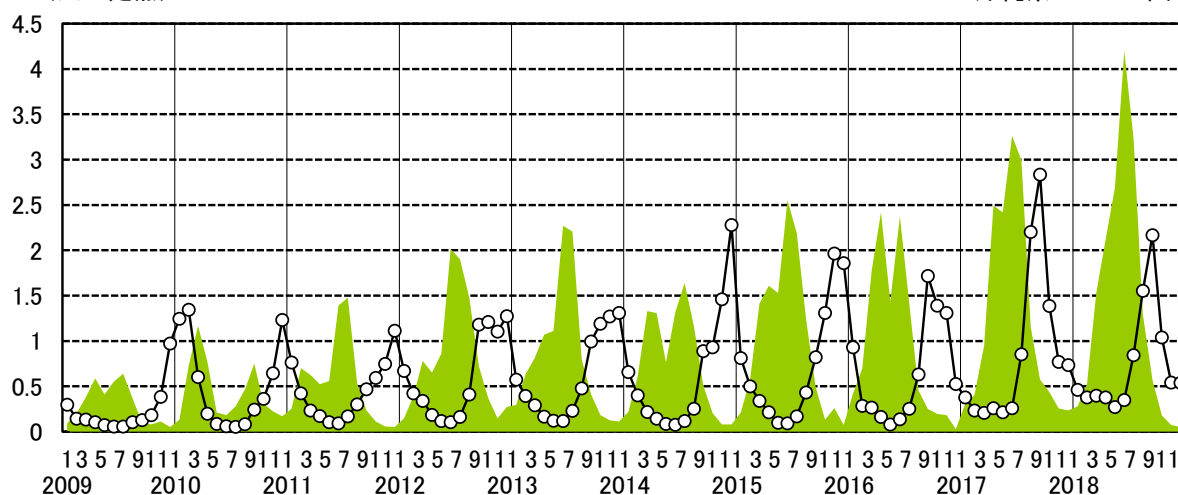
RSウイルス感染症 過去5年の流行時期の比較



(人／定点)

年次別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 ○ 全国

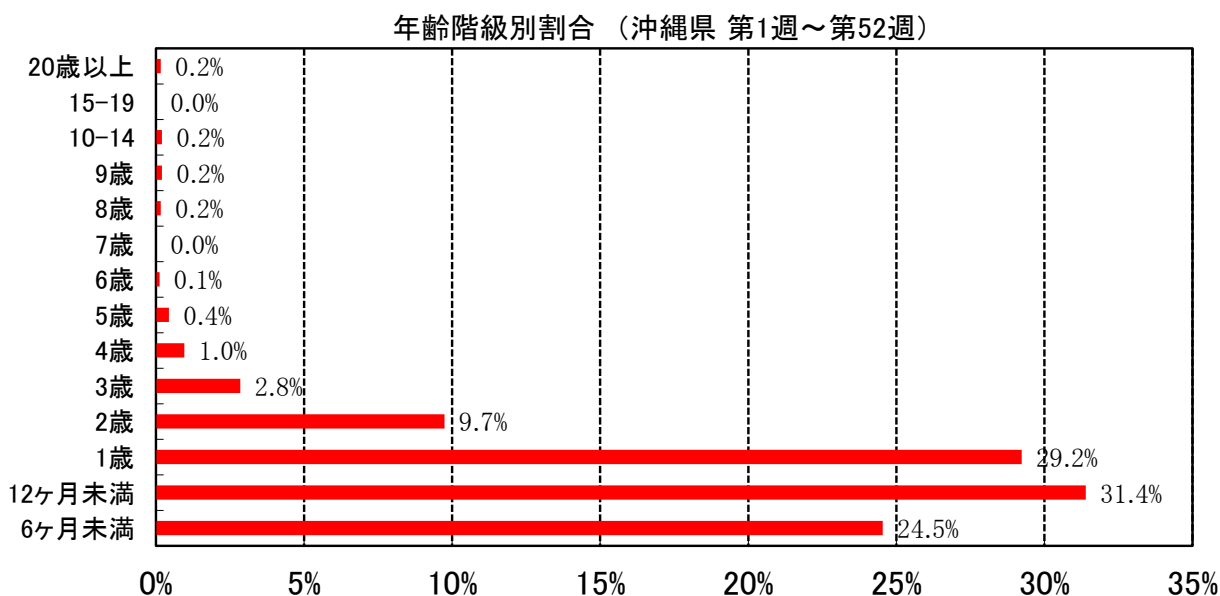
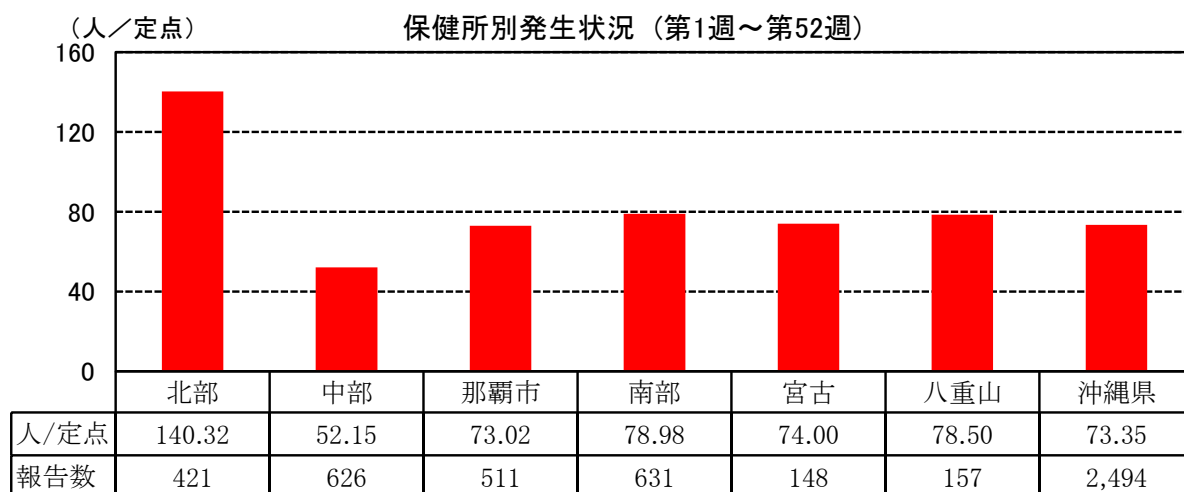
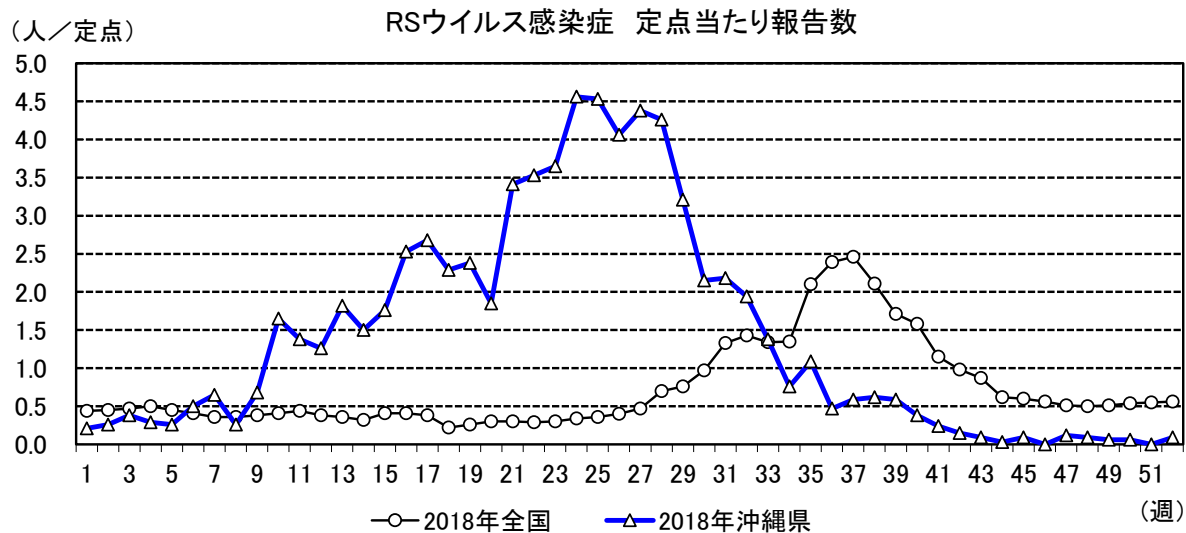


シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: RSウイルス感染症

平均報告数 (2017/18)を除く	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19*
1,945	1,360	1,835	1,737	2,203	2,589	124

\*2018年9月～12月末(第36週～第52週)



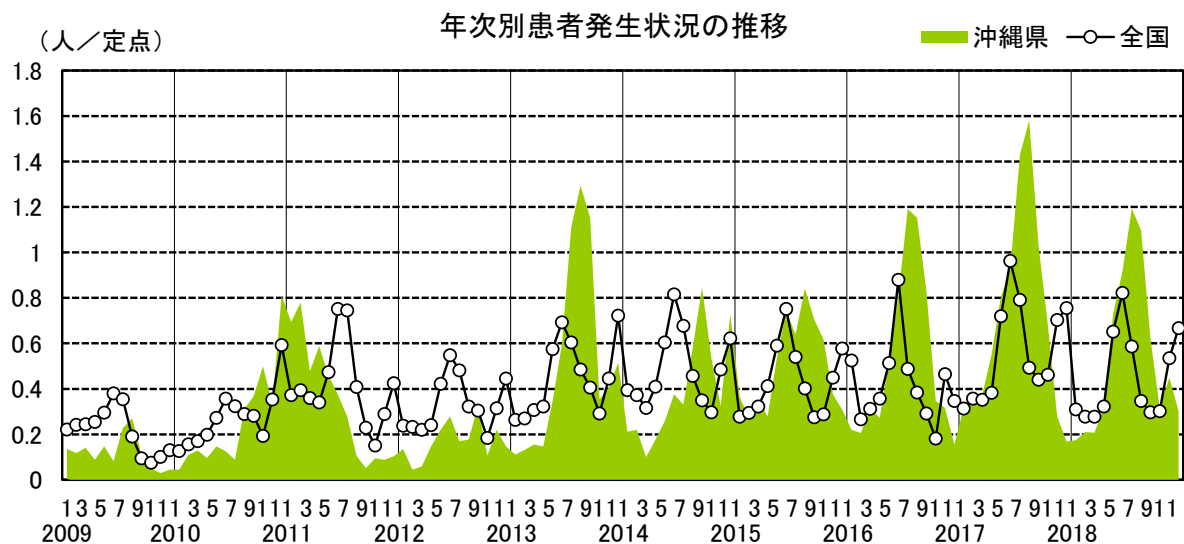
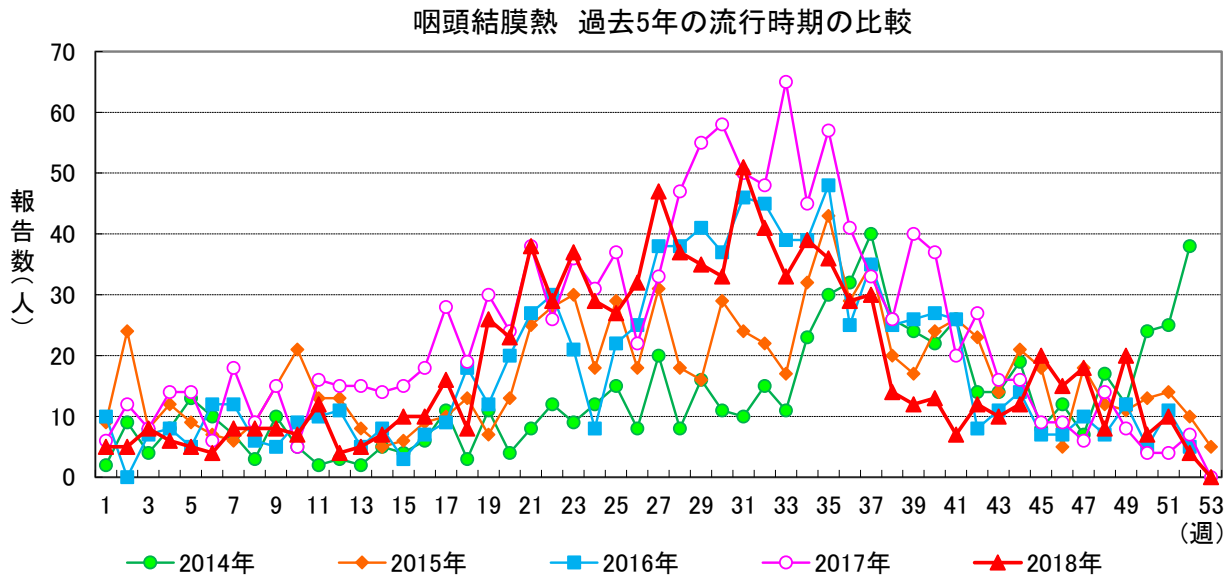


## 咽頭結膜熱（プール熱）

咽頭結膜熱は、アデノウイルスによる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス感染症であり、プールでの接触やタオルの共用により感染することもあるので、プール熱とも呼ばれている。

2018年の県内の報告数は970人、定点当たり報告数は28.56人であった。2017年の報告数1,266人、定点当たり報告数37.24人から減少した。全国では6月にピークが認められるが、本県では7月頃にピークが認められる。また2018年は、全国、本県ともに、警報レベルの開始基準値3を上回る週はなかった。

保健所別では、八重山保健所の定点当たり報告数が167.00人と最も多かった。年齢階級別では、1歳が最も多く全体の34.9%を占めていた。

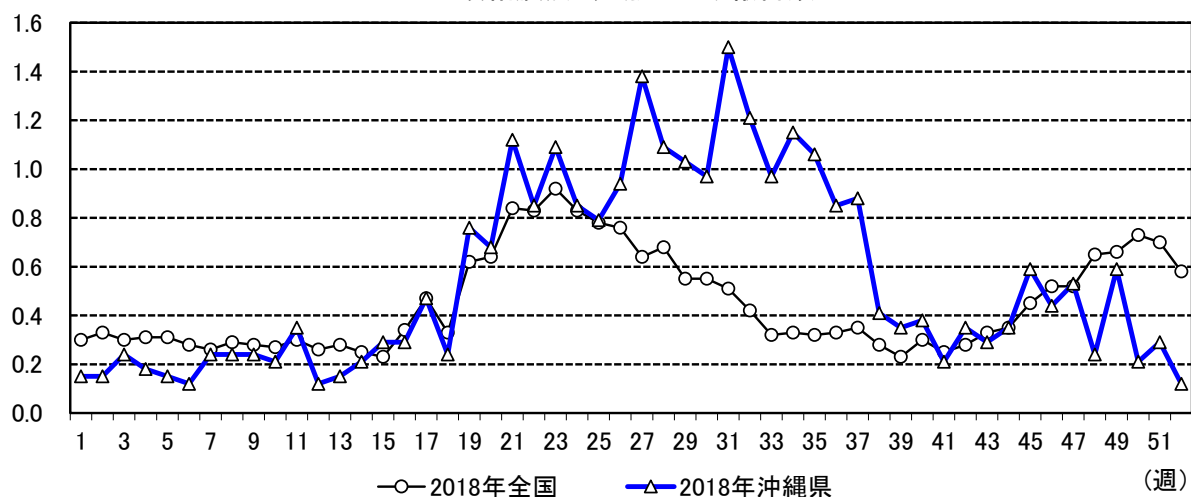


年別の報告数合計：咽頭結膜熱

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
955	690	912	938	1,266	970

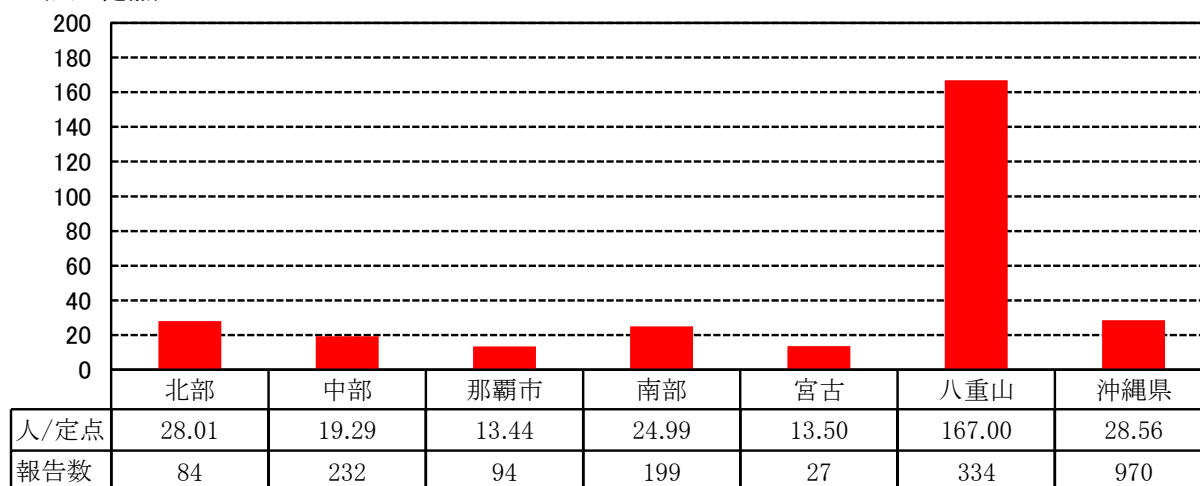
(人／定点)

咽頭結膜熱 定点当たり報告数

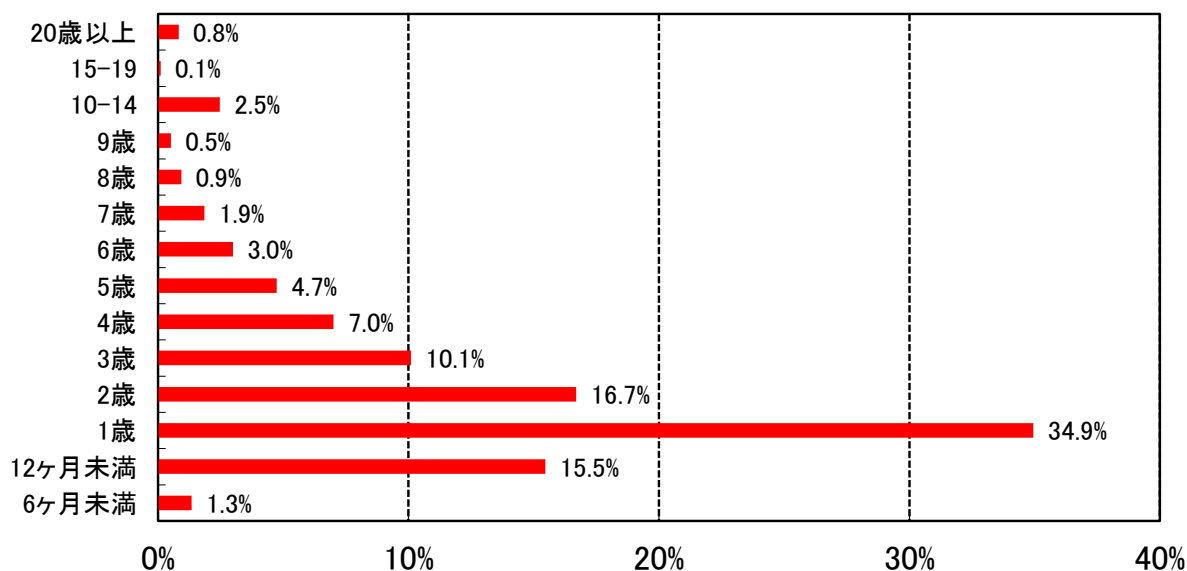


(人／定点)

保健所別発生状況（報告数及び定点あたり報告数）



年齢階級別割合（沖縄県）



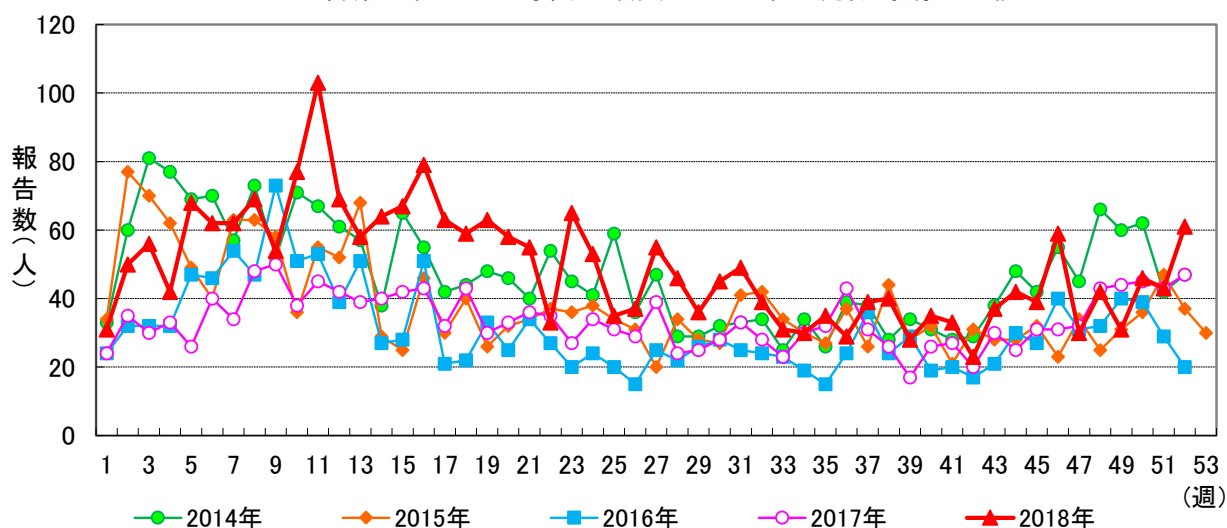
## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、いずれの年齢でも起こり得るが、学童期の小児に最も多く認められる。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱を呈する。発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともある。

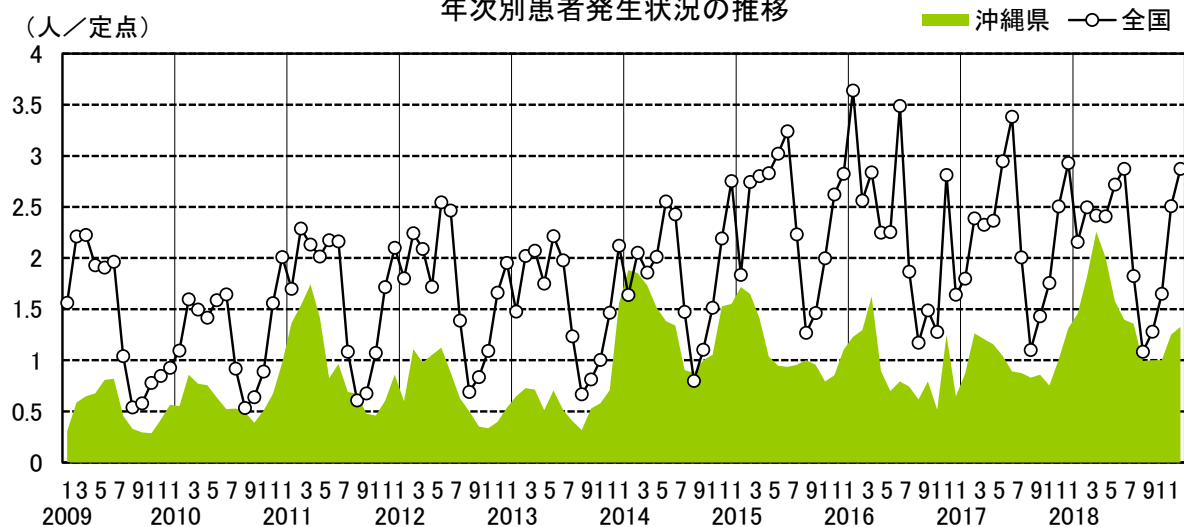
2018年県内の報告数は2,555人、定点当たり75.15人であった。2014年以降で最も多かった。また2018年は、全国、本県ともに、警報レベルの開始基準値8を上回る週はなかった。

年齢階級別では、20歳以上の報告数が、15.5%と最も多くみられた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 過去5年の流行時期の比較

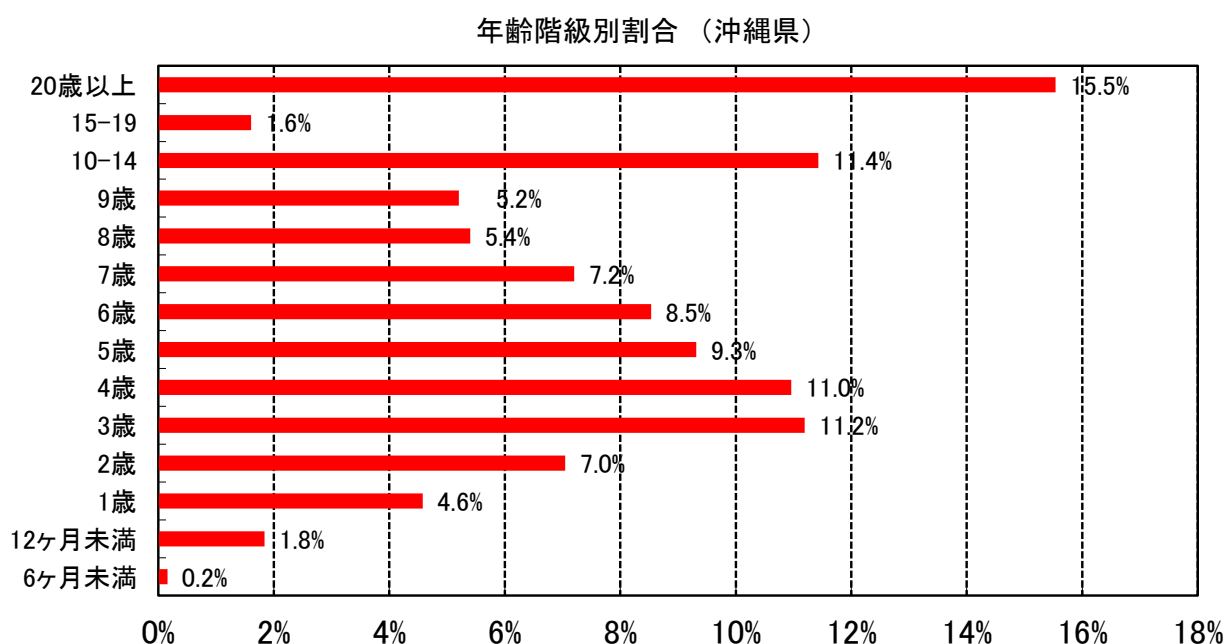
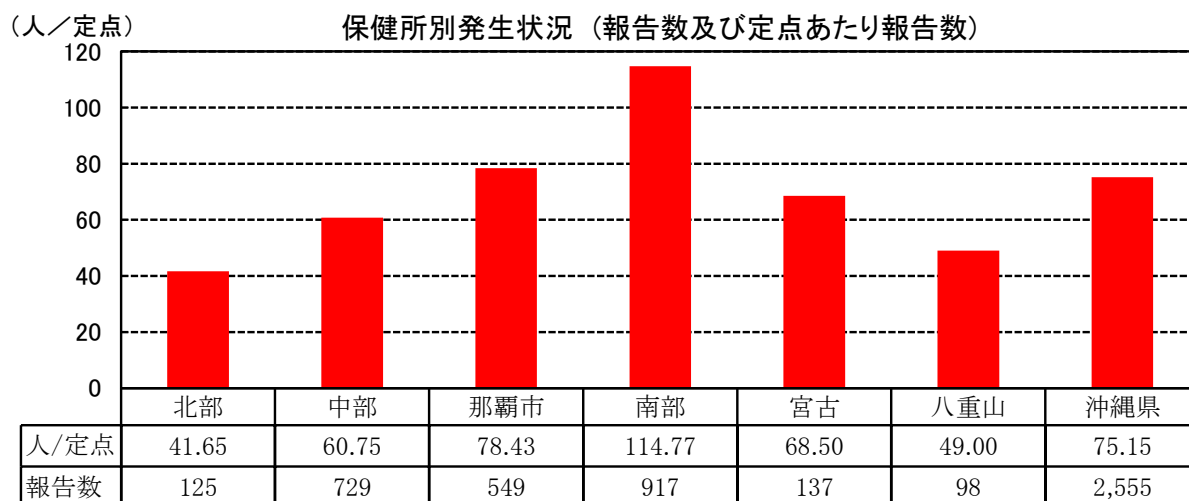
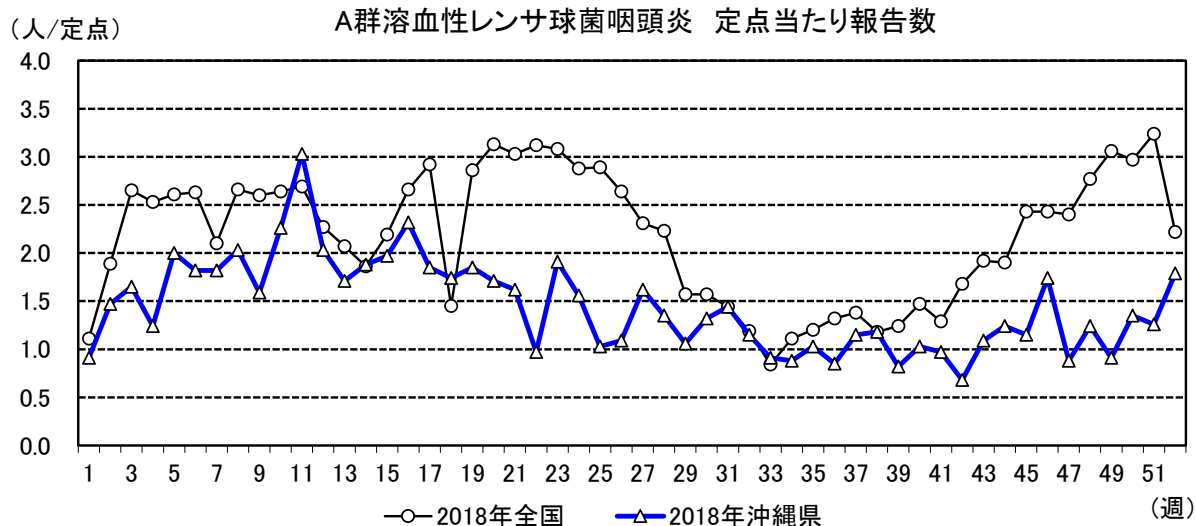


年次別患者発生状況の推移



シーズン別の報告数合計: A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

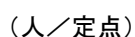
平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
2,083	2,462	2,018	1,617	1,762	2,555



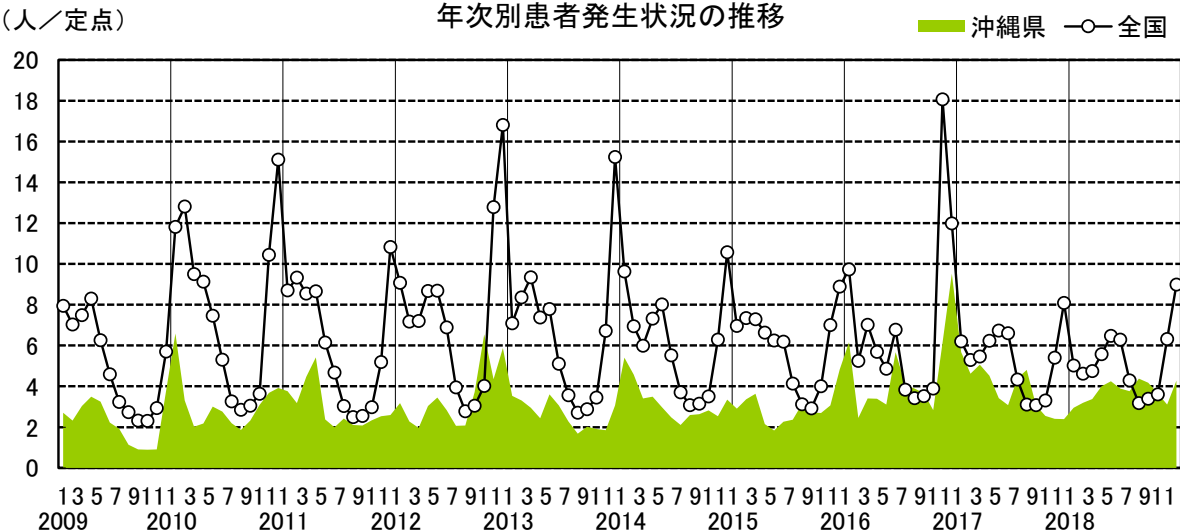
感染性胃腸炎は、多くの細菌（腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクター等）、ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス等）、寄生虫（クリプトスポリジウム、アメーバ等）が起因病原体となる。ウイルス性の流行のピークは夏から春にかけて、細菌性の流行は夏期に認められることが多い。

2017/18シーズンの県内の報告数は5,926人、定点当たり報告数は174.30人であった。今シーズンは全国、本県ともに警報レベルの開始基準値20を上回る週はなかった。

## 感染性胃腸炎 過去5年の流行時期の比較



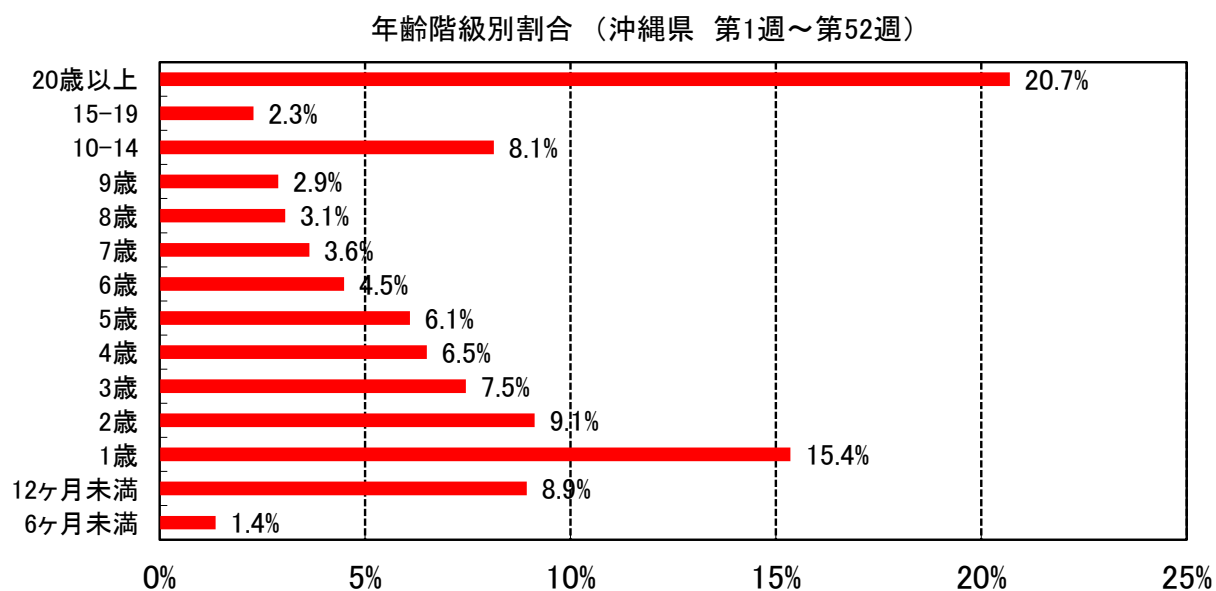
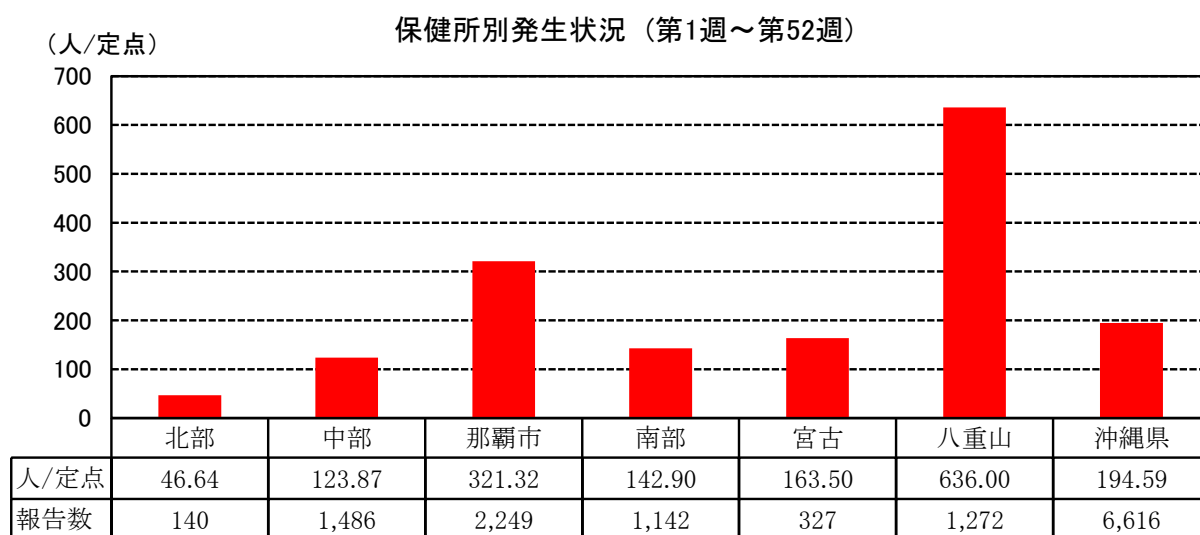
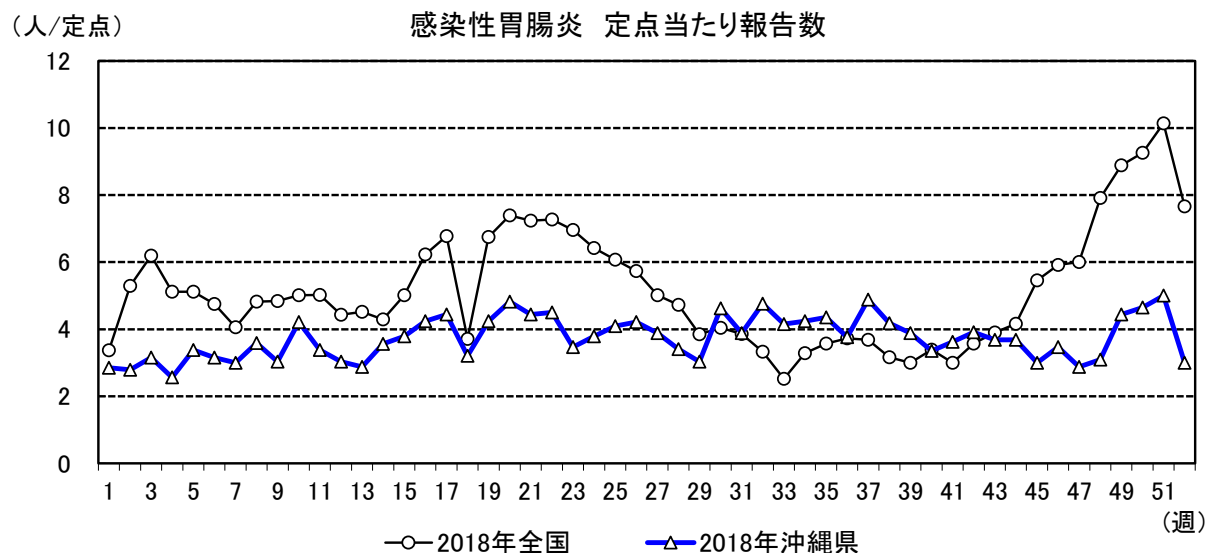
### 年次別患者発生状況の推移



シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: 感染性胃腸炎

平均報告数 (2017/18)を除く	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19*
6,250	5,323	4,867	6,609	8,523	5,926	2,192

- 30 -



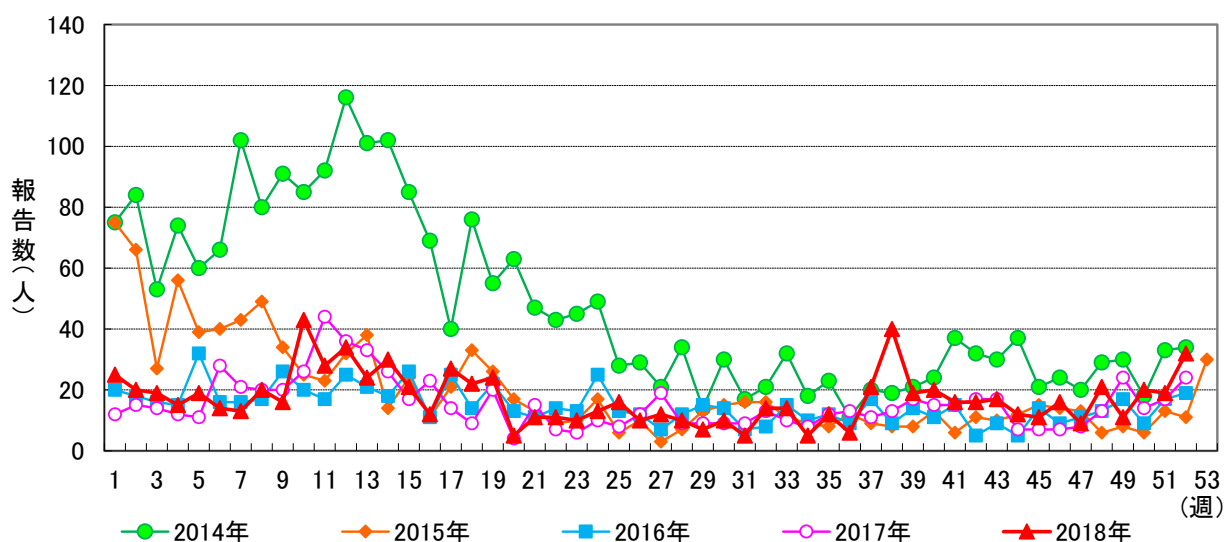
## 水痘

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）によって起こる急性の伝染性疾患である。例年12月～7月に患者発生報告が多く、罹患年齢はほとんどが9歳以下であることが知られている。

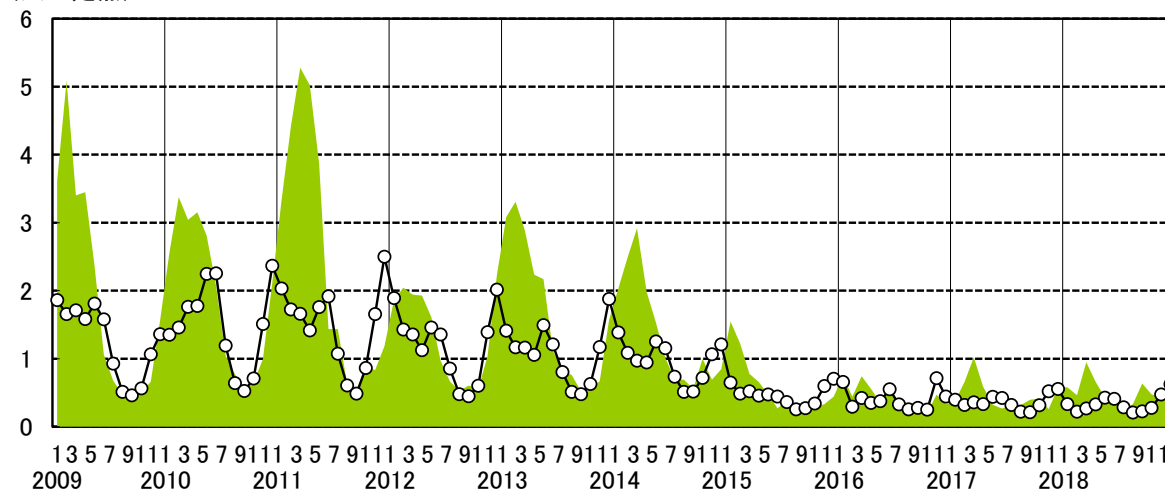
2018年県内の患者報告数は897人、定点当たり26.36人であった。注意報レベルの基準値1を上回った週は3週であり、警報レベルの開始基準値2を上回った週はなかった。定期予防接種の対象となった2014年10月以降、減少傾向にある。

年齢階級別では、5歳が最も多く全体の13.6%、次いで1歳が11.1%、4歳、6歳が11.0%と続いた。

水痘 過去5年の流行時期の比較



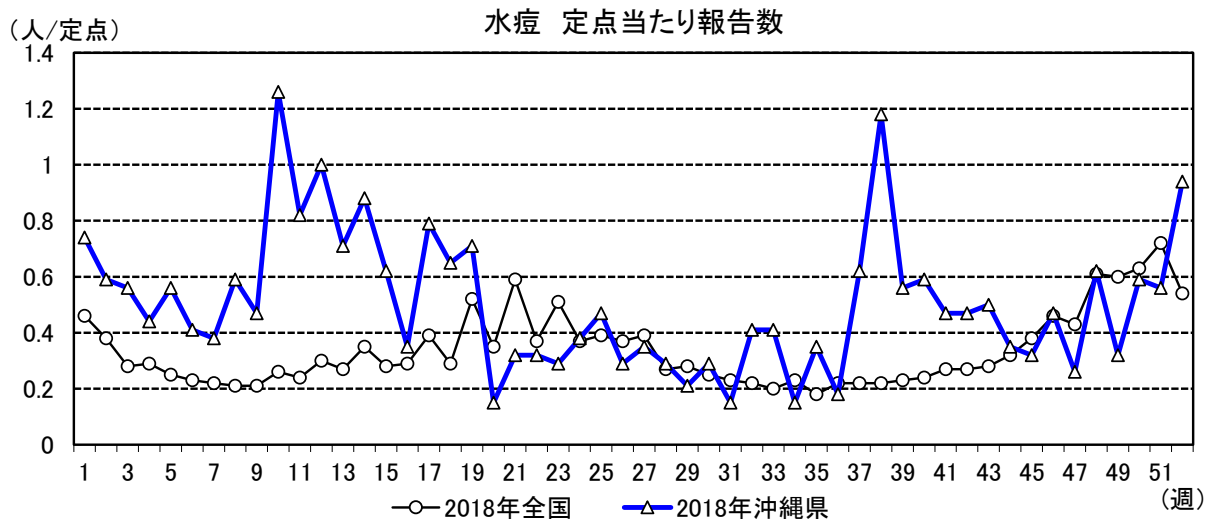
年次別患者発生状況の推移 (人/定点) 沖縄県 全国



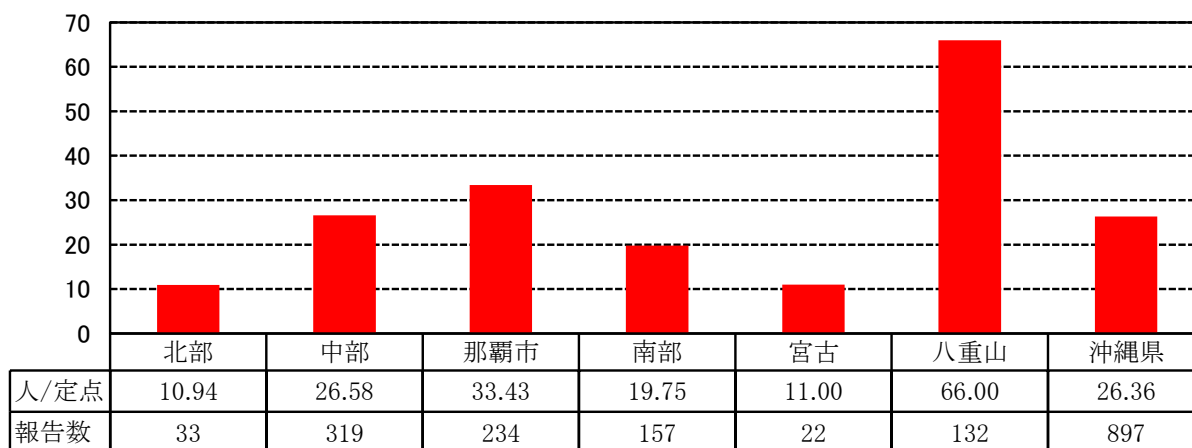
シーズン別の報告数合計:水痘

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1,199	2,460	1,061	779	800	897

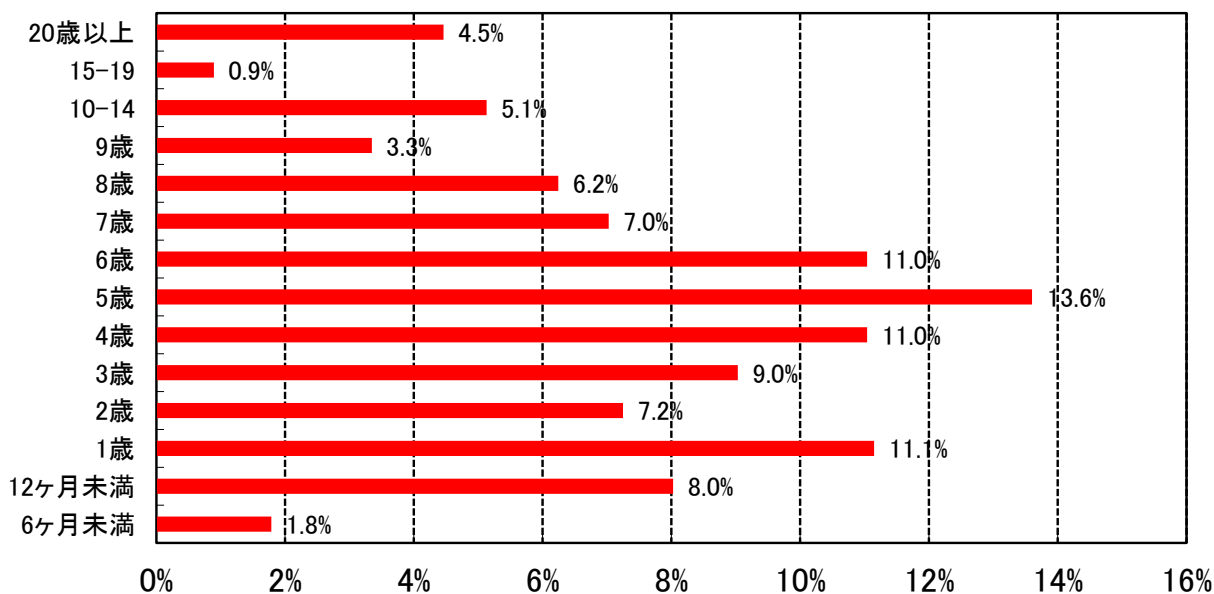




保健所別発生状況（報告数及び定点あたり報告数）

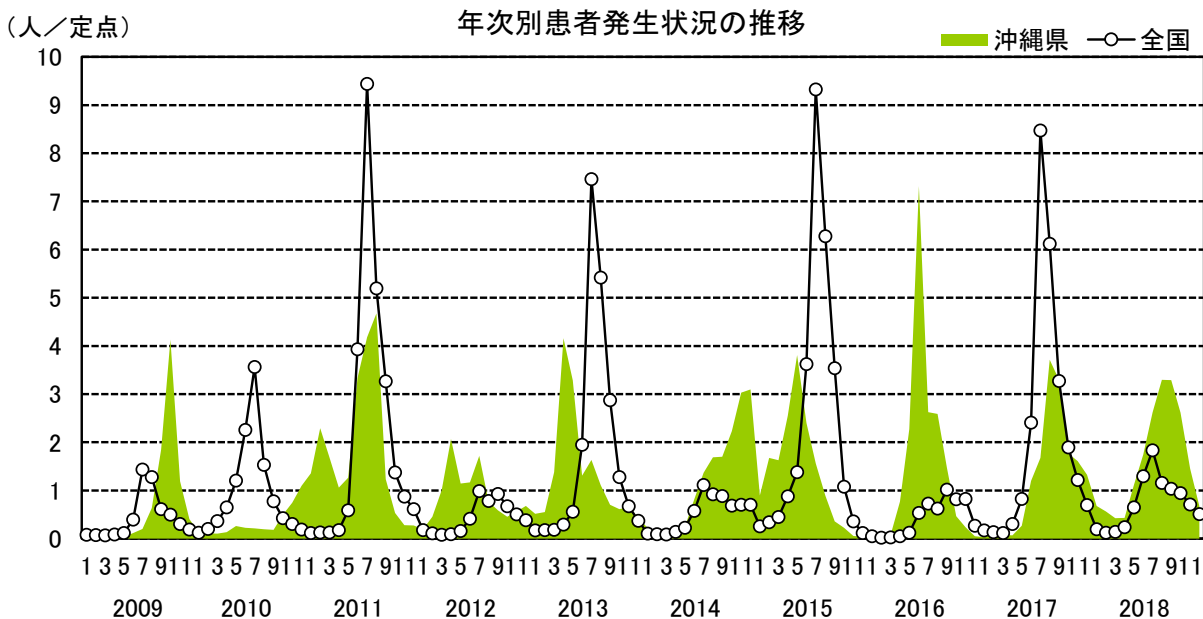


年齢階級別割合（沖縄県）

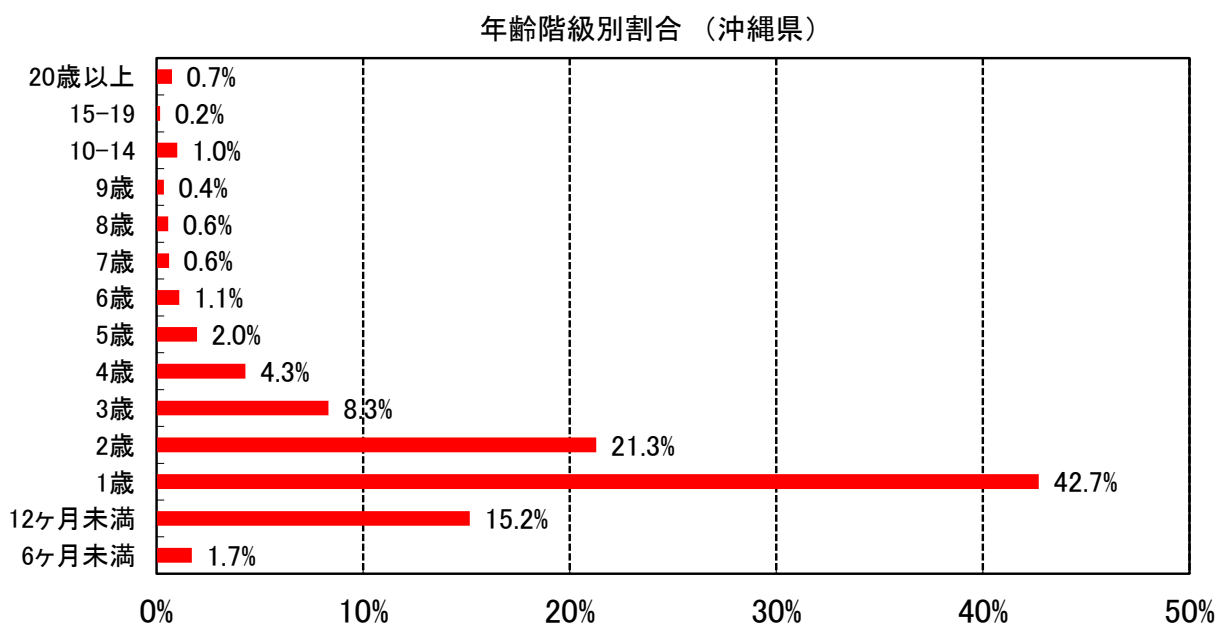
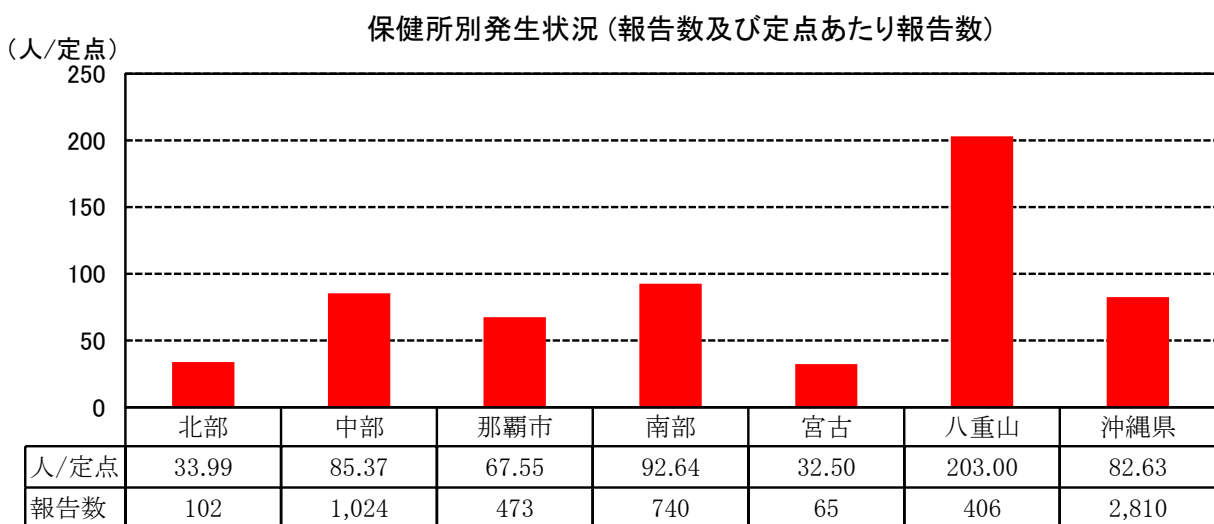
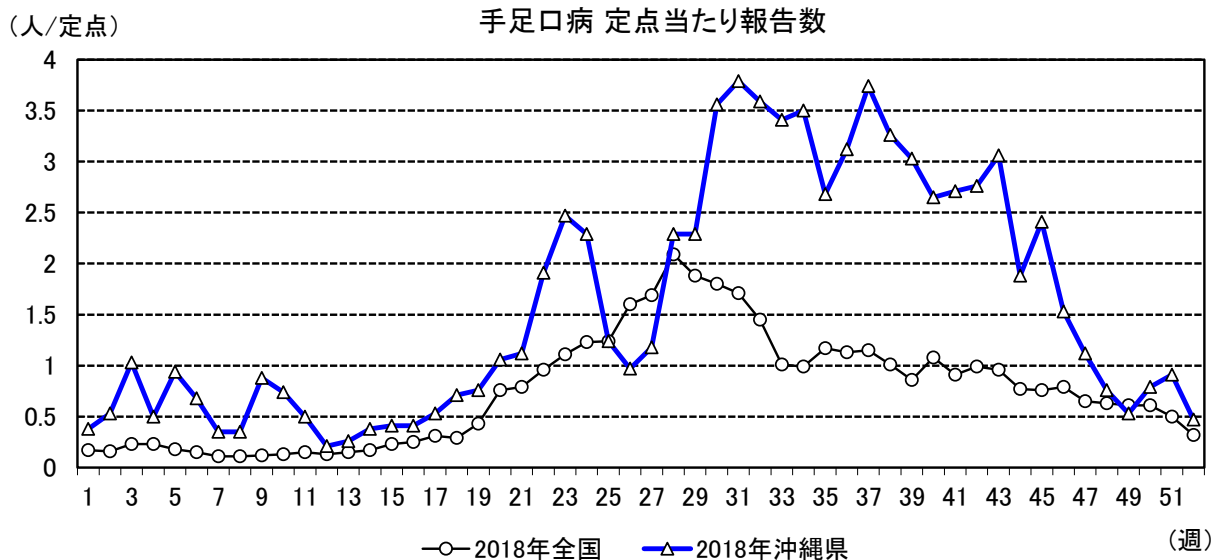


手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行が見られる。コクサッキーA16（CA16）、CA10、CA6、エンテロウイルス71（EV71）などが起因ウイルスである。EV71は中枢神経系合併症の発生率が他のウイルスより高いことが知られている。

年齢階級別では、1歳が最も多く、全体の42.7%を占めていた。



平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
2,420	2,095	2,387	2,627	2,182	2,810



伝染性紅斑は、頬に出現する蝶翼状の紅斑を特徴とし、小児を中心にしてみられる流行性発疹性疾患である。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもある。1月から7月にかけて報告数が増加し、9月頃最も少なくなるという流行パターンを呈する。

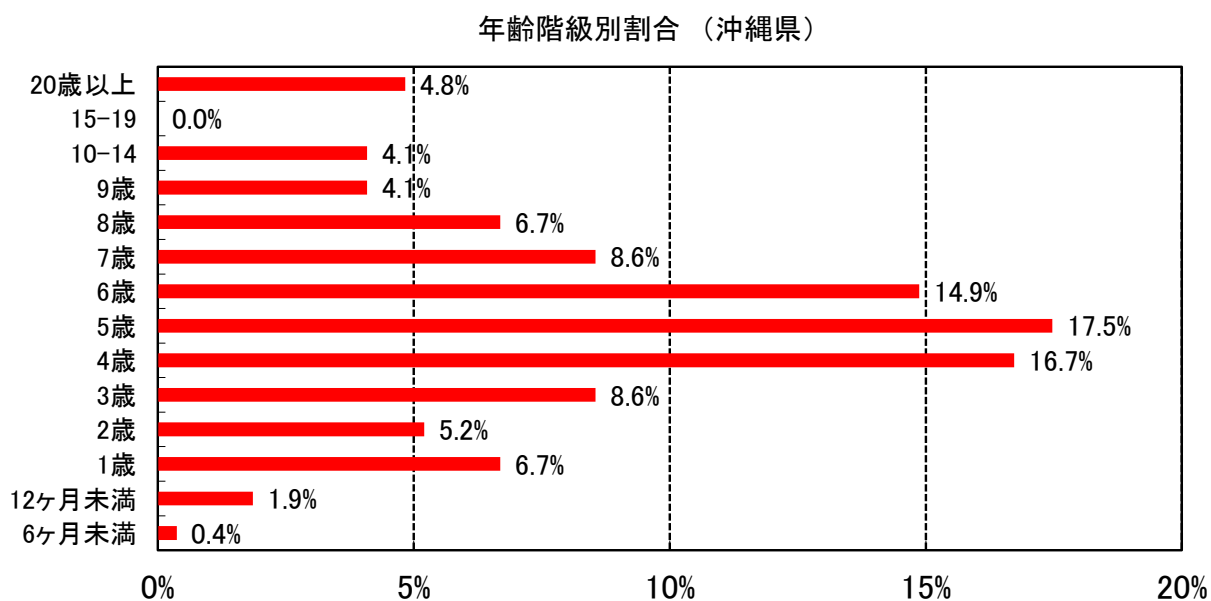
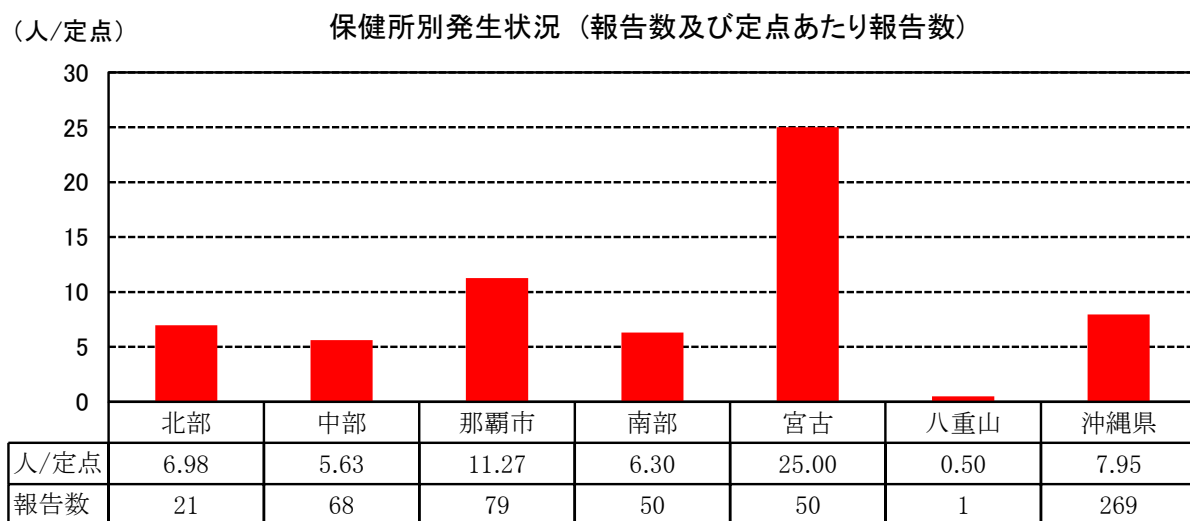
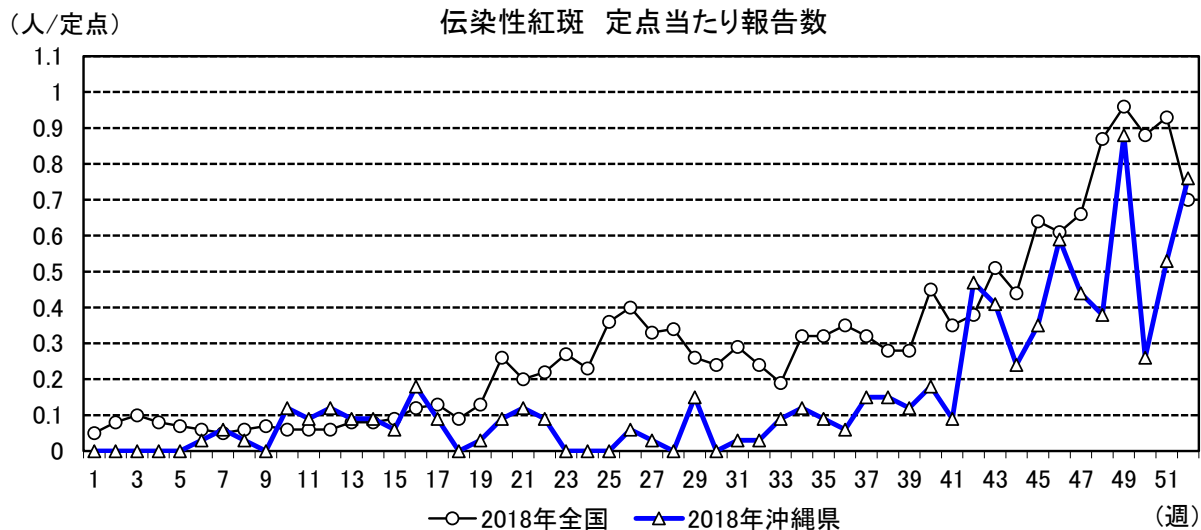
年齢階級別では、5歳が最も多く、全体の17.5%を占めており、次いで4歳が全体の16.7%であった。

報告数(人)

(週)

● 2014年    ◆ 2015年    ■ 2016年    ○ 2017年    ▲ 2018年

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
187	115	352	138	60	269



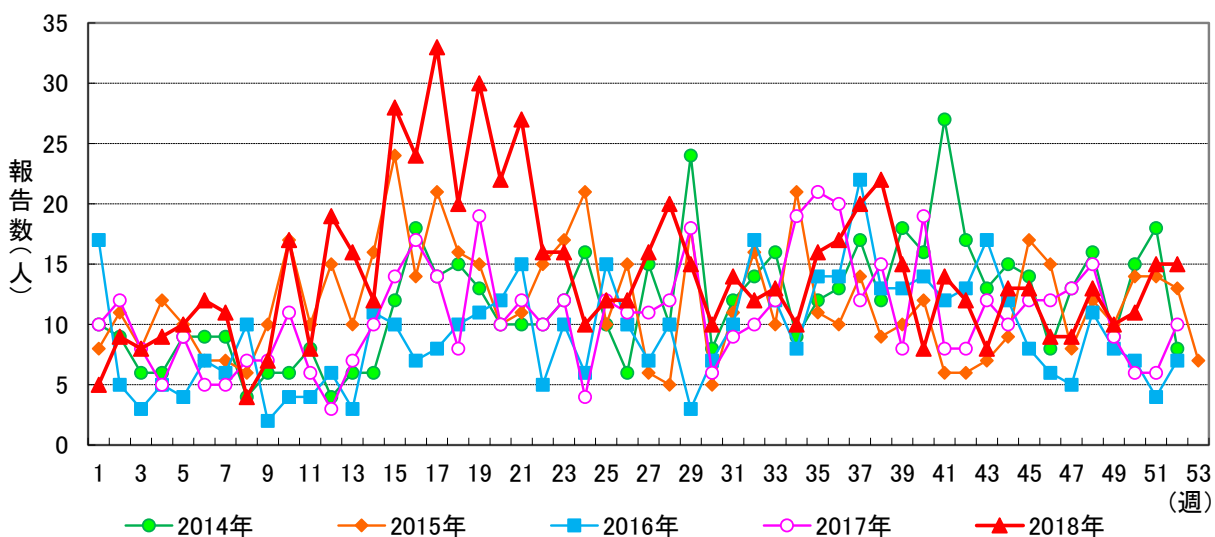
## 突発性発疹

突発性発疹は、乳児期に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス感染症で、予後は一般に良好である。原因ウイルスは、ヒトヘルペスウイルス6あるいは7であることが多い。

2018年県内の報告数は747人、定点当たり報告数は21.92人であり、2014年以降で報告数が最も多い。

年齢階級別では、1歳が最も多く、全体の54.1%を占めた。

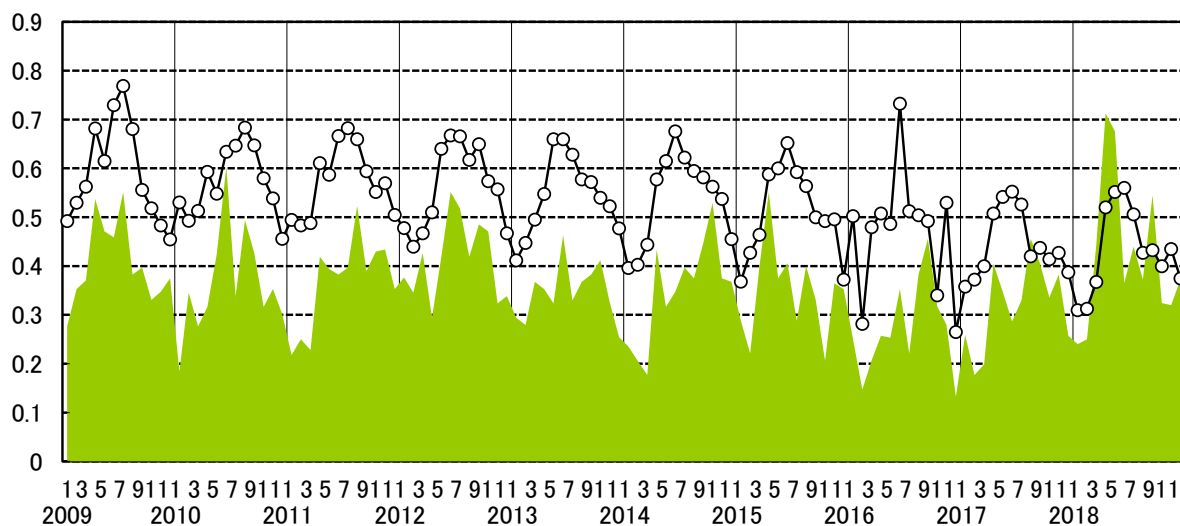
突発性発疹 過去5年の流行時期の比較



(人／定点)

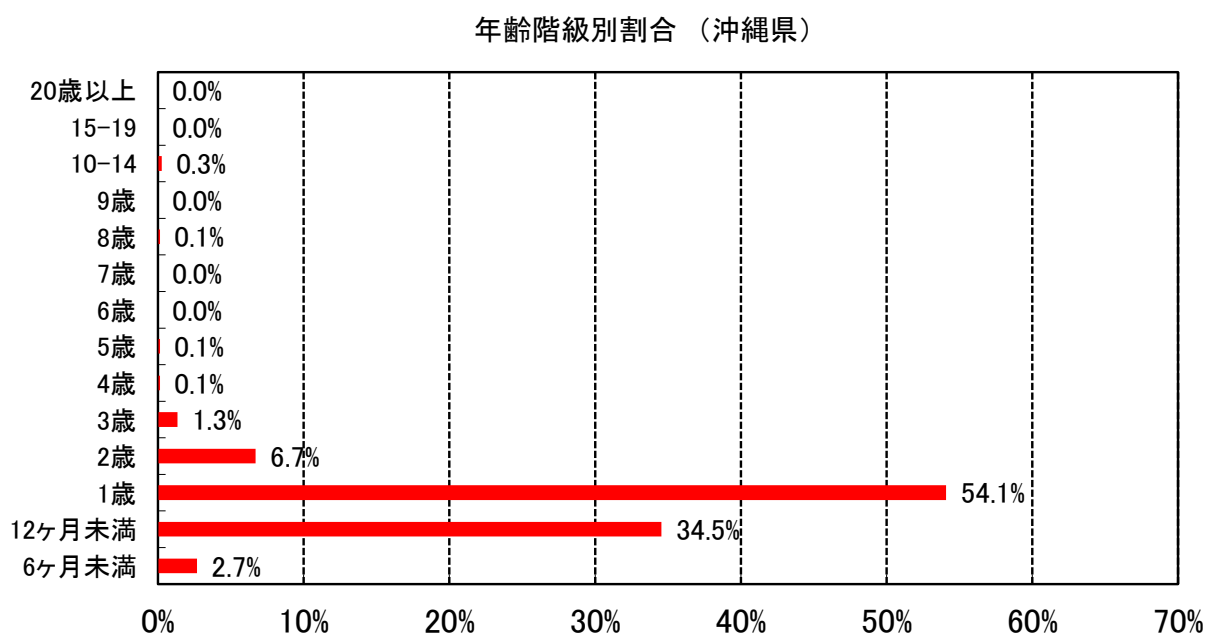
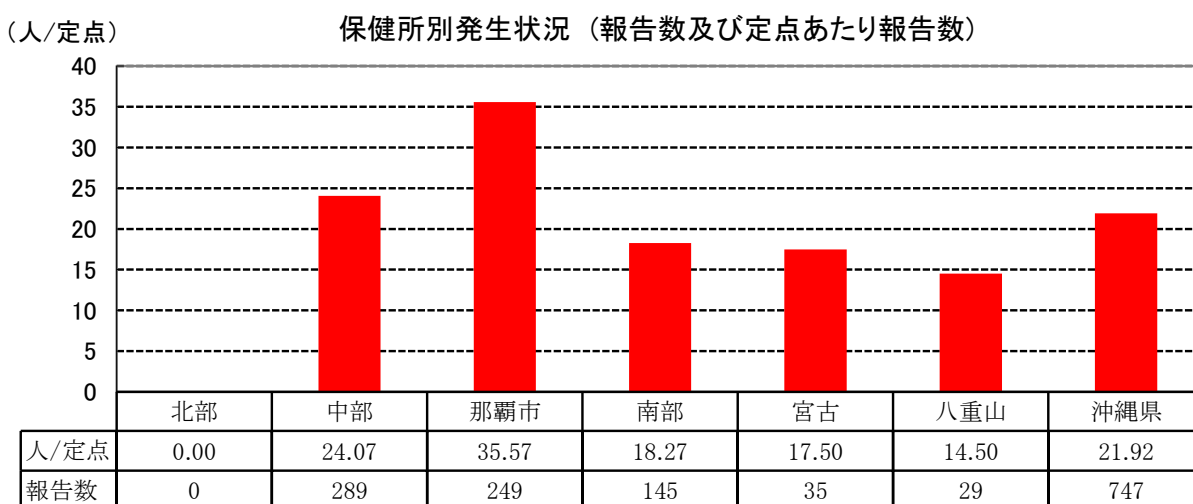
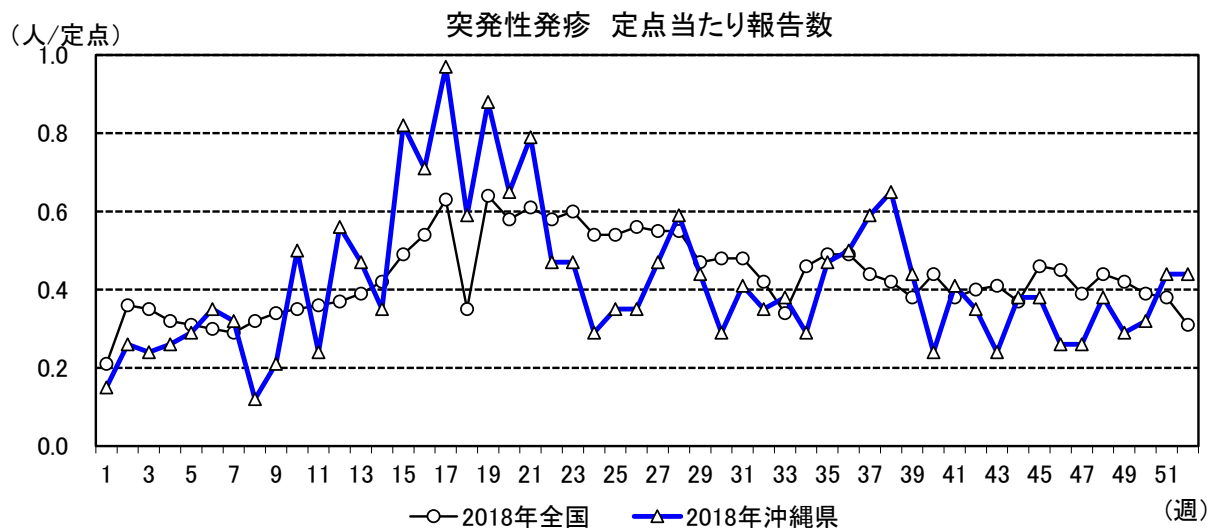
年次別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 ○ 全国



シーズン別の報告数合計：突発性発疹

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
607	613	632	480	565	747



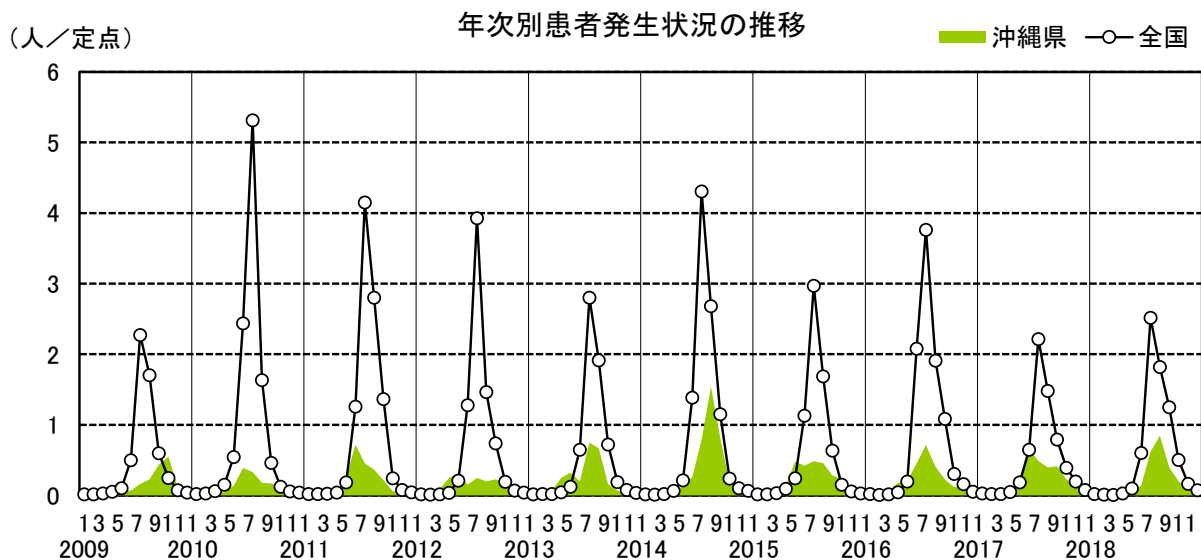
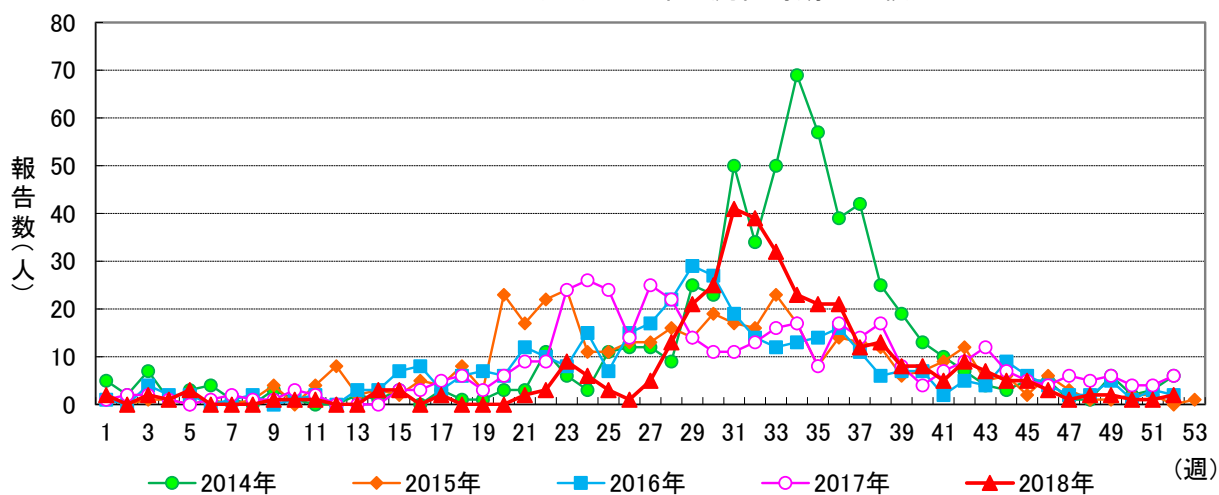
## ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、エンテロウイルス属、特にA群コクサッキーウイルスを主原因とする感染症である。発熱と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する夏かぜの代表的疾患である。

2018年県内の報告数は368人、定点当たり報告数は10.88人であり、2014年以降で報告数は最も少ない。2018年は、全国、本県ともに、警報レベルの開始基準値6を上回る週はなかった。

年齢階級別では、1歳の報告数が最も多く全体の36.4%を占めていた。

ヘルパンギーナ 過去5年の流行時期の比較



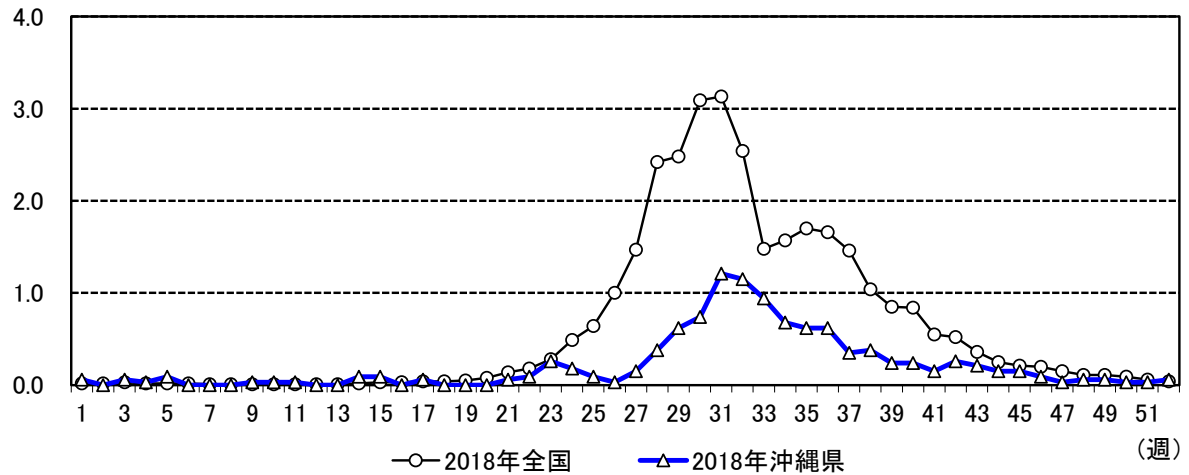
シーズン別の報告数合計：ヘルパンギーナ

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
438	607	414	384	416	368



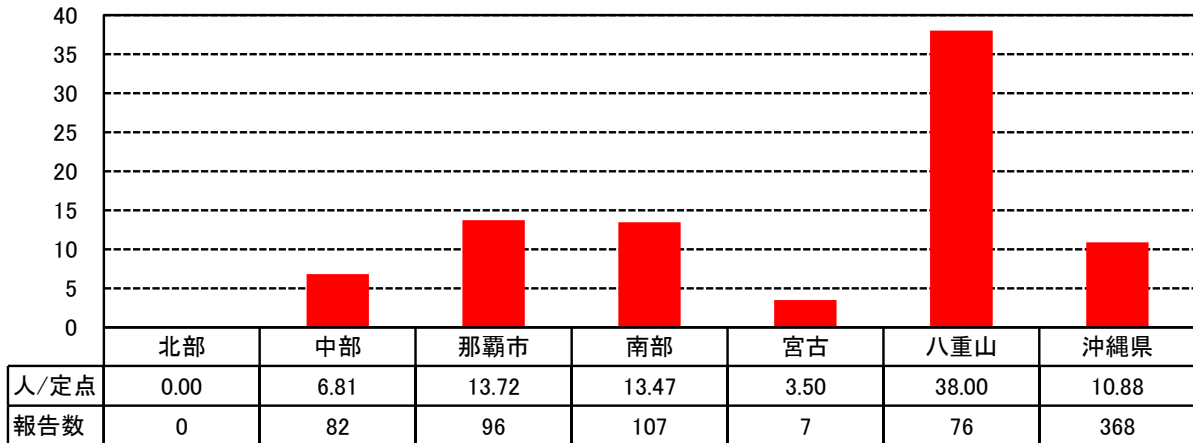
(人/定点)

ヘルパンギーナ 定点当たり報告数

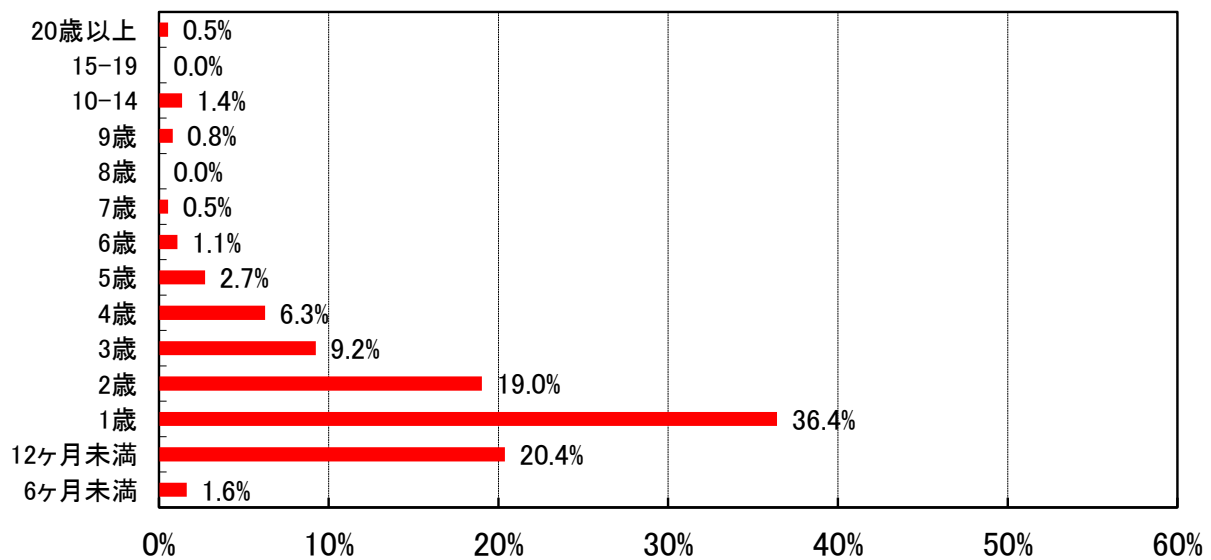


(人/定点)

保健所別発生状況（報告数及び定点あたり報告数）



年齢階級別割合（沖縄県）

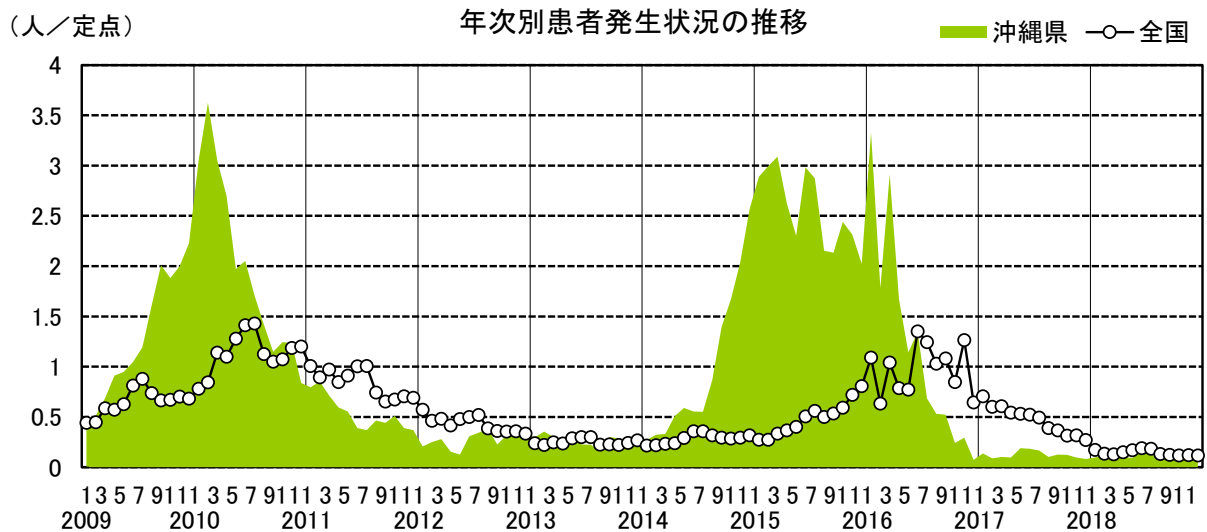
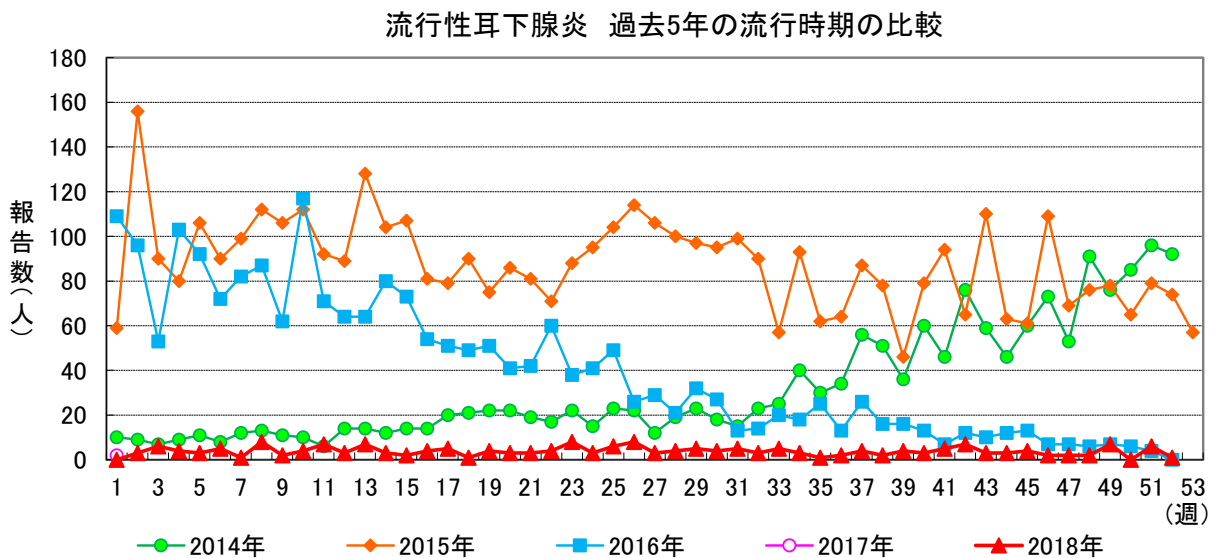


## 流行性耳下腺炎

流行性耳下腺炎は、片側あるいは両側の唾液腺の腫脹を特徴とするムンプスウイルスによる感染症である。本疾患は全国でも毎年、3～4年周期での患者増加がみられており、本県でも概ね4年周期で増加が認められている。前回の増加期は2009年（2,295人）と2010年（3,530人）及び2015年（4,647人）と2016年（2,101人）であった。

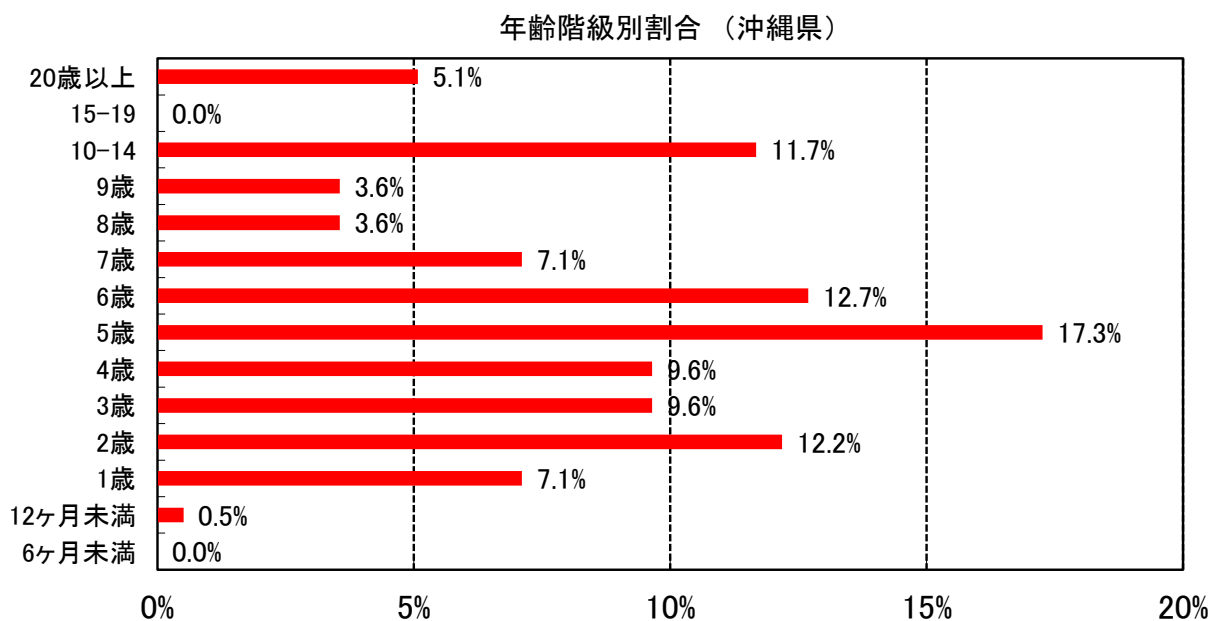
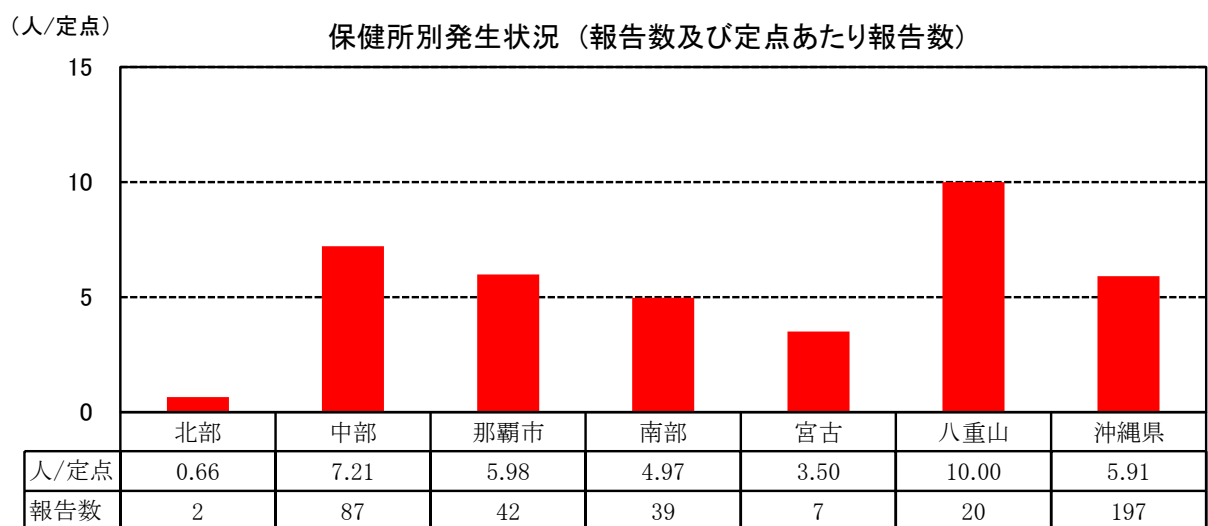
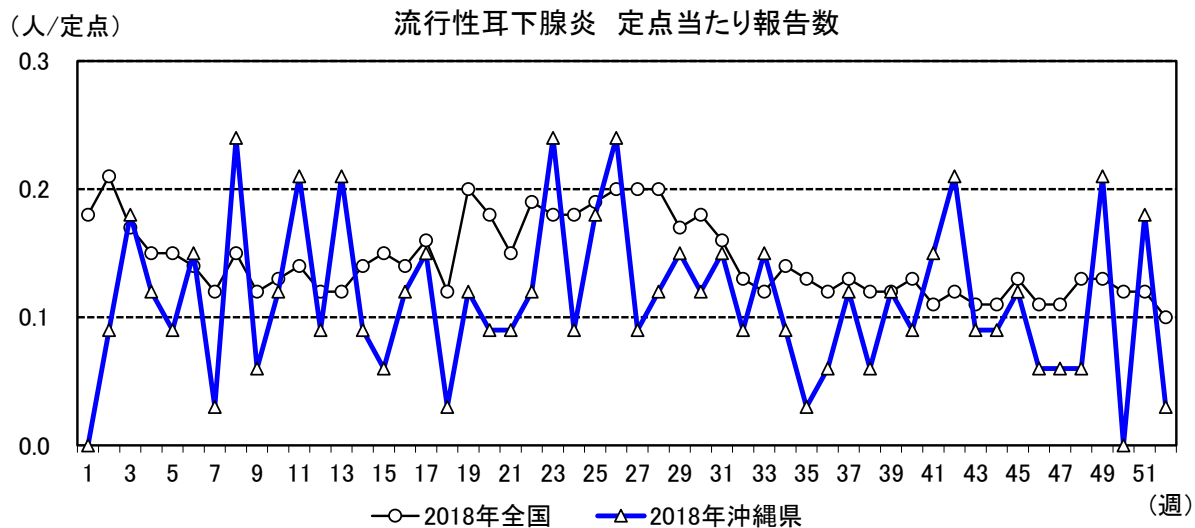
2018年県内の報告数は197人、定点当たり報告数は5.91人であり、2014年以降で報告数が最も少なかった。2018年は、全国、県内ともに、注意報レベルの基準値を上回る週はなかった。

年齢別では、5歳の報告数が最も多く全体の17.3%を占めていた。20歳以上は全体の5.1%であった。



シーズン別の報告数合計：流行性耳下腺炎

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1,768	1,672	4,647	2,101	223	197



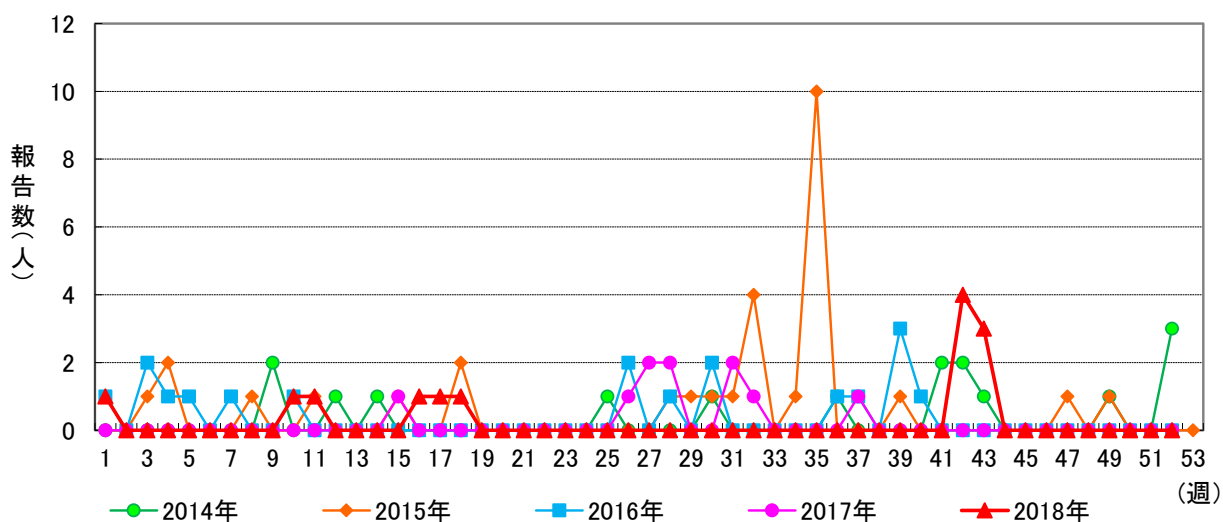
(眼科定点)  
急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎（AHC）は、エンテロウイルス70型（EV70）とコクサッキーウイルスA24変異型（CA24v）を主原因とする激しい出血症状を伴う結膜炎である。県内では2011年夏に流行した。

2018年県内の報告数は13人、定点当たり報告数は1.45人であった。2018年は、全国、県内ともに、警報レベルの開始基準値1を上回る週はなかった。保健所別では、那覇市、南部で警報レベルの開始基準値を上回った週があった。

年齢別では、10-14歳の報告数が最も多く、全体の38.5%を占めていた。

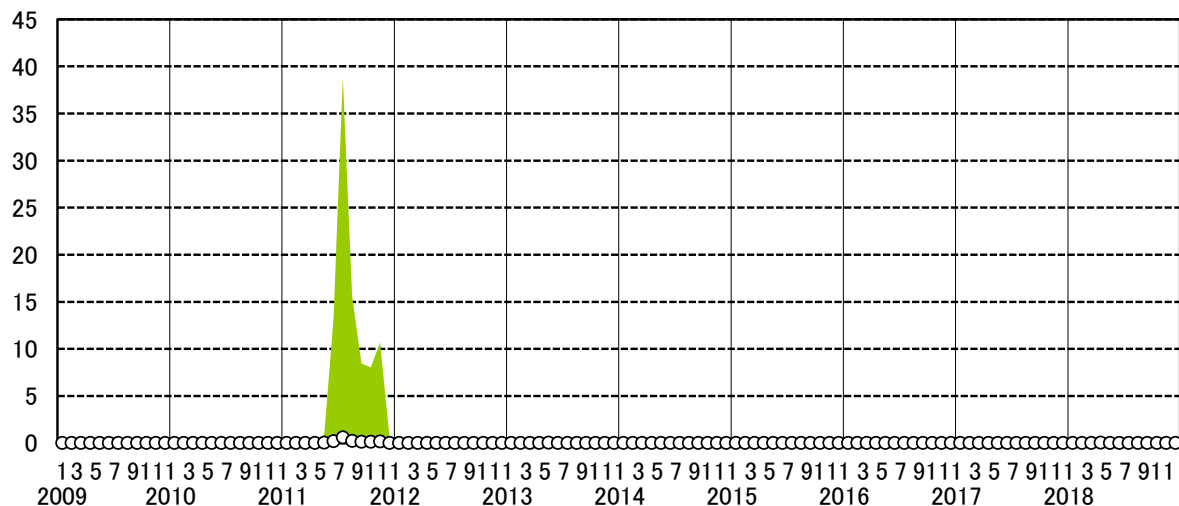
急性出血性結膜炎 過去5年の流行時期の比較



(人／定点)

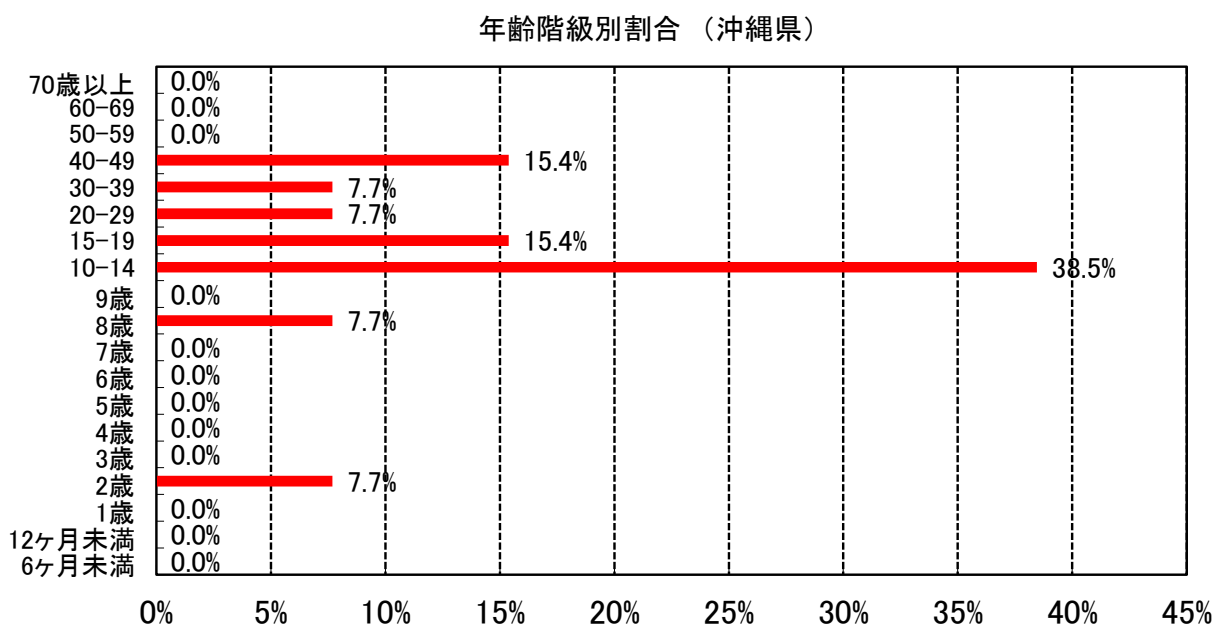
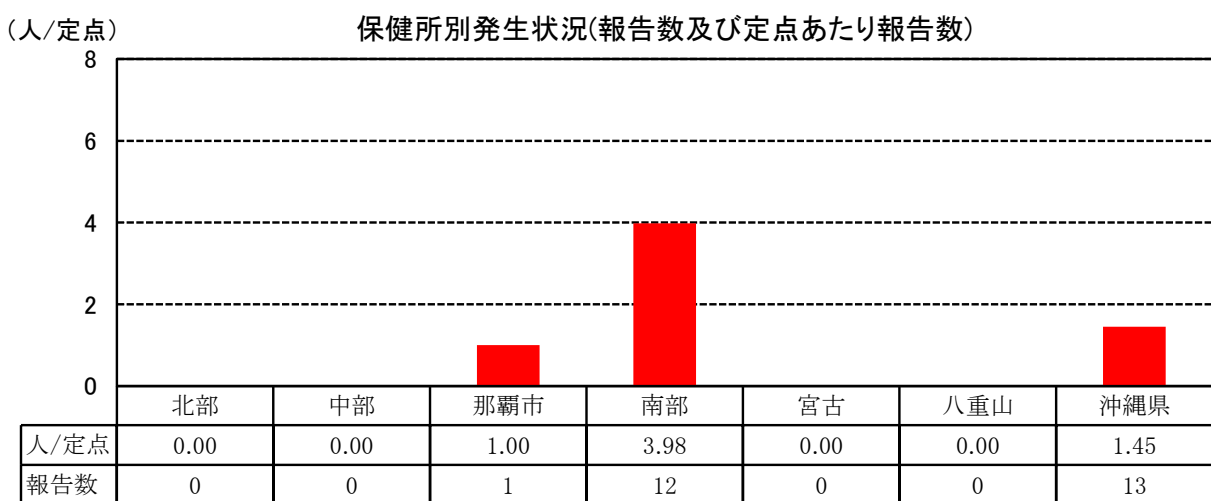
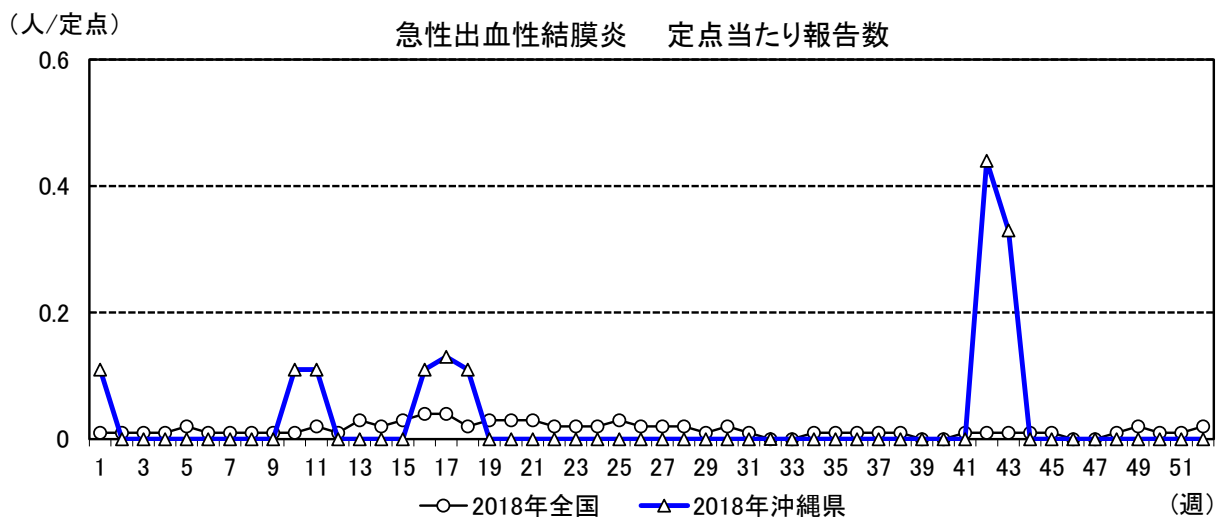
年次別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 ○ 全国



シーズン別の報告数合計：急性出血性結膜炎

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
17	16	30	18	10	13



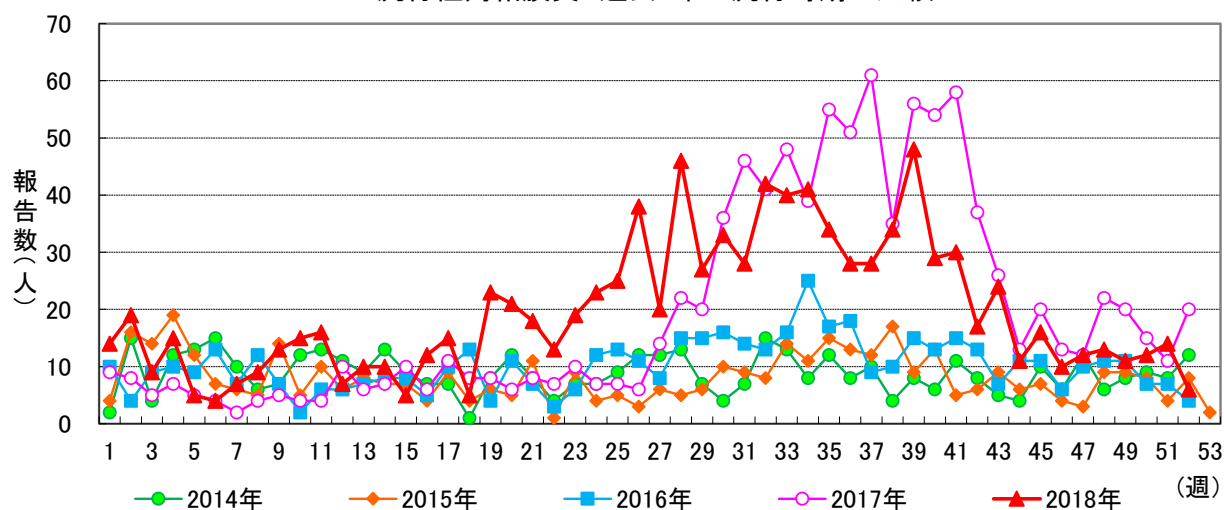
## 流行性角結膜炎

流行性角結膜炎（EKF）は、D群のアデノウイルス8、19、37型等を原因ウイルスとし、流涙（なみだ目）・充血・眼脂（めやに）を主症状とする。家庭内、職場、病院などの人が濃密に接触する場所で流行しやすいとされている。

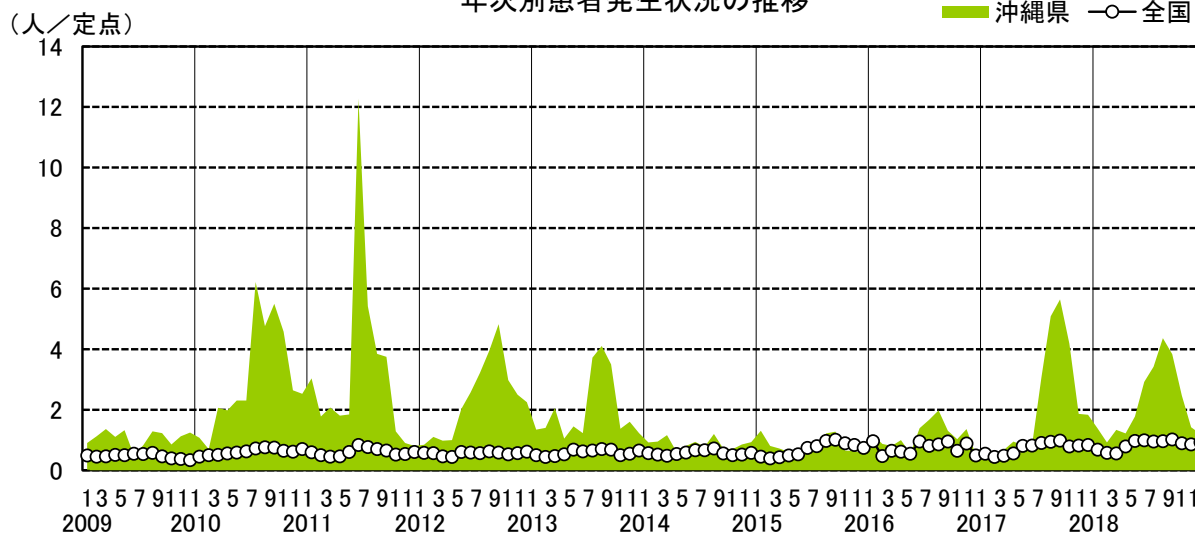
2018年県内の報告数は1,024人、定点当たり報告数は114.00人であり、2014年以降で報告数が最も多い。2018年は、全国、県内ともに、警報レベルの開始基準値8を上回った週はなかった。保健所別では、北部で39週と43週、南部で26～28週、34～40週、八重山で26～33週、40～42週で警報レベルであった。

年齢階級別では、乳児から高齢者まで幅広く報告され、そのうち30-39歳の報告数が最も多く全体の18.7%を占めた。

流行性角結膜炎 過去5年の流行時期の比較

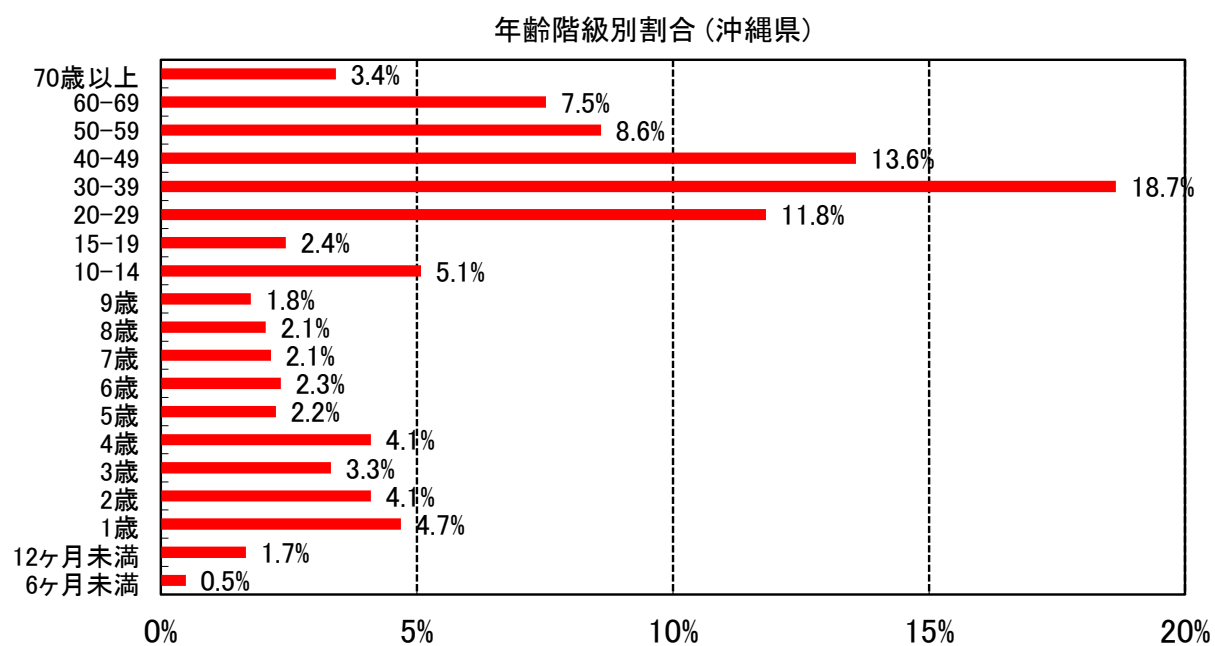
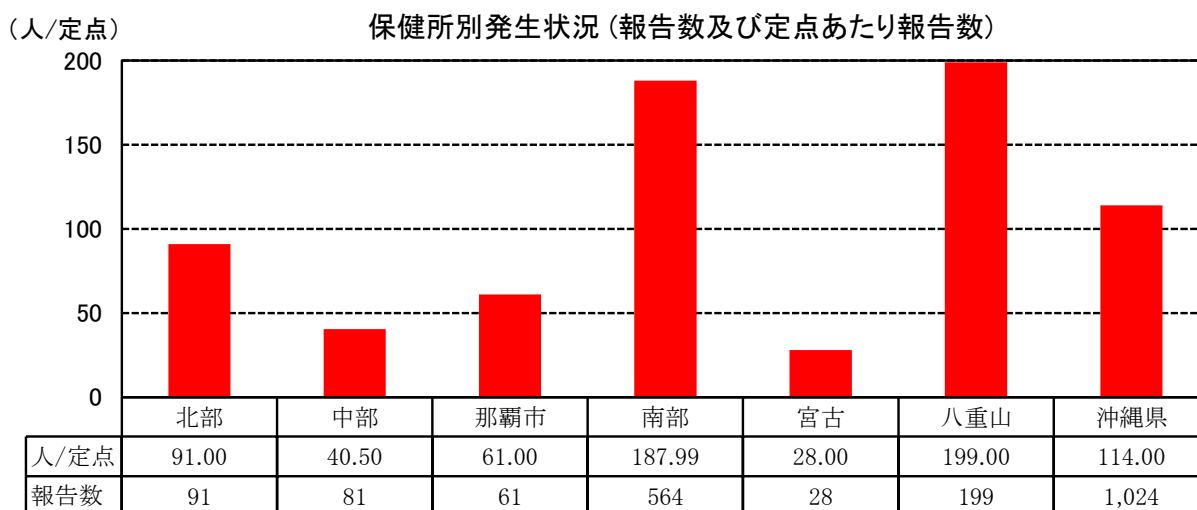
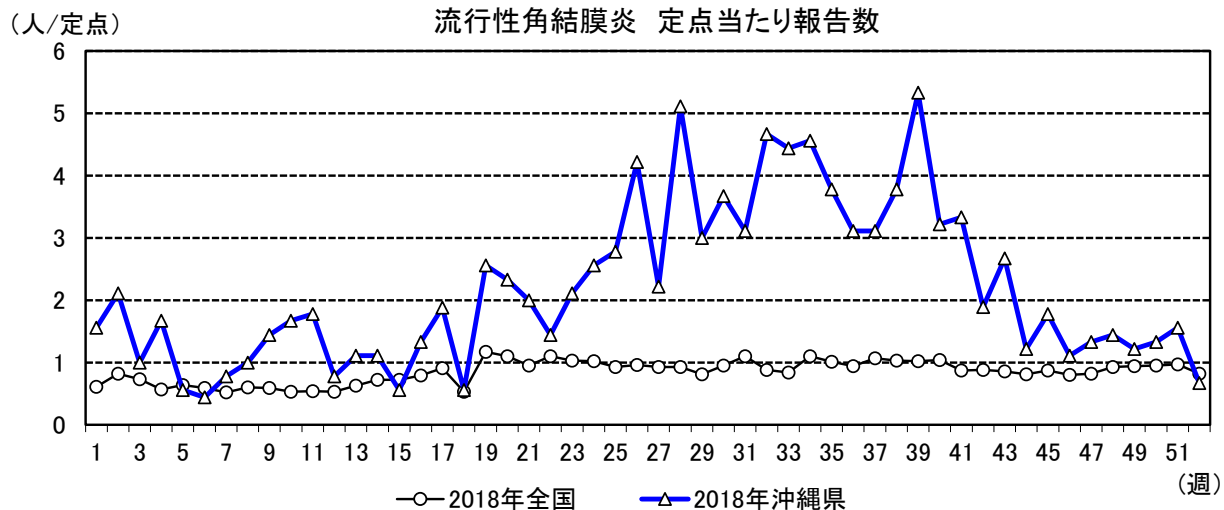


年次別患者発生状況の推移



シーズン別の報告数合計：流行性角結膜炎

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
692	459	429	530	1,019	1,024



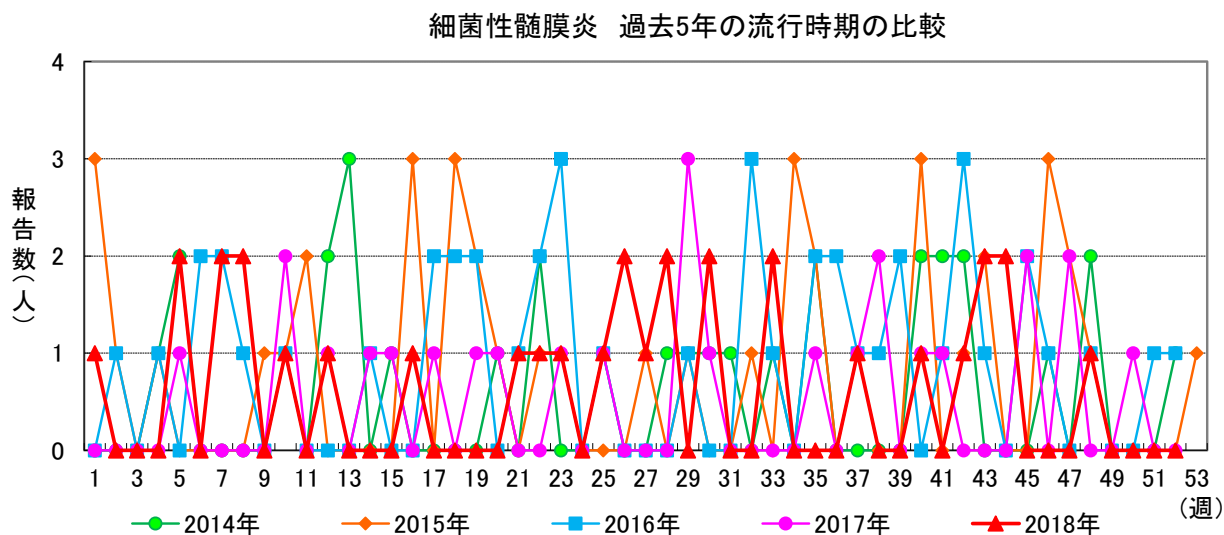
(基幹定点)

## 細菌性髄膜炎

細菌性髄膜炎は、種々の細菌感染による髄膜炎の総称であり、多くは発熱、頭痛、嘔吐を主症状とし、進行すると意識障害や痙攣がみられる。季節性はなく、原因菌はインフルエンザ菌、肺炎球菌が多い。

2018年県内の報告数は31人、定点当たり報告数は4.43人であった。

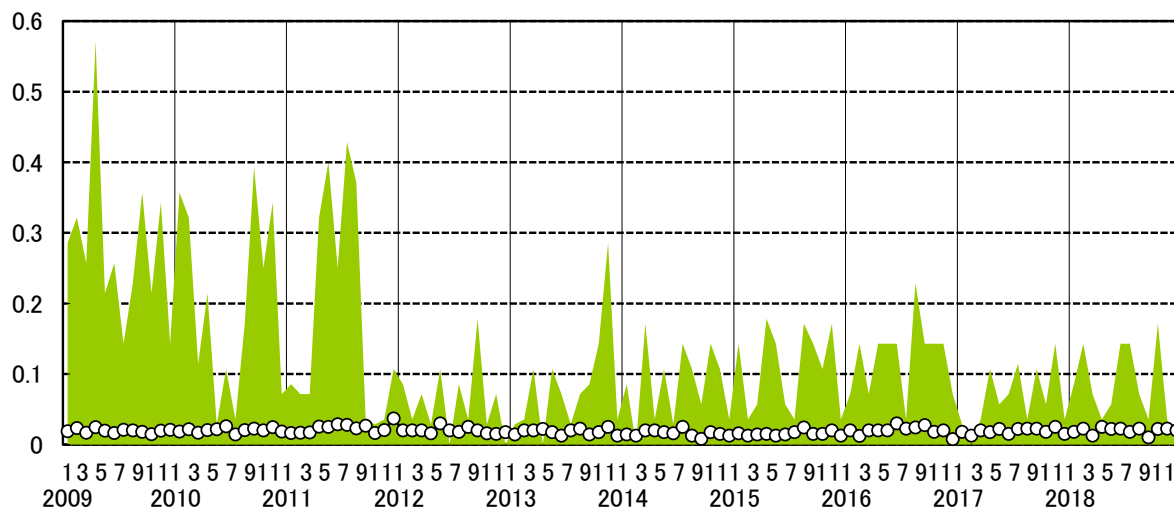
年齢階級別では、70歳以上の報告数が最も多く全体に占める割合が29.0%であり、次いで0歳の報告数が続き25.8%であった。



(人／定点)

## 年次別患者発生状況の推移

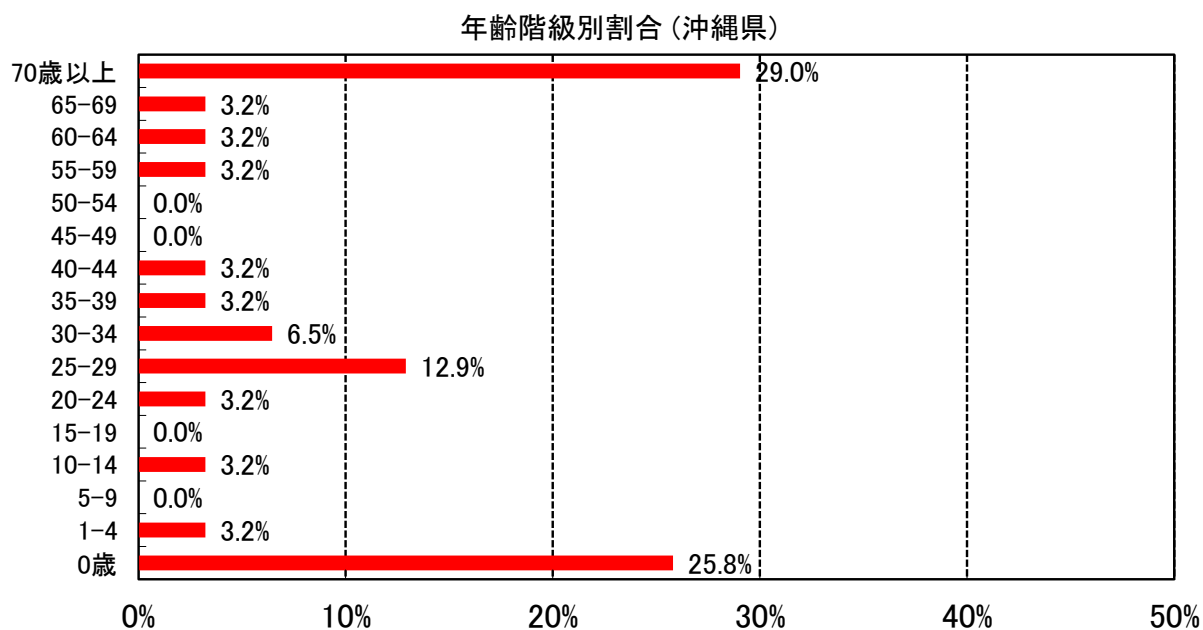
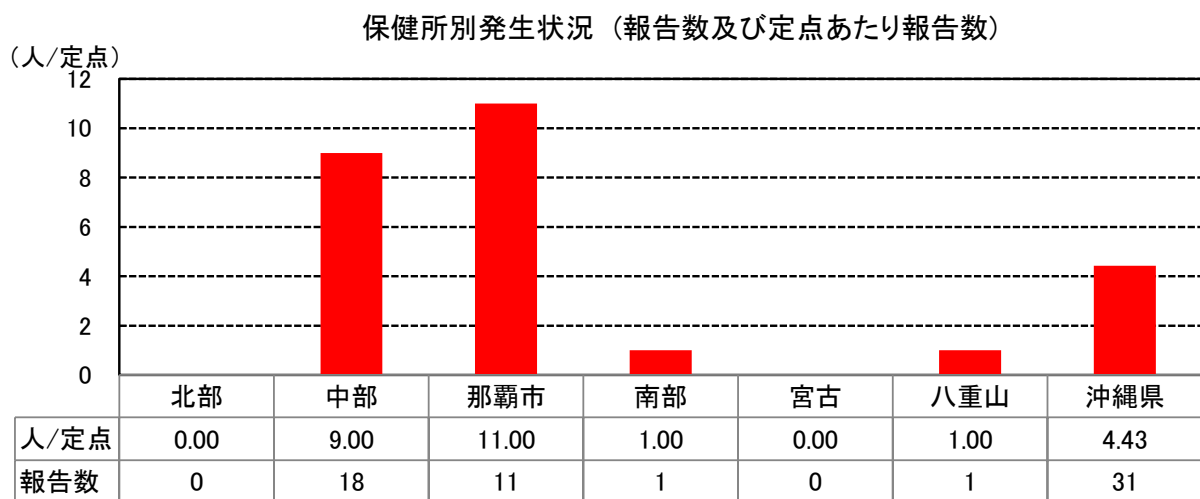
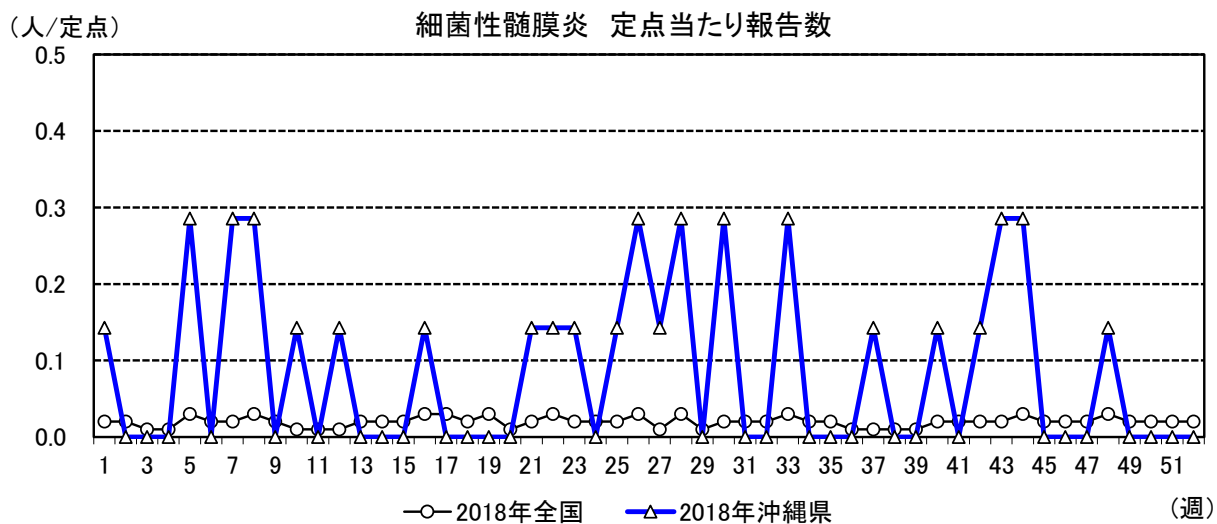
■ 沖縄県    ○ 全国



## シーズン別の報告数合計：細菌性髄膜炎

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
34	31	40	46	24	31





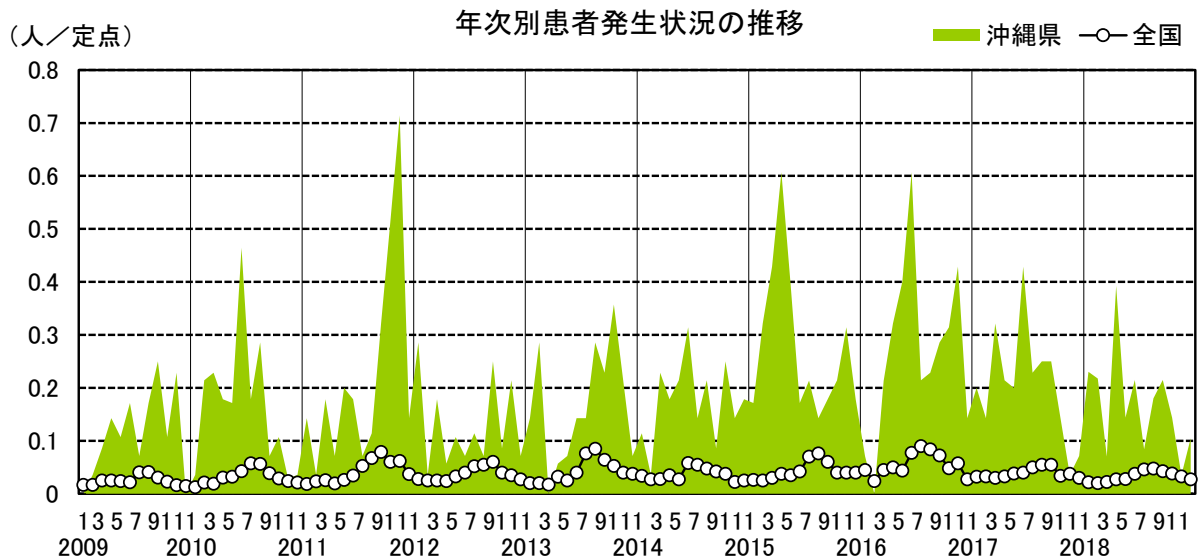
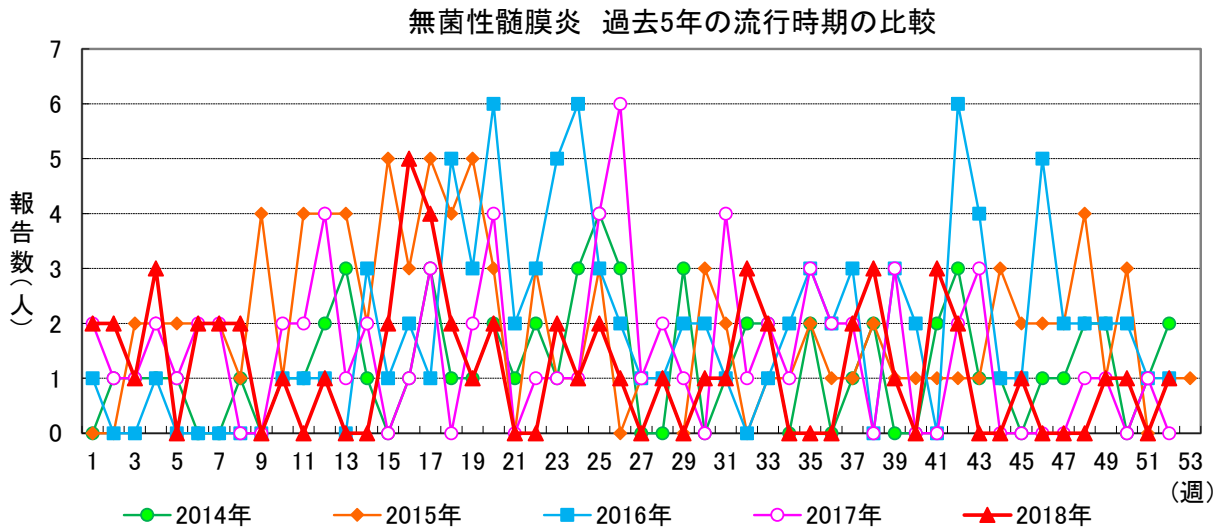
## 無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎は、多種多様な起因病原体があるが、全体の85%がエンテロウイルスによるものである。通常、発熱、嘔吐、頭痛を主症状とする。

2018年県内の報告数は61人、定点あたり報告数は8.73人であった。2014年以降で報告数は最も少なかった。

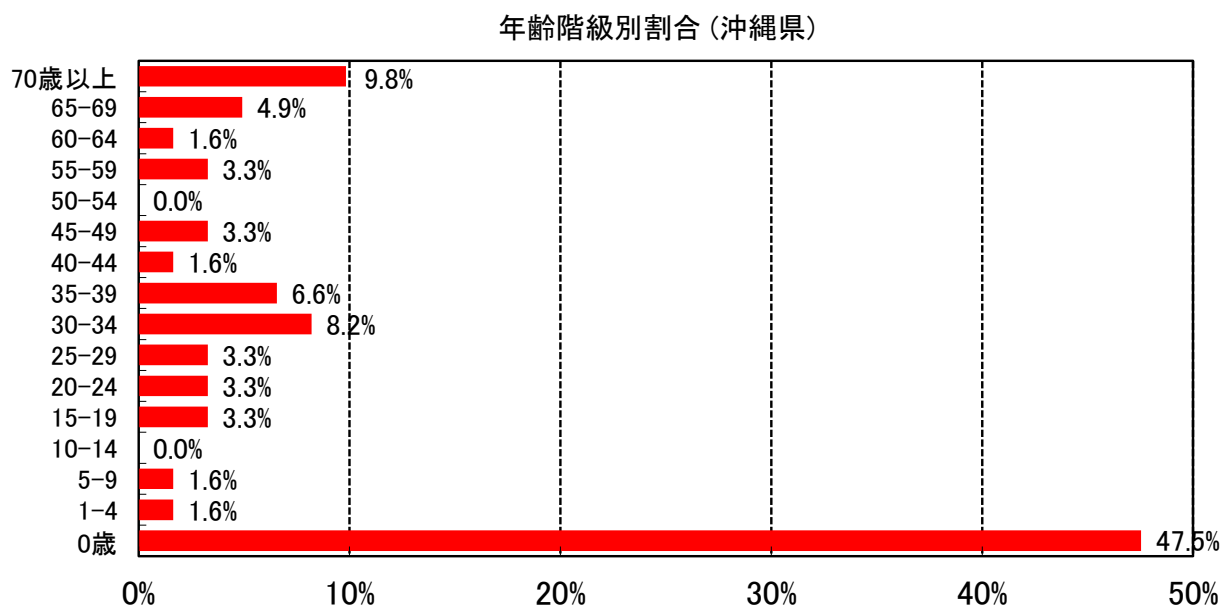
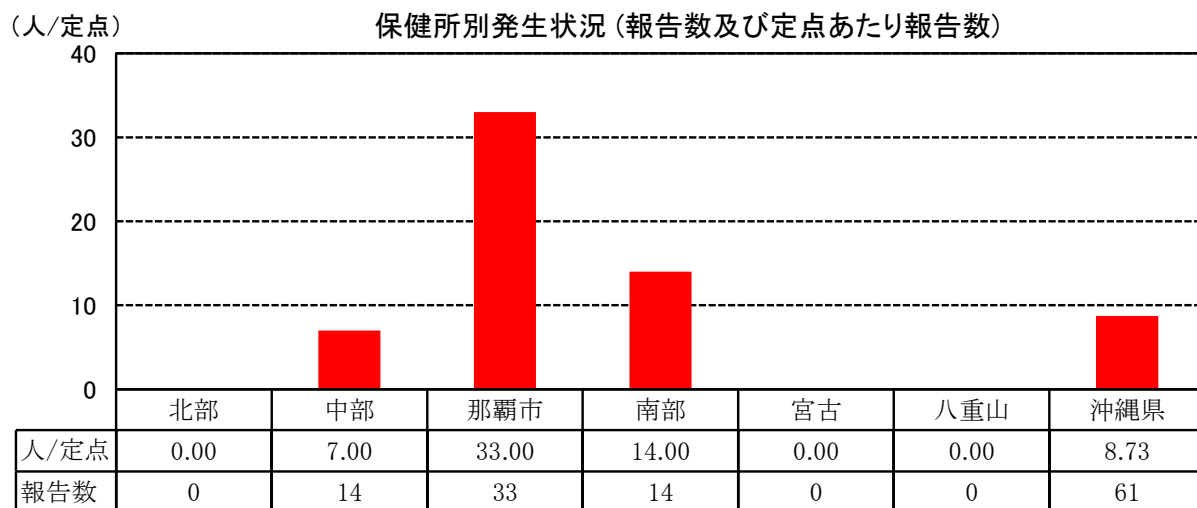
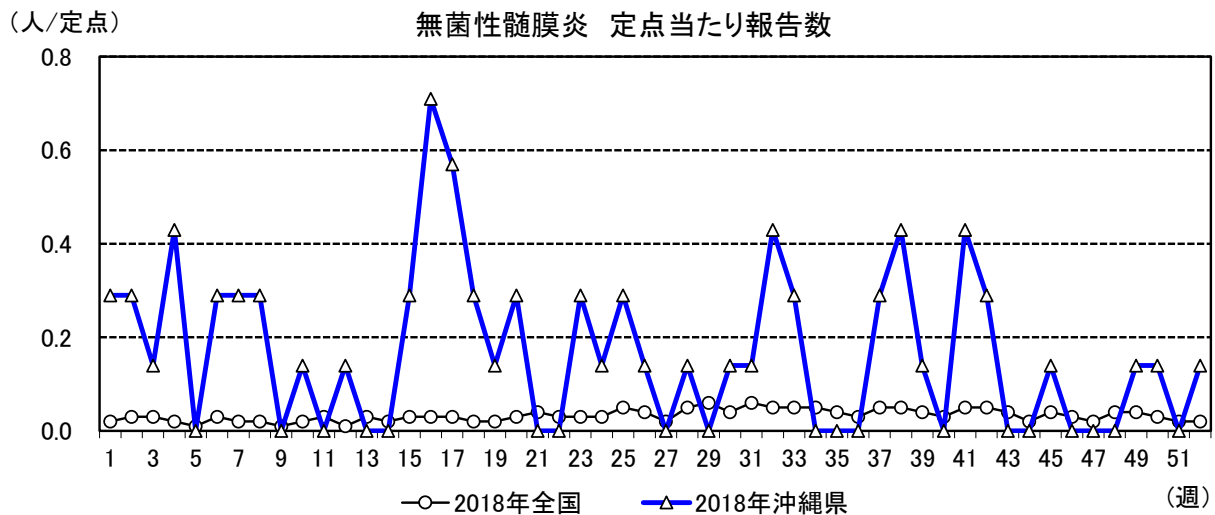
北部、宮古、八重山保健所管内からの報告はなかった。

年齢階級別の患者報告数は0歳が最も多く、全体の47.5%を占めていた。



### シーズン別の報告数合計：無菌性髄膜炎

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
80	64	102	97	75	61



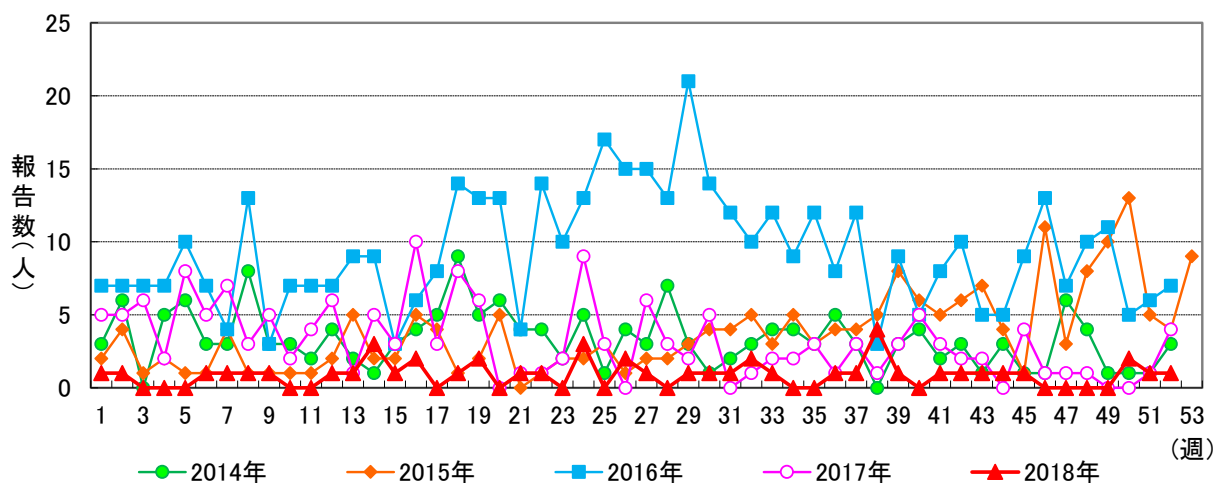
## マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによる呼吸器感染症である。晩秋から早春にかけて報告数が多くなり、罹患年齢は幼児期、学童期、青年期が中心である。感染の拡大は通常閉鎖集団などではみられるが、学校などでの短時間での暴露による感染拡大の可能性は高くなく、友人間での濃厚接触によるものとされている。

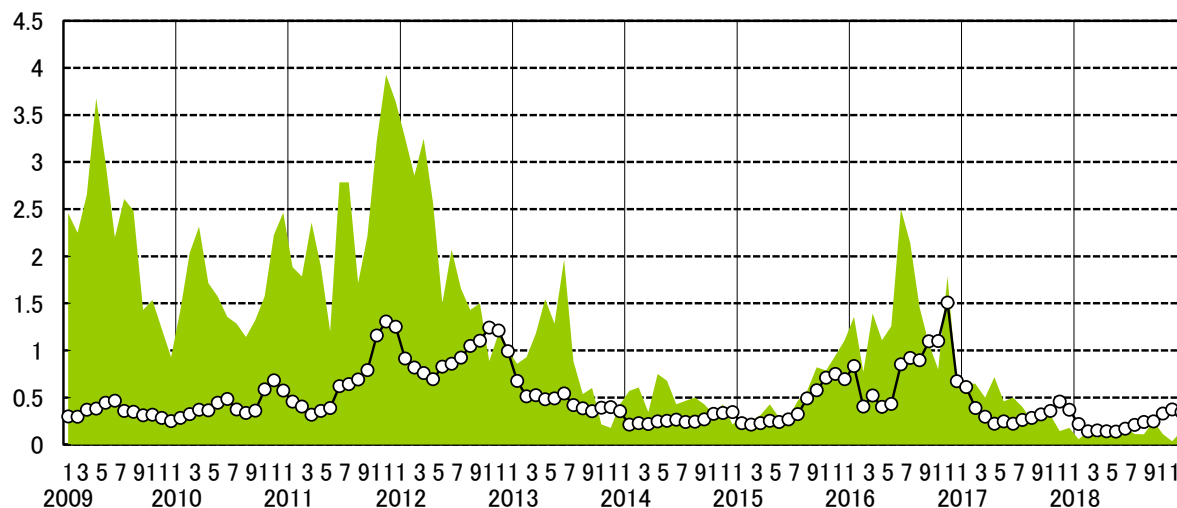
2018年県内の報告数は47人、定点当たり報告数は6.66人であり、2014年以降で報告数が最も少なかった。中部保健所管内からの報告数が、全体の約60%を占めた。

年齢階級別では、1-4歳、5-9歳の順で報告数が多く、全体に占める割合はそれぞれ36.2%、25.5%であった。

マイコプラズマ肺炎 過去5年の流行時期の比較

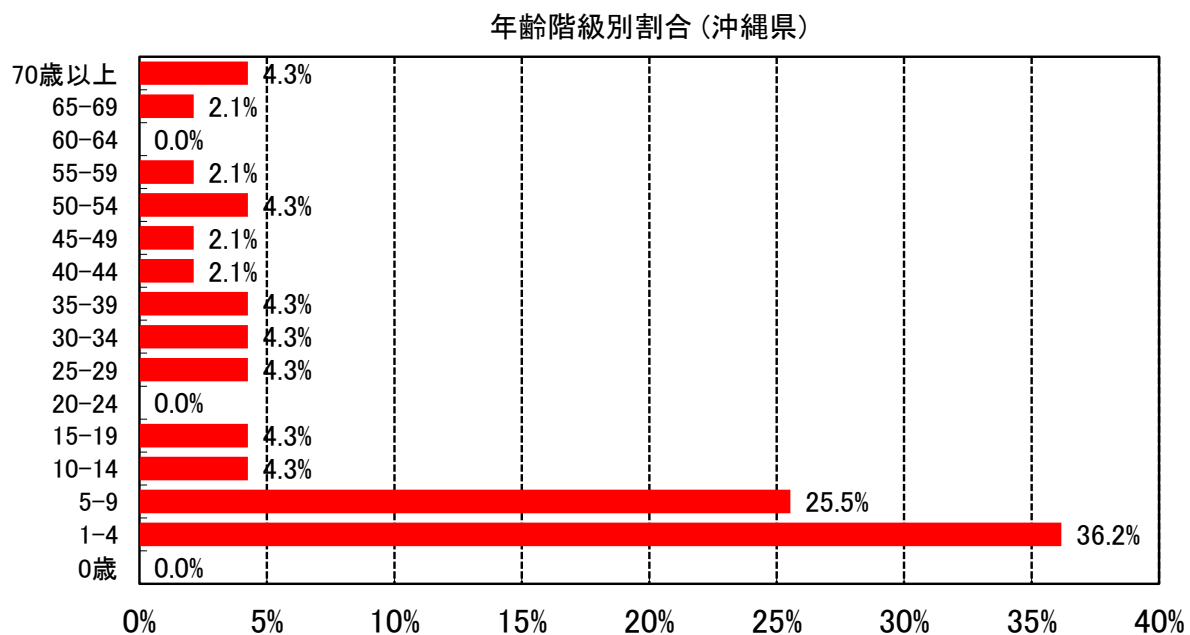
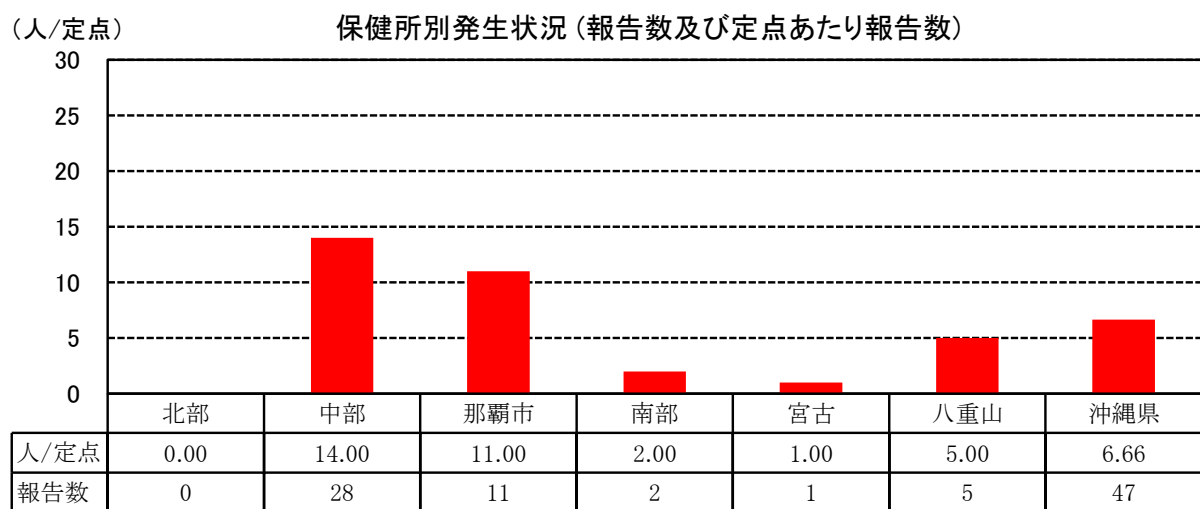
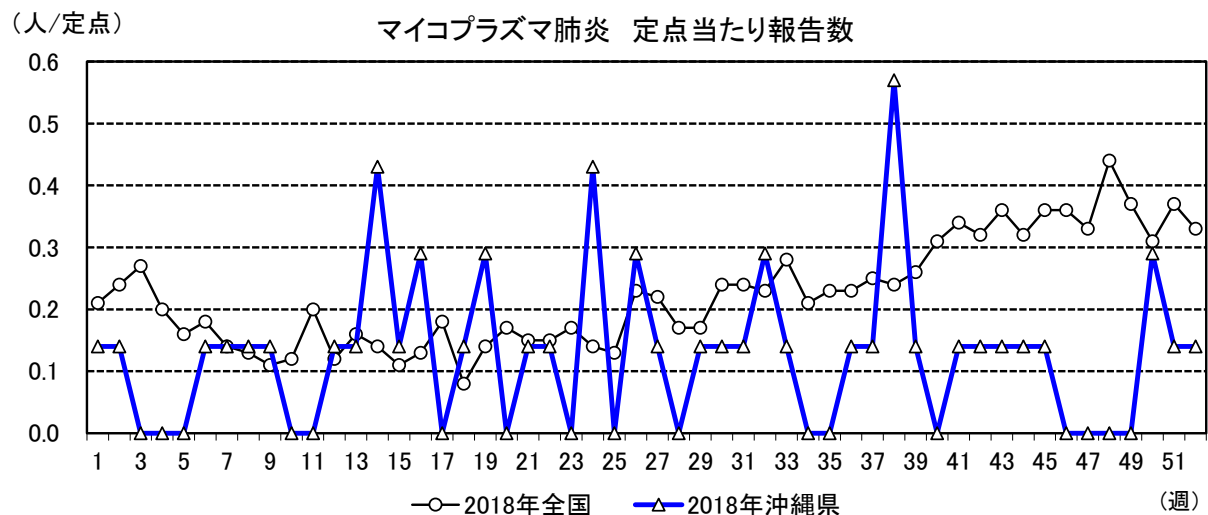


(人／定点) 年次別患者発生状況の推移 沖縄県 全国



シーズン別の報告数合計: マイコプラズマ肺炎

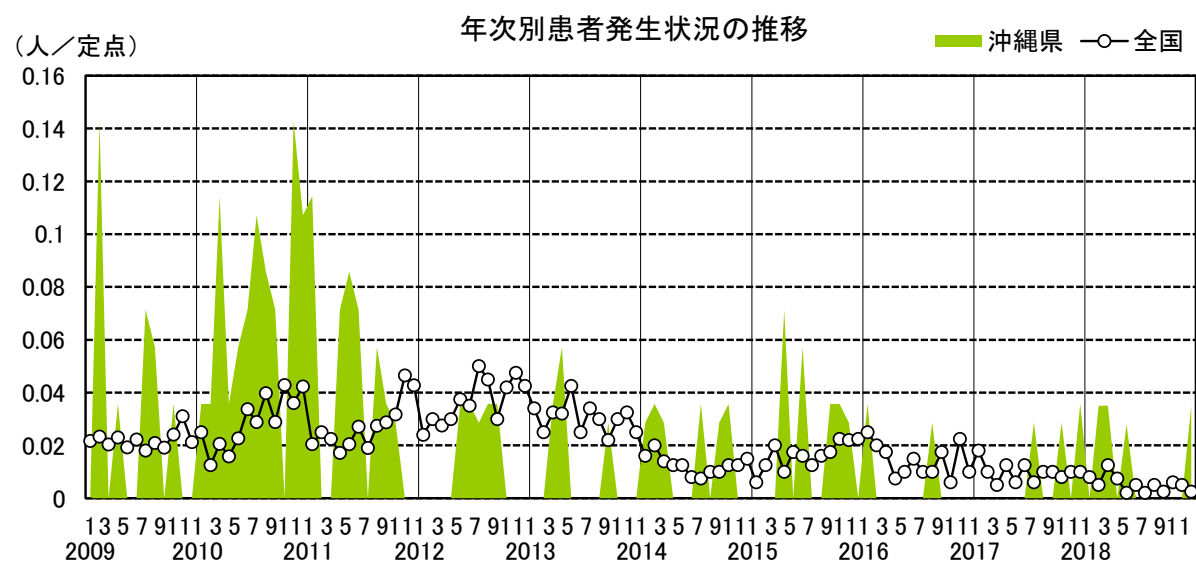
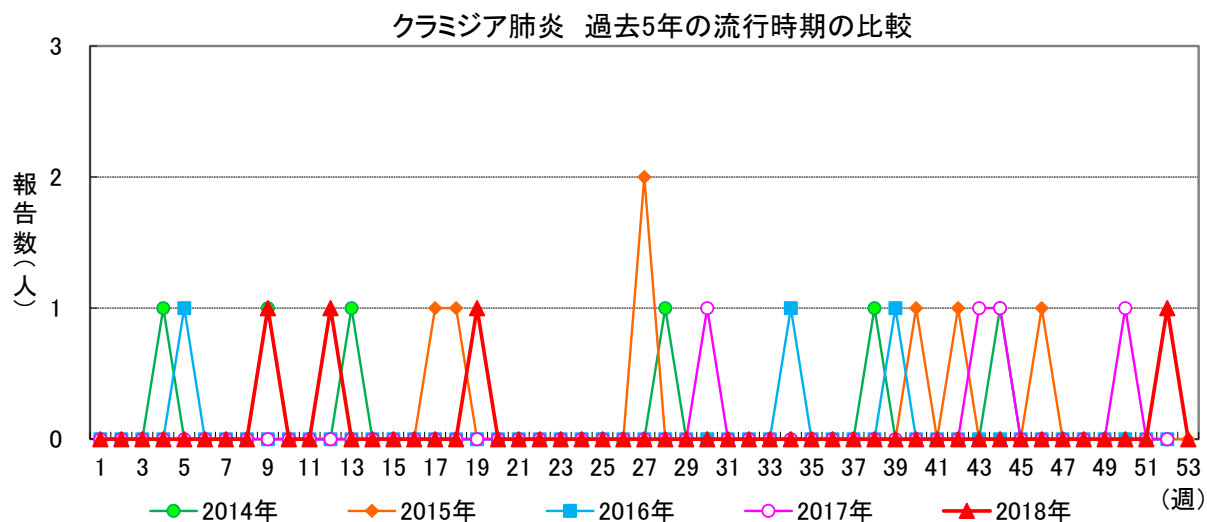
平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
212	173	200	486	154	47



## クラミジア肺炎

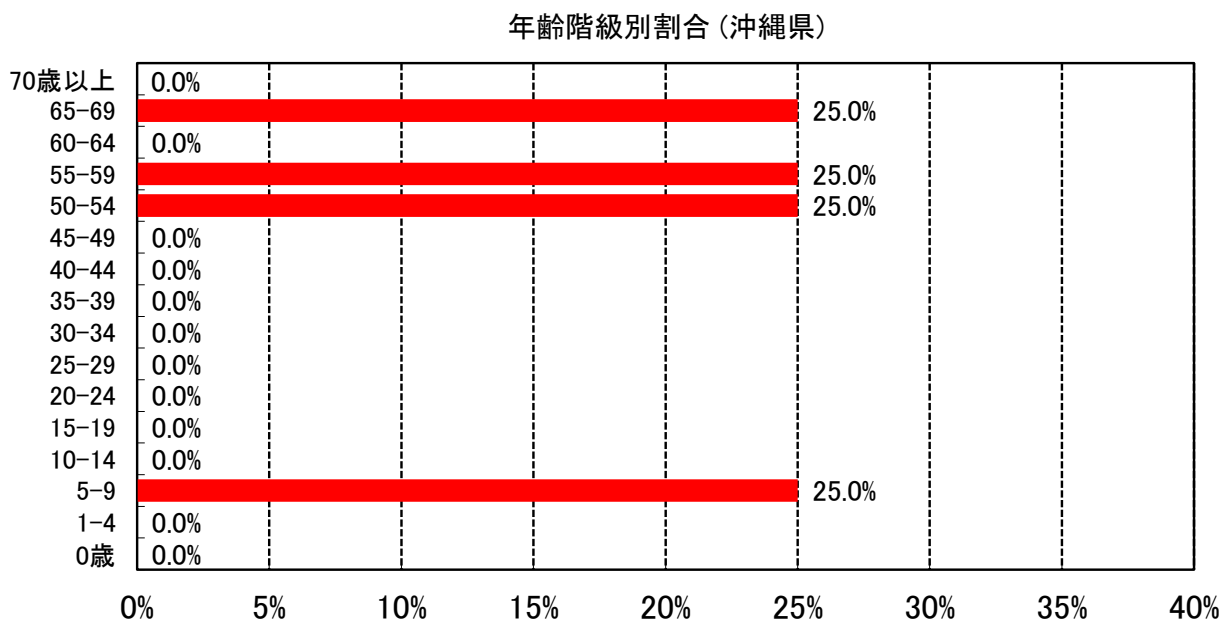
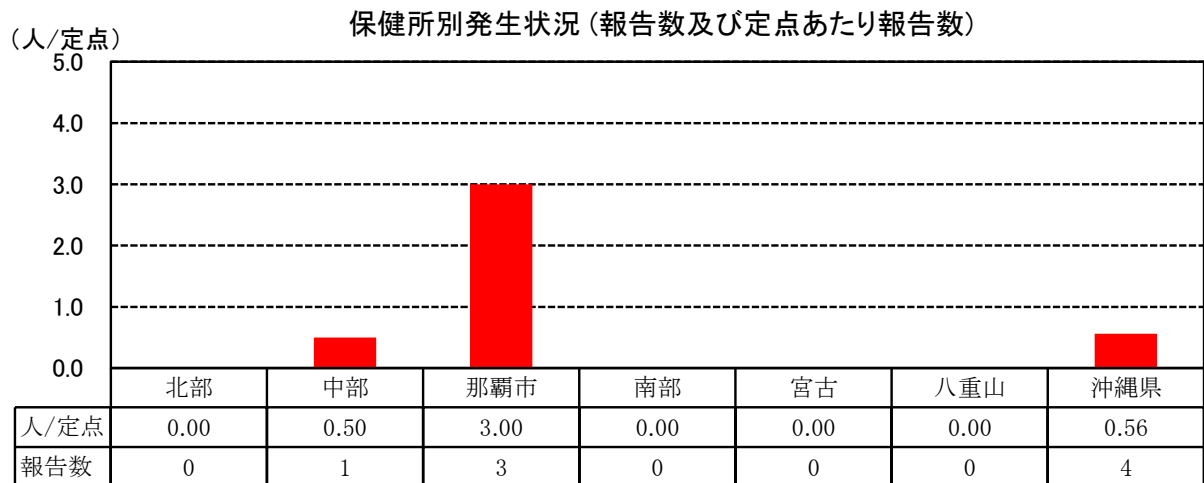
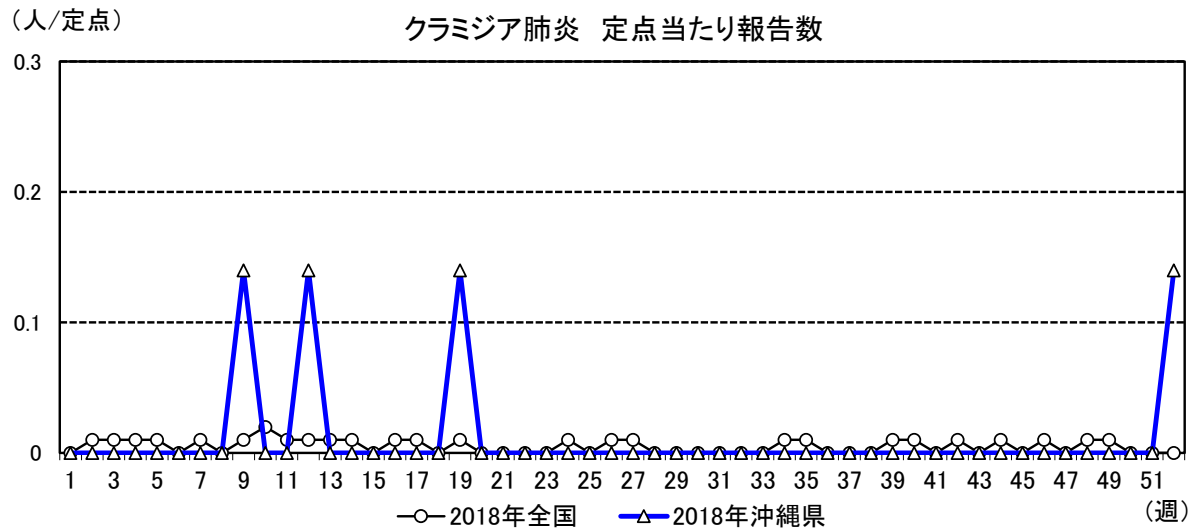
クラミジア肺炎は、肺炎クラミジア、トラコーマ・クラミジアによる肺炎である。

2018年県内の報告数は4人、定点当たり報告数は0.56人であった。那覇市保健所管内からの報告数が3件、中部保健所からの報告数が1件であった。



## シーズン別の報告数合計：クラミジア肺炎

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
4	6	7	2	3	4

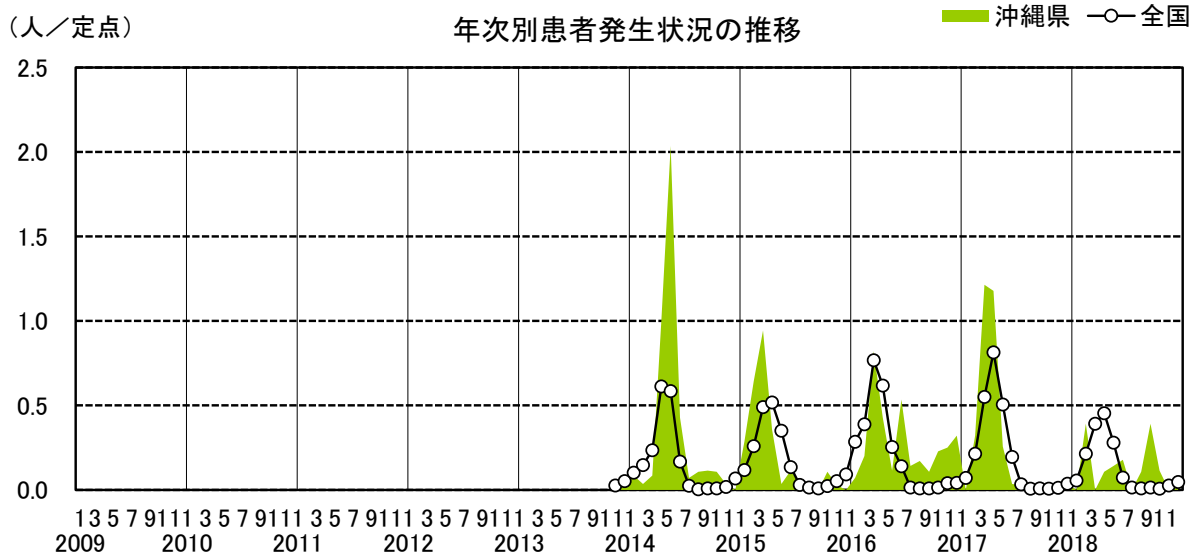
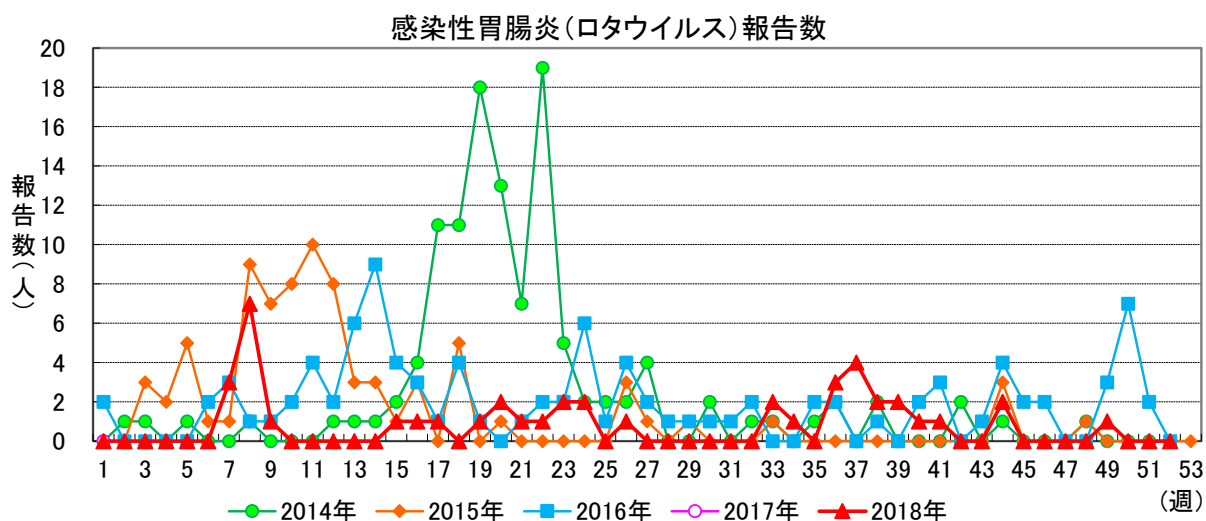


## 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

平成25年10月14日から、ロタウイルスによる感染性胃腸炎が基幹定点の対象疾患に追加された。この改正により、感染性胃腸炎について、現行の小児科定点における届出に加え、基幹定点において迅速診断キットによりロタウイルスによる感染性胃腸炎と診断された症例を届出の対象とすることで、重症例を中心にロタウイルス胃腸炎の発生動向をより正確に把握することとなった。

2018年県内の報告数は43人、定点当たり報告数は6.14人であり、2014年以降で報告数が最も少なかった。

年齢階級別では、1-4歳の報告数が最も多く、全体の55.8%を占めている。

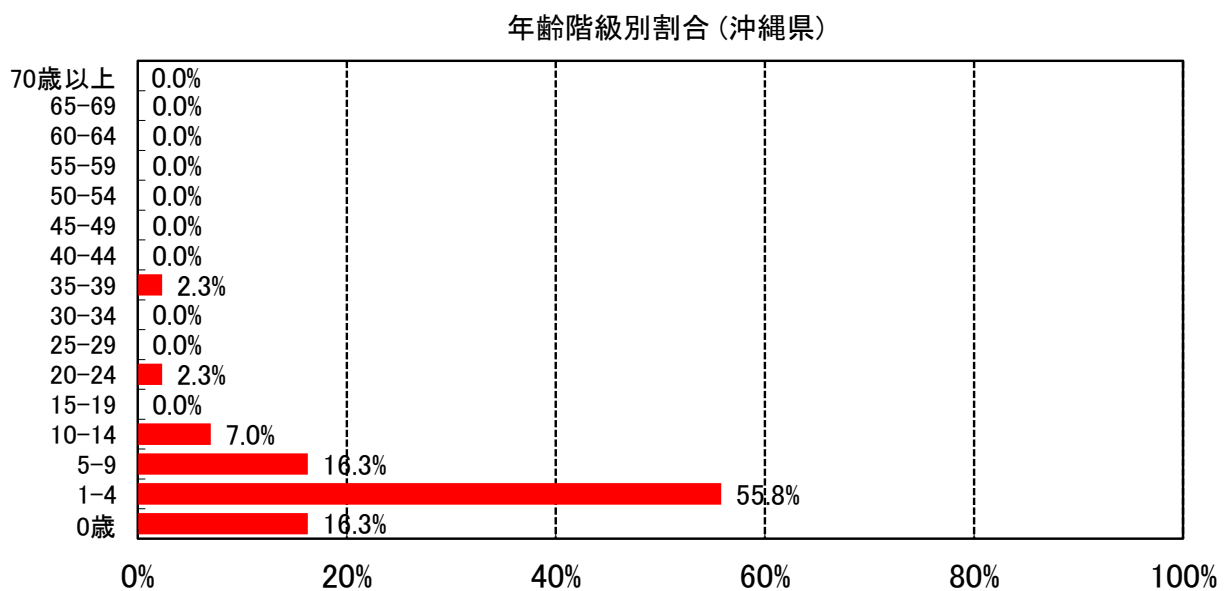
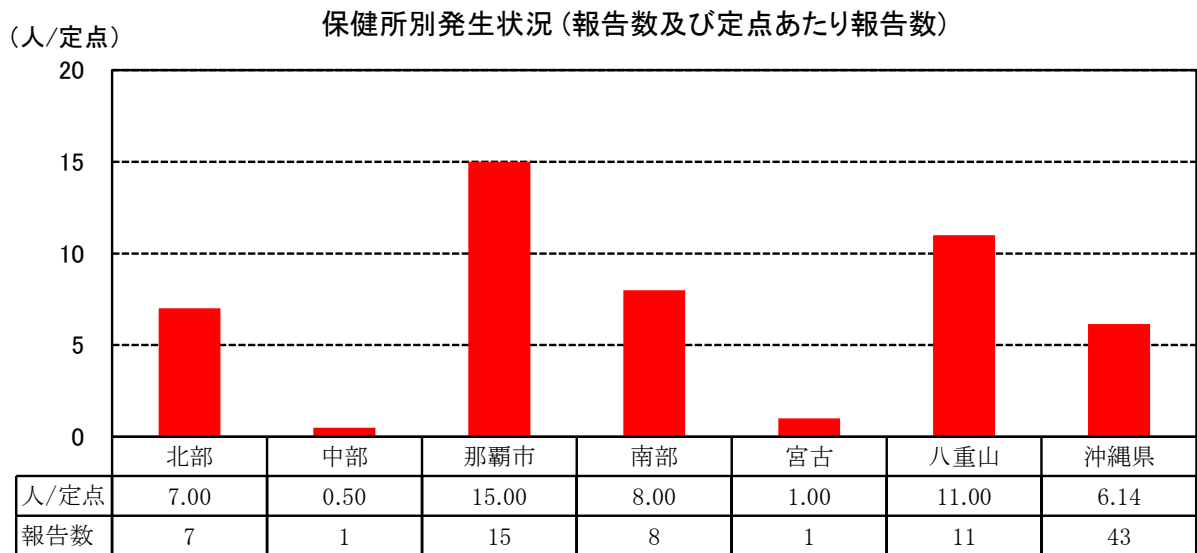
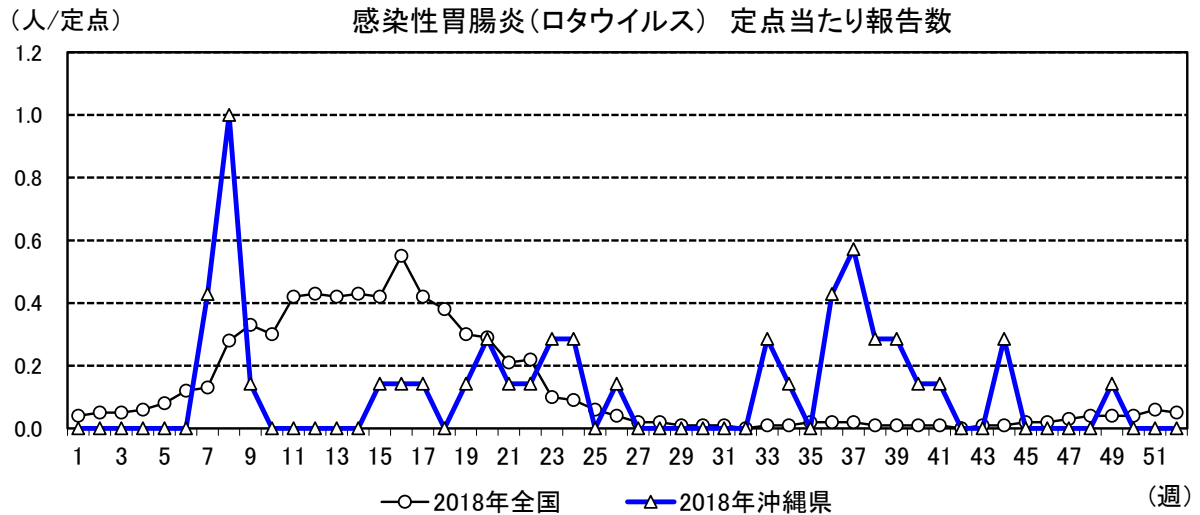


### シーズン別の報告数合計：感染性胃腸炎(ロタウイルス)

平均報告数※	2014年	2015年	2016年	2017年	2017年
78	120	82	100	88	43

※2013年10月14日から5類基幹定点把握対象となった。2014年～2017年の平均





## 2 月報

### (性感染症 (STD) 定点)

本県の性感染症 (STD) は 2014 年以降の 5 年間の年次推移をみると、2014 年は 208 人、2015 年は 261 人、2016 年 204 人、2017 年 314 人 (男性 : 90 人、女性 : 214 人)、2018 年 409 人 (男性 : 90 人、女性 : 319 人) であり、2018 年は前年比 1.30 倍と増加した。これは女性の増加によるものであった。

また、2018 年の STD の年代別では、20 代が最も多く、次いで 30 代と続いた。

2018 年の STD の内訳は、性器クラミジア感染症 228 人 (55.7 %)、性器ヘルペスウイルス感染症 109 人 (26.7 %)、尖圭コンジローマ 48 人 (11.7 %)、淋菌感染症 24 人 (5.9 %) であった。男女比 (男 : 女) は、性器クラミジア感染症 (1 : 4.4)、性器ヘルペスウイルス感染症 (1 : 4.7)、尖圭コンジローマ (1 : 1.8)、淋菌感染症 (1 : 1) であった。

なお、宮古、八重山は人口規模が小さいため、性感染症の定点医療機関は設置されていない。

#### 性器クラミジア感染症

2018 年の本県の報告数は 228 人、定点当たり報告数は 19.01 人であり、前年比 1.19 倍と増加した。性別では男性が 42 人、女性が 186 人で女性の報告数が多く、女性は前年 (144 人) と比べて増加した。年齢別では、10 代後半～30 代にかけて報告数が多い。

#### 性器ヘルペスウイルス感染症

2018 年の本県の報告数は 109 人、定点当たり報告数は 9.08 人であり、前年比 1.69 倍と増加した。男性が 19 人、女性が 90 人で女性の報告数が多く、女性は前年 (53 人) に比べ 1.70 倍増加した。

#### 尖圭コンジローマ感染症

2018 年の本県の報告数は 48 人、定点当たり報告数は 4.00 人で前年比 1.87 倍と増加した。男性が 17 人、女性が 31 人で、女性は前年 (15 人) に比べ 2.07 倍増加した。

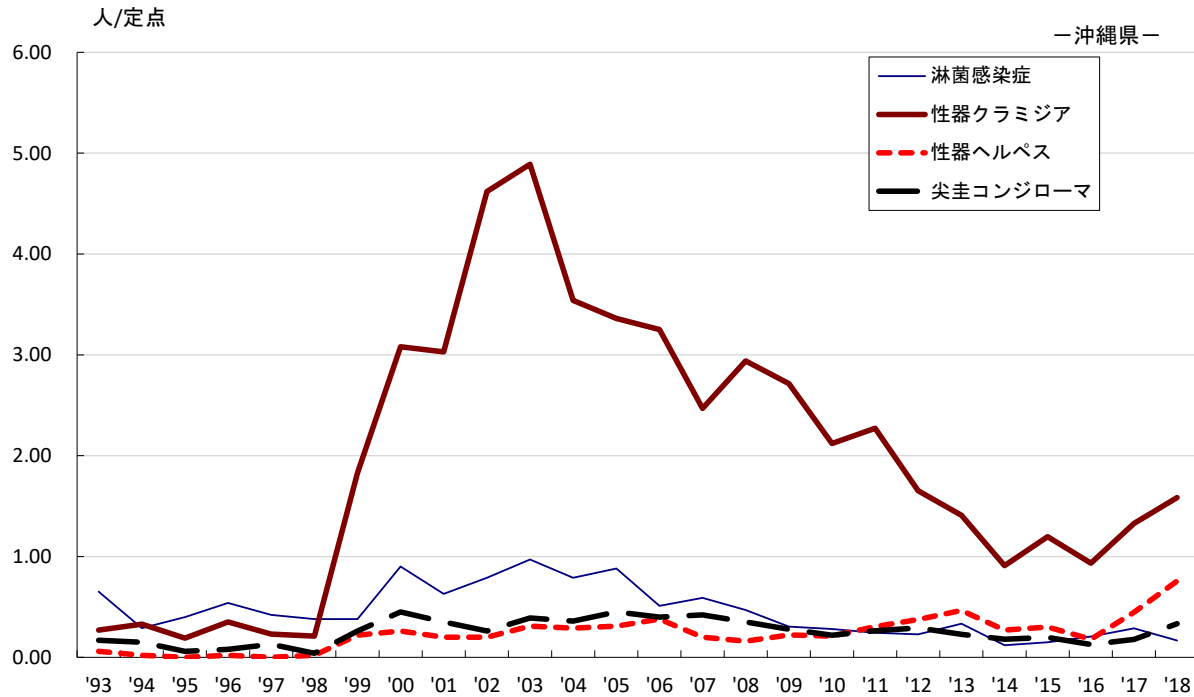
#### 淋菌感染症

2018 年の本県の報告数は 24 人、定点当たり 1.99 人であり、前年比 0.58 倍と減少した。男性が 12 人、女性が 12 人で男女同数であった。

## 疾患別患者報告数の年次推移

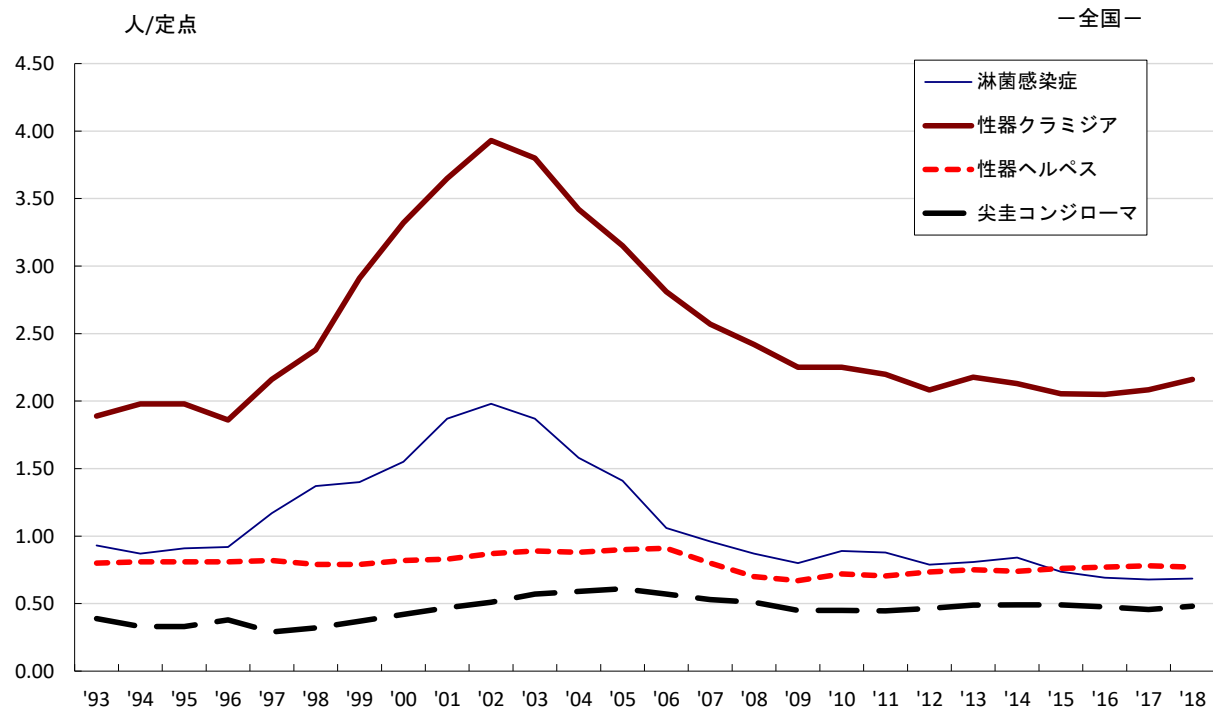
平成30年12月末現在

性感染症の定点あたり報告数（月平均：沖縄県）



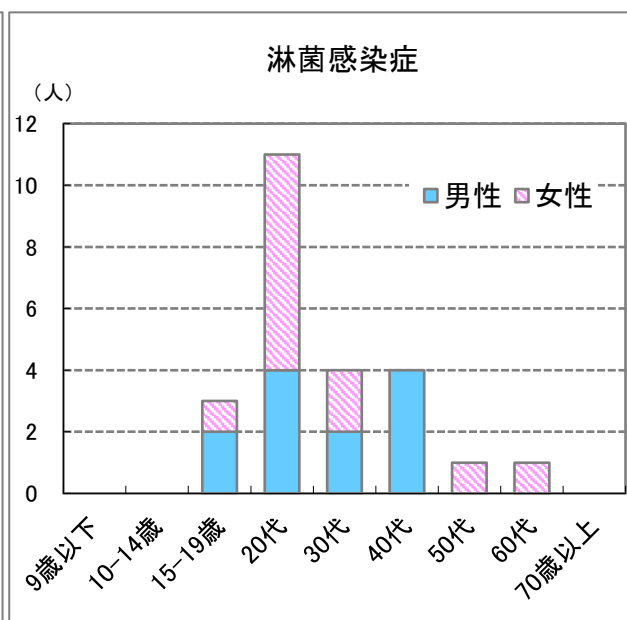
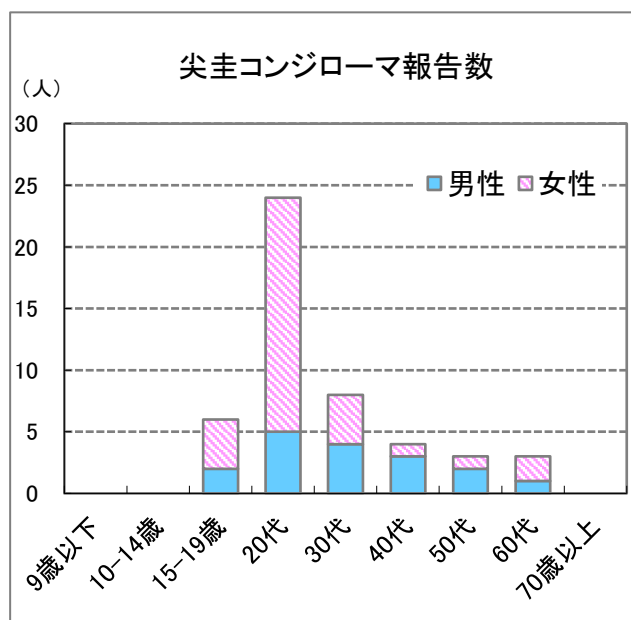
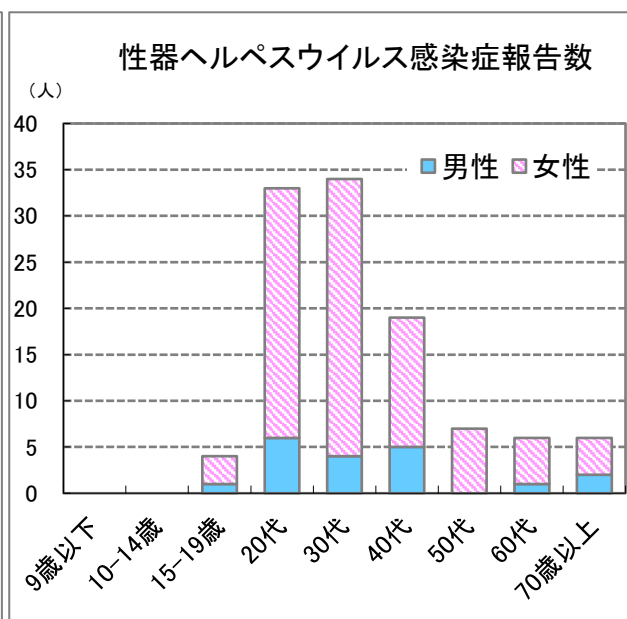
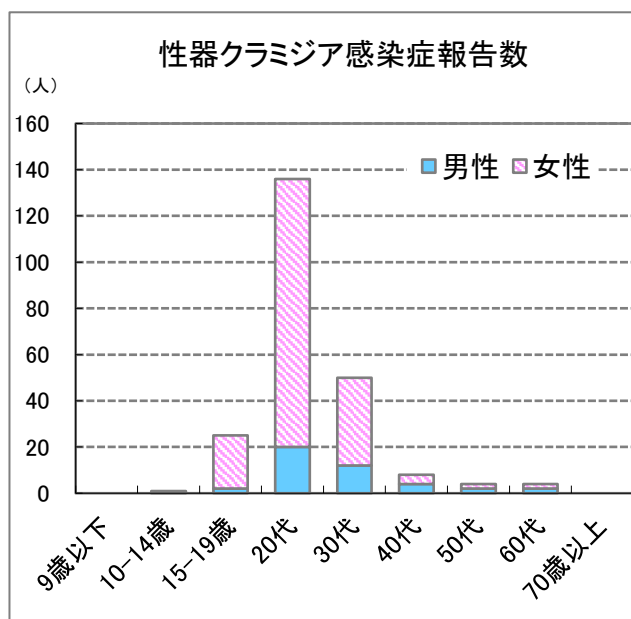
平成30年12月末現在

性感染症の定点あたり報告数（月平均：全国）



(性感染症定点)

性別・年齢別患者報告数(沖縄県 2018年)



		9歳以下	10-14歳	15-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	男性	0	0	2	20	12	4	2	2	0	42
	女性	0	1	23	116	38	4	2	2	0	186
性器ヘルペスウイルス感染症	男性	0	0	1	6	4	5	0	1	2	19
	女性	0	0	3	27	30	14	7	5	4	90
尖圭コンジローマ	男性	0	0	2	5	4	3	2	1	0	17
	女性	0	0	4	19	4	1	1	2	0	31
淋菌感染症	男性	0	0	2	4	2	4	0	0	0	12
	女性	0	0	1	7	2	0	1	1	0	12



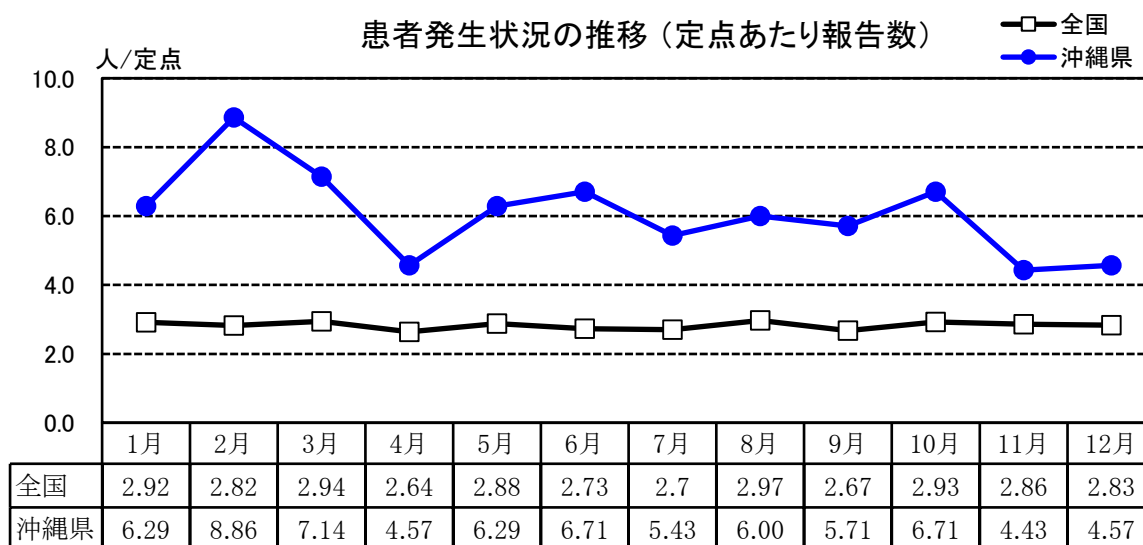
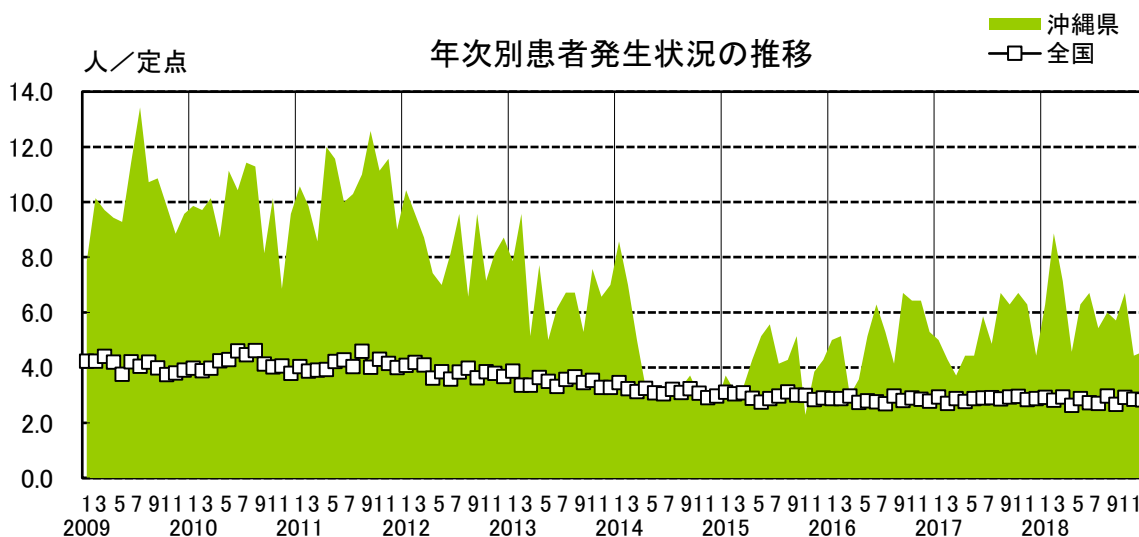
(基幹定点(薬剤耐性菌))

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症は、メチシリンなどのペニシリン剤をはじめとして、 $\beta$ -ラクタム剤、アミノ配糖体、マクロライド剤など多くの薬剤に対し耐性を示すMRSAによる感染症である。

2018年県内での報告数は509人、定点あたり報告数は72.71人であり、2014年以降で報告数が最も多かった。本県の定点当たりの報告数は、2015年11月以降、全国値を超えている。

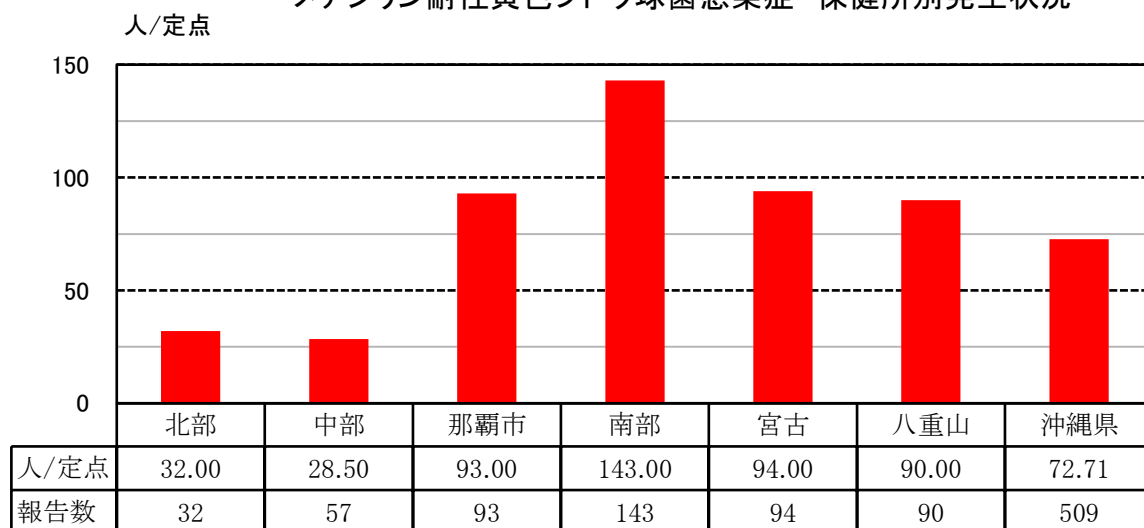
年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の47.7%を占めていた。



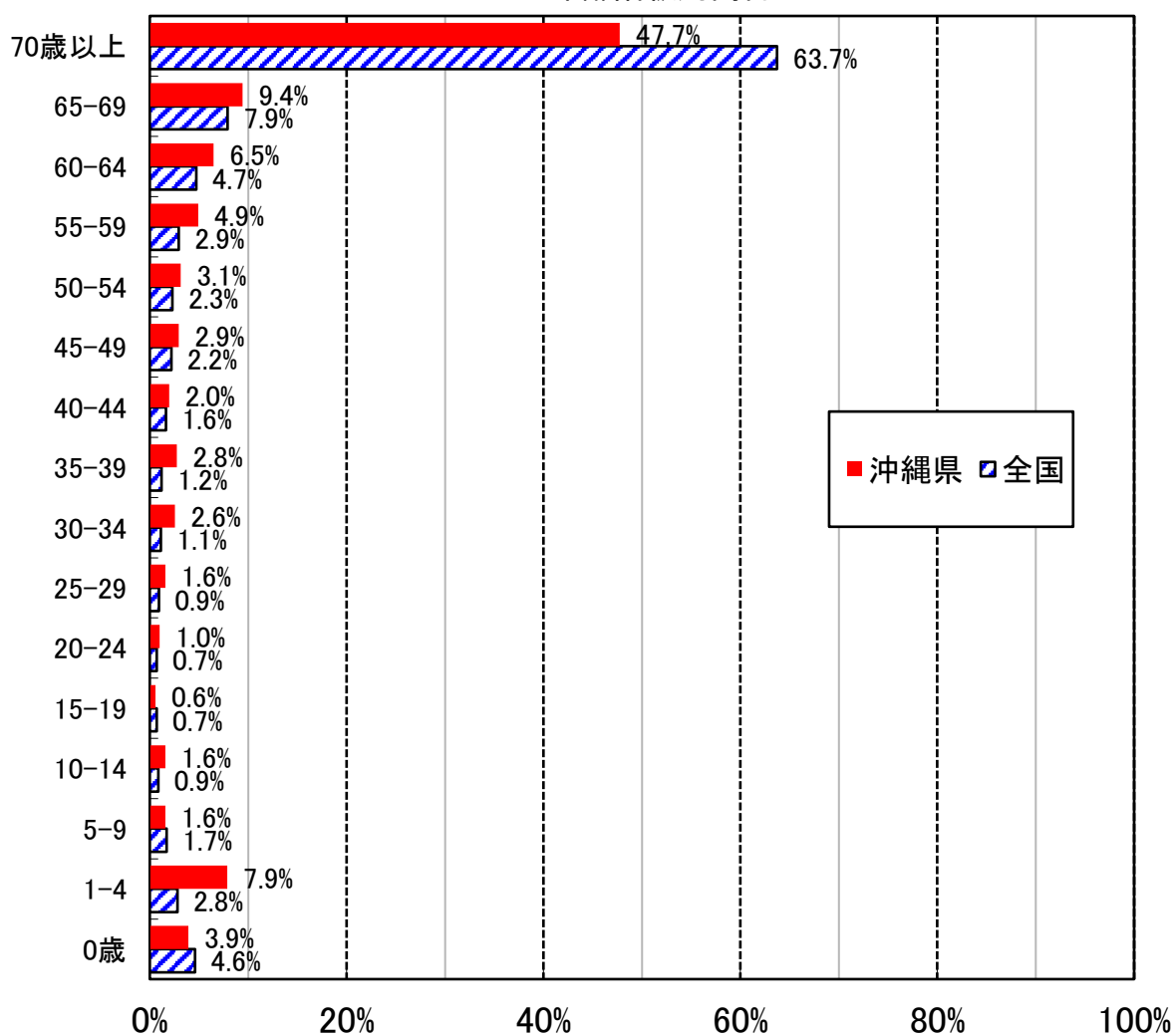
シーズン別の報告数合計：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
415	343	344	437	441	509

# メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 保健所別発生状況



## 年齢階級別割合

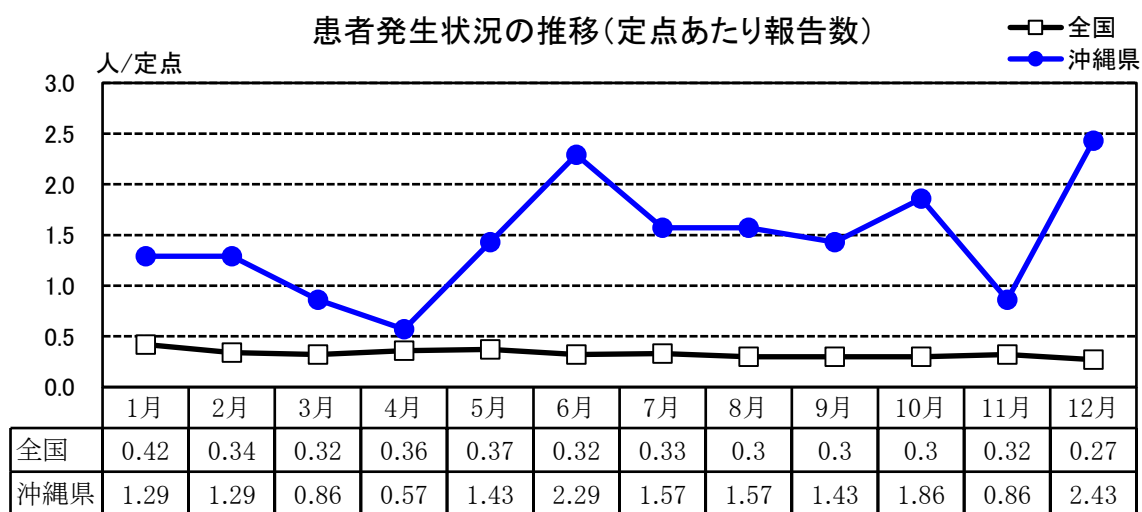
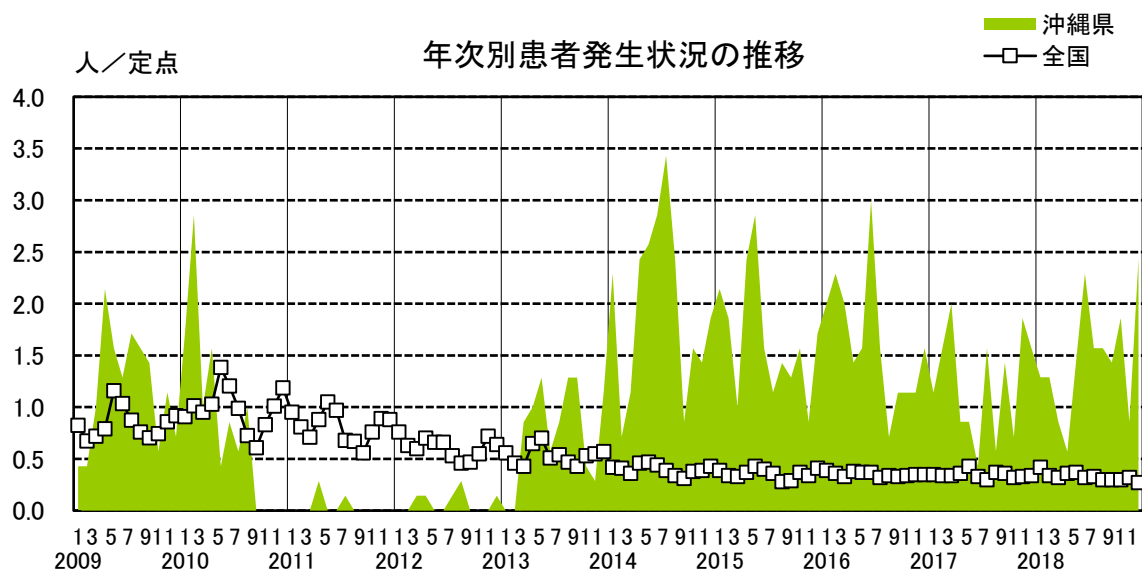


## ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）感染症は、抗生物質であるペニシリンに耐性を獲得した肺炎球菌である。通常は無症状であるが、小児の中耳炎、肺炎、高齢者の肺炎などの原因菌となって発症することがある。

2018年県内での報告数は122人、定点あたり報告数は17.45人であった。本県の報告数はすべての月で全国の報告数を上回っていた。

年齢階級別では、70歳以上の報告数が最も多く、全体の44.3%を占めていた。

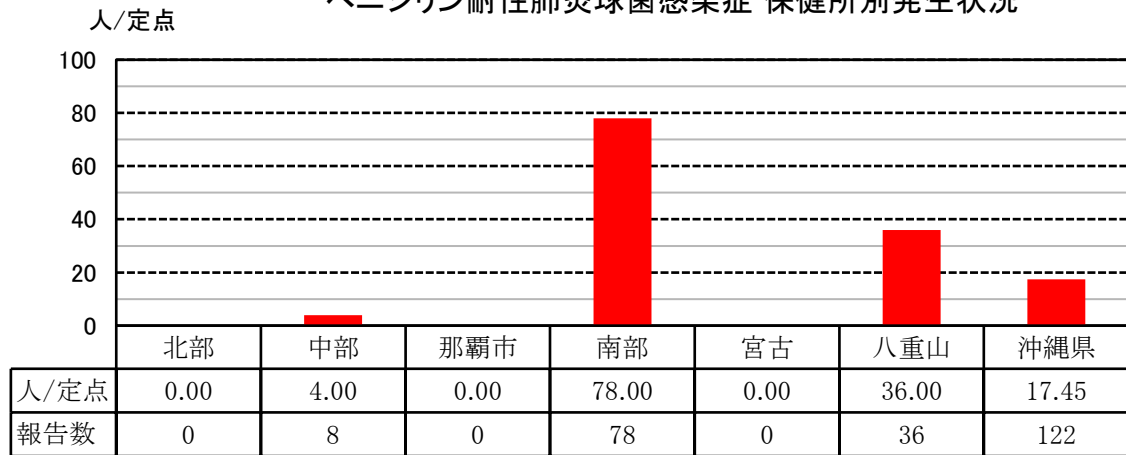


### シーズン別の報告数合計： ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

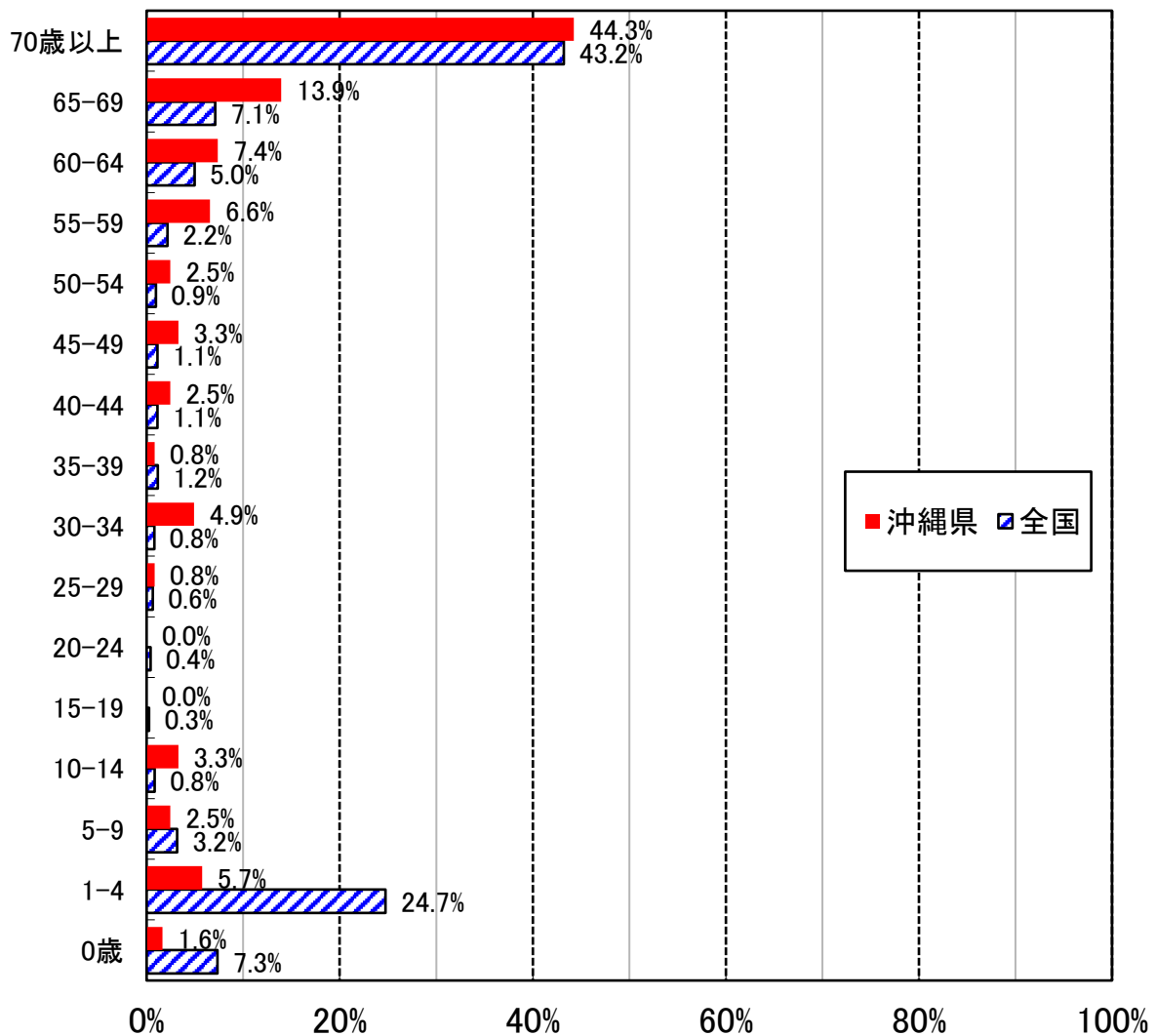
平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
133	165	139	137	102	122



# ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 保健所別発生状況



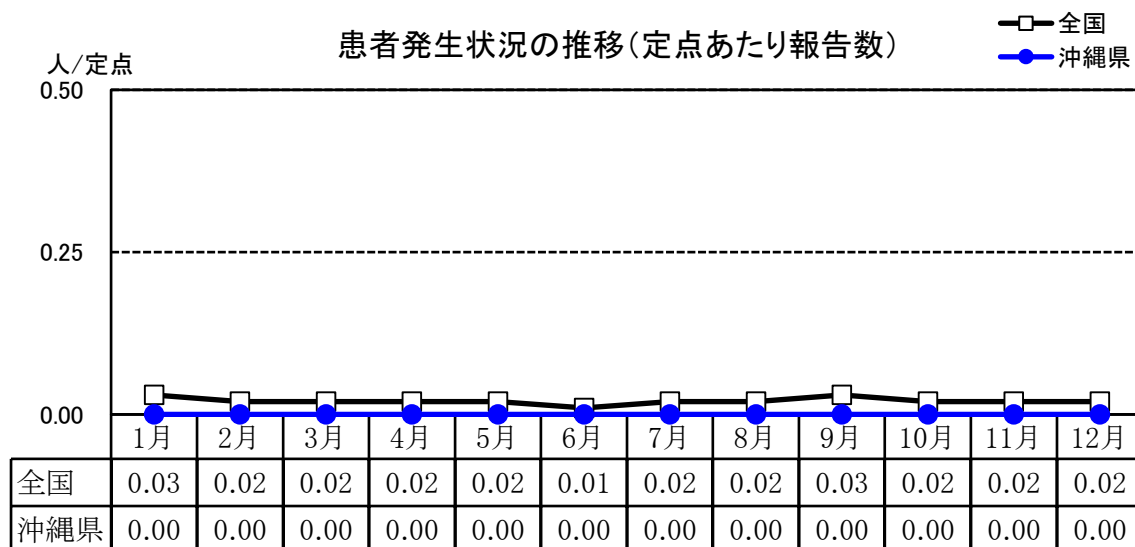
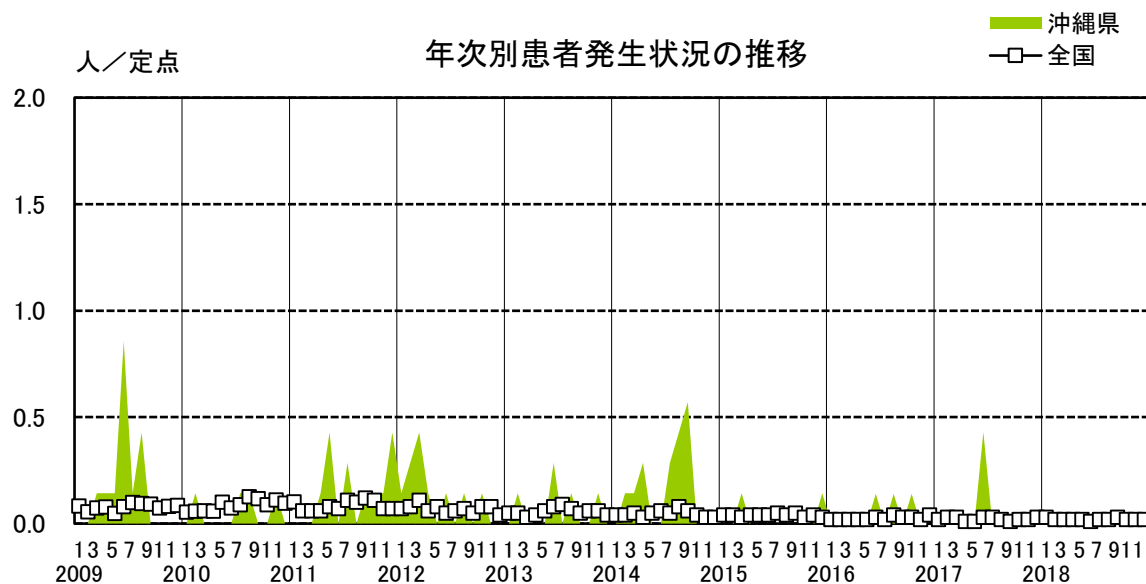
## 年齢階級別割合



## 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は、広域β-ラクタム剤、アミノ配糖体、フルオロキノロンの3系統の薬剤に対して耐性を示す緑膿菌による感染症である。感染防御機能の低下した患者や抗菌薬長期使用中の患者に日和見感染し、敗血症や骨髄、気道、尿路、皮膚、軟部組織、耳、眼などに多彩な感染症を起こす。

2018年県内の報告数は0人、定点あたり報告数は0.00人であった。2014年以降で報告数が最も少なかった。



### シーズン別の報告数合計: 薬剤耐性緑膿菌感染症

平均報告数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
4	13	2	3	3	0

薬剤耐性緑膿菌感染症 保健所別発生状況

人/定点						
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
人/定点	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
報告数	0	0	0	0	0	0

